

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
1	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	キャリアデザインⅠ	赤木 邦江	1	2	<p>大学生活のスタートにあたり、何のために「働く」のか、そして「働く」ということの原動力となるものは何であるか、を考える。大学生活を経て初職に就く時、社会情勢の変化・環境はいつの時代にも厳しさはある。その中で自らの責任と選択により、有意義な人生を築くためのキャリアデザイン(職業人生)の設計・創造は、自己の描く未来への第一歩となる道標を見つけることである。</p> <p>この講義では、「働く」ということの基礎知識を学び、キャリア形成のために、これからの大学生活で求められる学修・知識、ヒューマンスキルを自己理解することを期待する。</p> <p>キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、就業意欲の向上と職業選択の具体的方策を指導する。</p>
2	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	キャリアデザインⅡ	赤木 邦江	2	2	<p>「キャリアデザインⅡ」では、キャリアデザインⅠで学修した『キャリアの見方＝捉え方』をベースに、「働く」ということの原動力を、さらに具体化するために必要とされる自己理解・他者理解・相互理解、そして社会の理解を深め、より多面的に将来の自己のキャリアについて考えていく。職業観・キャリア観を認識する上で、社会の状況や雇用環境、就職を希望する業界の状況など『職業の経済学』の知識を得ることにより、近い将来の初職選択を意義あるものに構築する機会とする。</p> <p>この講義では、自己を取り巻く環境を理解した上で、求められる人財として、自分自身の現在できること、これから取り組むべきことを主体的に熟慮できることを期待する。そして3年次で体験する「インターンシップ」に向け、自己の就業に関する方向性を明確にする力を養成する。</p> <p>キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、就業意欲の向上と職業選択の具体的方策を指導する。</p>
3	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	福山歴史学	八幡 浩二	1	2	<p>福山(備後)地域の遺跡・史跡、指定文化財や博物館の展示品など保存継承されてきた貴重な資料から多面的に歴史像を読み解き、地域の歴史や文化をたどってみる。覚える歴史から、考えて推理し語れる歴史への創造をめざす。また、広島大学埋蔵文化財調査室(現、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門)の勤務経験を活かし、博物館や考古資料に触れながら、講義を進めていく。</p>
4	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	スポーツとメディア	田辺 一洋	1	2	<p>国内では雑誌がどんどん売れなくなり、新聞は全国紙・地方紙とも急速に部数を減らしている。米国新聞協会は2016年秋、組織名を「ニュースメディア連合」に改称した。</p> <p>大学生も含めて「テレビ離れ」も進む。国内に目を移すと2017年には「どこでも、いつでもスポーツ中継」が楽しめるDAZNのサービスが本格化し、スポーツ中継と言えばテレビ画面ではなく、パソコンやスマホ画面が当たり前になった。</p> <p>小学生からシニア世代までスマホを使いこなし、Z世代に至っては「スマホ命」…</p> <p>このように、スポーツコンテンツ(ニュースなど)を伝えるメディアは、紙媒体と放送から通信へシフトしつつある。それと同時に、かつて情報の受け手側だった読者・視聴者は「Twitter」などで、「福山平成大学バレーボール部、全国大会出場決定！」などと、たやすく情報を発信できるようになった。</p> <p>広島での情報誌編集長を経て、スポニチの記者として国内外のスポーツを取材し、続いて中国放送、テレビ東京でスポーツニュース制作などに携わりインターネットでもスポーツ情報を発信中の教員が、カープ、サンフレッチェ広島、JTサンダーズなどの取材現場やオリンピック、サッカー日本代表戦など海外取材現場での経験も交えて、スポーツとメディアの「親和性」(ものごとを組み合わせた時の相性の良さ)について解説する。</p> <p>急速なIT化やDXの推進、AI技術の進化が世の中の仕組みを大きく変える中にあるとしても、スポーツにおいて「人間がプレーする」「人が取材する」という根本のところは(ロボットが試合に参加しない限り)変わらない。ゆえにスポーツとメディアの「親和性」の中からこの先、どんな価値を見出していくか？</p> <p>スポーツコンテンツは巨額の放映権料なども生み出すが、こうしたスポーツビジネスでの「勝ち組み」となるために、今、新聞社も放送局も、動画配信運営サービスの会社も、魅力あるスポーツコンテンツをいかに”囲い込むか”に躍起になっている。</p> <p>その動きを学ぶことで、スポーツとスポーツ報道の持つ特性や広がりを理解するとともに、将来、学校教育現場や地域社会・企業でのスポーツ活動と向き合う際に様々な対応が可能な知識を身に着ける。</p> <p>加えて「スポーツ」は「音楽」「マンガ」「ゲーム」「映画」…と他のキラーコンテンツとの「親和性」においても優れた特性を有し、故にここでもまた様々な「商品」が提供されている。</p> <p>…ということは、情報の受け手側は、どのコンテンツを選択するか、その”眼力”も試される。</p> <p>生活を豊かにしたり、日々の学習にプラスとなるよう活用したり、将来の可能性をより高めたりできるよう、スポーツとメディアという親しみやすいテーマを通して、メディアリテラシーを高めていく。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
5	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	広島スポーツ学	田辺 一洋	1	2	<p>広島スポーツが「国内最強」を誇った時代がある。</p> <p>1928年(昭和3年)、アムステルダム五輪で日本人初の金メダルに輝いた三段跳びの織田幹雄は、広島一中(現広島国泰寺高校)の出身である。当時の広島一中はサッカーでも全国を制し、そのスクールカラー「紫」がサンフレッチェ広島へ引き継がれている。サンフレッチェ広島は2022年4月、創立30周年を迎える。</p> <p>大正から昭和初期にかけ広島スポーツは続々に国内最強の時代を迎え、そして世界へ羽ばたいた。バレーボール、サッカー、野球、陸上競技、水泳…広島各地に競技ごと盛んな地域が誕生したこともあり、スポーツは人々の生活の一部となった。</p> <p>1945年8月6日。人類初の原子爆弾の惨禍により広島は壊滅したが、広島の人々は戦後復興の過程でもスポーツとの関わりをその力に変えた。そして今なお広島はスポーツとともに歩み続ける。</p> <p>2021年秋には国内初の女子プロサッカーリーグ、WEリーグがスタート。サンフレッチェ広島レジーナは、選手を全国からスカウトしてゼロからチームを作り上げた。スポーツの力で、女性の生き方そのものを変えていくという。こうして広島スポーツは新たな歴史を刻んでいく。</p> <p>2024年2月、待望の新サッカースタジアム、エディオンピースウイング広島が誕生した。そのピッチから見上げる広島の青空がどんな意味を持っているか…原爆ドームから徒歩10分圏内…</p> <p>およそ30年にも及ぶカープ取材や、Jリーグの立ち上げから今に至るまで、さらにはサッカーの日本代表戦、アトランタオリンピックなど国内外での取材経験豊富な教員が、世界に挑み続ける広島スポーツ史の中から、身近なエピソードや特筆すべき出来事について紹介する。</p> <p>100年を越えるこうした広島スポーツの歩みは、日本が経験した日清・日露戦争や2度の世界大戦と深く関わり、それ故、スポーツを愛する、応援する、プレーすることが、世界平和を希求する広島の心と重なる。</p> <p>広島とスポーツと平和についての知識を深めることで、学校教育、社会教育の場などにおいて、様々な場面でその知識を活用できる。</p> <p>また、教員が放送局勤務時代に制作した90分スポーツ番組「広島スポーツ100年、最強伝説」を視聴して広島スポーツの根底にある「不動心」や「ライバルの存在」「創意工夫」「特筆すべき指導者のありよう」などについて理解を深めることで、スポーツとの関わり方をより有意義なものとする態度、習慣を身につける。</p>
6	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	海外の言語と文化の研修Ⅰ	渡辺 清美	1	2	<p>本学が提携している海外の大学において開催される語学と文化の研修プログラムに参加することが受講する条件となる。教室で学んだ言語を教室の外で使うことができる環境は、言語運用能力を身に付けるうえで効果的である。語学力向上と同時に、現地での人々との交流を通して、その国の文化やものの考え方などに接することで、グローバルな視野を身に付けることが本科目のねらいである。米国留学など9年にわたる海外生活経験がある教員がその経験を活かして海外研修の指導を行う。</p>
7	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	海外の言語と文化の研修Ⅱ	渡辺 清美	1	2	<p>本学が提携している海外の大学において開催される語学と文化の研修プログラムに参加することが受講する条件となる。教室で学んだ言語を教室の外で使うことができる環境は、言語運用能力を身に付けるうえで効果的である。語学力向上と同時に、現地での人々との交流を通して、その国の文化やものの考え方などに接することで、グローバルな視野を身に付けることが本科目のねらいである。米国留学など9年にわたる海外生活経験がある教員がその経験を活かして海外研修の指導を行う。</p>
8	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	心理学	藤澤 真智	1	2	<p>現代は「心の時代」と言われるように、物質的な物では満たされない心の豊かさを人は求めています。自分自身への不確かさや人間関係への悩みなど、現代人ならではの悩みを誰もが抱え、多くの人が心への関心を強めています。</p> <p>この授業では、「そもそも心理学はどんな学問なのだろうか、心理学で何がわかるのだろうか」といった素朴な関心・疑問に応えつつ、心理学の過去から現在に至る歴史を紐解き、人の心と行動を対象とする基礎心理学を中心に据えながら、今、様々な分野で応用されている心理学のすそ野の広がり概観します。</p> <p>医療、教育、福祉の分野で長年カウンセラーとしての臨床経験を持ち、それを生かしてカウンセリングや心理テストの演習も行います。皆さんの人間理解が深まることでしょう。</p>
9	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国語表現法B	三藤 恭弘	1	2	<p>本授業は「物語」の仕組みを学び、自ら創作できる表現技能の修得を目指す授業である。授業前半で「物語」の仕組みを構造的に分析し、どのような要素が「物語」を成立させているのかを学ぶ。また、学内行事“音楽と物語りのタベ”に参加、鑑賞し感想を書く。後半は、自分自身で物語の材料を収集、構成し、「物語」(原稿用紙10枚)をノートパソコンにて創作、コンクールに応募する。</p> <p>小学校教員志望者は「初等国語Ⅰ」の基礎となるので可能な限り履修すること。また、保育・幼児教育志望者も「幼児の言語と遊び」の基礎となるので可能な限り履修すること。</p> <p>本授業は教育現場における「物語の創作」指導の経験のある教員が、物語論の知見に基づき指導する。</p>
10	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	言語発達論A	川島 範章	1	2	<p>なぜ子どもは生後数年後に流暢にことばを話すようになるのか、人はことばをどのように身につけていくのか？また、なぜ人間だけがことばを使えるのか、ことばの獲得・習得はどのような意味があるのか？</p> <p>本授業では、このようなことばの発達をめぐる問題について、保育・教育の観点から、考察できるようになることが本講義の目標である。本講義では、特に、乳幼児期に焦点を当てて考えていく。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
11	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	言語発達論B	川島 範章	1	2	なぜ子どもは生後数年後に流暢にことばを話すようになるのか、人はことばをどのように身につけていくのか？また、なぜ人間だけがことばを使えるのか、ことばの獲得・習得はどのような意味があるのか？ 本授業では、このようなことばの発達をめぐる問題について、保育・教育の観点から、考察できるようになることが本講義の目標である。本講義では、特に、幼児期以降に焦点を当てて考えていく。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
12	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本語・日本文化	三藤 恭弘	1	2	本授業は現代の日本がどのような文化的文脈の中で形成されてきたのか、昔話や説話、物語を学ぶことでその源流から現代への流れを理解しつつ、あわせて日本語についての知識、理解を深める。本授業は教育現場における「物語の創作」指導の経験のある教員が、物語論の知見に基づき指導する。 (※本授業は留学生用の授業である。)
13	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	備後の経済学	ひろぎんHD 経済産業調査部	1	2	・金融業務、調査業務の経験者が経済・金融・社会全般の動きや地域経済の現状について解説することを通じて、経済を身近な知識として理解を深める。 ・地元経済の状況や企業の具体的な活動について知ることで、備後経済圏の経済・社会に対する理解を深める。 ・企業財務やお金と個人のライフステージの関係を通じて金融に関する理解を深める。
14	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際教養総論A	西川 京子	1	2	この講義のねらいは「持続可能な社会づくり(SDGs)に向けた小中学校地理教育実践」に必要な地理学的教養の修得です。全15回は3部構成で自然地理学、人文地理学、地誌学の順に学んでいきます。地理学の基礎的知識・理解定着のために、毎回小テストに取り組みます。地理学的思考力や技能の向上のため、第15回には一人10分の発表を行い、原稿付きPowerPoint資料と発表会の省察(A4、1枚)を提出します。小・中学校教諭や国内外の教員養成担当者等への研修講師の実績がある教員が、子ども達に学ばせたい地理学的見方・考え方を解説します。
15	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際教養総論B	西川 京子	1	2	この授業では「SDGs(持続可能な社会づくり)に向けた小中学校教育実践」に必要な教養として、解説を踏まえながらテキストを読み進め、世界の各地域文化や問題をグローバルな視点から地理学的に理解していきます。知識理解の定着のために毎回小テストを解きます。地理学的思考力や技能の向上のために第15回には一人10分の発表を行い、原稿付きPowerPoint資料と発表会の省察(A4、1枚)を提出します。小・中学校教諭や国内外の教育改善研修講師の経験のある教員が、子ども達に培いたい地理学的見方・考え方を解説します。□
16	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本史A	大江 和彦	1	2	現役の地理歴史科日本史教員が担当します。中世(室町時代)までの高等学校日本史の発展的内容を、時代順に学修します。政治・社会・経済・文化などの視点を設定し、各時代の特色を、具体的な資料に基づいて科学的に考察します。歴史を学ぶ現代的意義を考えていく授業となります。高等学校で日本史を選択していた人はもちろん、初めて日本史を学んでみたい人も大歓迎です。
17	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本史B	大江 和彦	1	2	現役の地理歴史科日本史教員が担当します。近世から現代までの高等学校日本史の発展的内容を、時代順に学修します。政治・社会・経済・文化などの視点を設定し、各時代の特色を、具体的な資料に基づいて科学的に考察します。歴史を学ぶ現代的意義を考えていく授業となります。高等学校で日本史を選択していた人はもちろん、初めて日本史を学んでみたい人も大歓迎です。
18	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	インターンシップ	児子 正治	3	4	(授業のねらい) 就職活動におけるインターンシップの重要性が年々、高まっています。この授業では、インターンシップへの参加を通じて、自身の興味や特性に見合った就職先の探索、社会人として求められる知識や行動、心構えについて実践的に学びます。 (概要) 企業でインターンシップの経験のある教員が経験を活かして、将来のキャリアを描けるように指導します。
19	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	日本文化入門(茶の湯を通して)	河合 宗滋	1	2	茶道上田宗箇流、家元正教授資格を有した教員が、茶の湯を通して日本文化の素晴らしさを確認し、社会人としてのマナーや常識を身につける為に必要な知識を指導する。又、子供達の基礎教育を担うものとして、日本に伝わる文化を学ぶ為の実習を行う。
20	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際協力論	西川 京子	1	2	現代の国際社会が抱える主要な問題群を解決するための国際協力のあり方について学びます。毎回、国際協力の見方・考え方や知識理解を深めるためのグループワークレポートを提出し、第14回のまとめテストで理解度を図ります。また、一人1回、地球規模の問題とその解決策の成果と課題を調べ、自身が取り組む国際協力計画をたて、10分程度の発表原稿付きPowerPoint資料にまとめ、発表、質疑応答を行います。カンボジアやルワンダにおける国教育開発経験のある教員が国際協力の理論と実際を解説します。
21	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	国際理解教育論	西川 京子	1	2	現代は多様な人、モノ、事が国境を超えて行き交い、一人ひとりの暮らし方が、世界や未来のどこかの誰かの生活や人生に影響を与えています。本科目では、このような社会において、子ども達の自己実現をどのように支援していけばよいのかについて、小学校教諭経験と、国内外の教員養成担当者への研修経験を生かして解説、指導していきます。毎回ワークレポートの提出を課し、次回に解説し、第14回にまとめテストで知識の定着を図ります。第15回には、10分の発表原稿付きPowerPoint資料と発表の省察(A4、1枚)の提出を課し、地球的課題とその教育計画について調べ、考察したことを発表し合います。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
22	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	教養としての世界経済	富士 彰夫	1	2	現代社会に生きる私たちは様々な面で国際経済と密接に関わっています。国際経済の理解は、一般企業人や公務員、教職等をを目指す人はもとより、すべての大学生にとって必要な教養であるといえます。 日本経済が地盤沈下を続けているのはなぜでしょう？為替相場はなぜ動くのでしょうか？ロシアのウクライナ侵攻や米中対立は日本にどう影響するのでしょうか？もっと長い視野でみると、人類はどのように誕生・進化し、豊かさを手に入れたのでしょうか？また、豊かな先進国と貧しい発展途上国に分かれて行ったのはなぜでしょうか？これからの世界はどうなるのでしょうか？…… 本講義では、難しい理論に頼ることなく、広い視点から国際経済を理解し、これらの問いに自分の言葉で語れるようになることを目指します。豊富な海外経験を持つ実務家教員として、事例を示しながら受講者の興味と理解を深めたいと思います。
23	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語A	浅井 智雄	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。 なお、中学校及び高校での教職経験に基づいて、主として音声指導面での工夫をこらすとともに、一人一人の学生の学習状況に応じた授業を展開する。
24	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語B	浅井 智雄	1	1	時事、キャンパスライフ、地域、文化スポーツ等の様々なトピックに関する会話文や記事などの身近でわかりやすい題材を取り上げて、慣用表現や語彙を覚え、実践的な英語力を身につけることを目標とする。 なお、中学校及び高等学校での教職経験を基に、主として音声面での指導上の工夫を凝らすと智に、一人一人の学生の学習状況に応じた授業を展開する。
25	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語A	渡辺 清美	1	1	リーディング、ライティング、リスニングの3スキルを中心に取り組む。 米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして学生が積極的に参加する双方向の授業を行う。
26	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語B	渡辺 清美	1	1	リーディング、ライティング、リスニングの3スキルを中心に取り組む。 米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして学生が積極的に参加する双方向の授業を行う。
27	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語A(上級)	渡辺 清美	1	1	リーディング、ライティング、リスニングの3スキルを主に課題を通して学修する。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
28	一般教育科目 (経営・福祉健康学部)	英語B(上級)	渡辺 清美	1	1	リーディング、ライティング、リスニングの3スキルを主に課題を通して学修する。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
単位数(合計)					52	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
1	一般教育科目 (看護)	キャリアデザインⅠ	赤木 邦江	1	2	<p>大学生活のスタートにあたり、何のために「働く」のか、そして「働く」ということの原動力となるものは何であるか、を考える。大学生活を経て初職に就く時、社会情勢の変化・環境はいつの時代にも厳しさはある。その中で自らの責任と選択により、有意義な人生を築くためのキャリアデザイン(職業人生)の設計・創造は、自己の描く未来への第一歩となる道標を見つけることである。</p> <p>この講義では、「働く」ということの基礎知識を学び、キャリア形成のために、これからの大学生活で求められる学修・知識、ヒューマンスキルを自己理解することを期待する。</p> <p>キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、就業意欲の向上と職業選択の具体的方策を指導する。</p>
2	一般教育科目 (看護)	キャリアデザインⅡ	赤木 邦江	2	2	<p>「キャリアデザインⅡ」では、キャリアデザインⅠで学修した『キャリアの見方＝捉え方』をベースに、「働く」ということの原動力を、さらに具体化するために必要とされる自己理解・他者理解・相互理解、そして社会の理解を深め、より多面的に将来の自己のキャリアについて考えていく。職業観・キャリア観を認識する上で、社会の状況や雇用環境、就職を希望する業界の状況など『職業の経済学』の知識を得ることにより、近い将来の初職選択を意義あるものに構築する機会とする。</p> <p>この講義では、自己を取り巻く環境を理解した上で、求められる人財として、自分自身の現在できること、これから取り組むべきことを主体的に熟慮できることを期待する。そして3年次で体験する「インターンシップ」に向け、自己の就業に関する方向性を明確にする力を養成する。</p> <p>キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設等で社員・職員の採用、教育指導・育成等キャリアコンサルティングの経験と、併せて産業カウンセラーとしての就業支援や心の健康への働きかけ、カウンセリング等の幅広い実務経験を活かし、就業意欲の向上と職業選択の具体的方策を指導する。</p>
3	一般教育科目 (看護)	福山歴史学	八幡 浩二	1	2	<p>福山(備後)地域の遺跡・史跡、指定文化財や博物館の展示品など保存継承されてきた貴重な資料から多面的に歴史像を読み解き、地域の歴史や文化をたどってみる。覚える歴史から、考えて推理し語れる歴史への創造をめざす。また、広島大学埋蔵文化財調査室(現、広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門)の勤務経験を活かして、博物館や考古資料に触れながら、講義を進めていく。</p>
4	一般教育科目 (看護)	スポーツとメディア	田辺 一洋	1	2	<p>国内では雑誌がどんどん売れなくなり、新聞は全国紙・地方紙とも急速に部数を減らしている。米国新聞協会は2016年秋、組織名を「ニュースメディア連合」に改称した。</p> <p>大学生も含めて「テレビ離れ」も進む。国内に目を移すと2017年には「どこでも、いつでもスポーツ中継」が楽しめるDAZNのサービスが本格化し、スポーツ中継と言えばテレビ画面ではなく、パソコンやスマホ画面が当たり前になった。</p> <p>小学生からシニア世代までスマホを使いこなし、Z世代に至っては「スマホ命」…</p> <p>このように、スポーツコンテンツ(ニュースなど)を伝えるメディアは、紙媒体と放送から通信へシフトしつつある。それと同時に、かつて情報の受け手側だった読者・視聴者は「Twitter」などで、「福山平成大学バレーボール部、全国大会出場決定！」などと、たやすく情報を発信できるようになった。</p> <p>広島での情報誌編集長を経て、スポニチの記者として国内外のスポーツを取材し、続いて中国放送、テレビ東京でスポーツニュース制作などに携わりインターネットでもスポーツ情報を発信中の教員が、カープ、サンフレッチェ広島、JTサンダーズなどの取材現場やオリンピック、サッカー日本代表戦など海外取材現場での経験も交えて、スポーツとメディアの「親和性」(ものごとを組み合わせた時の相性の良さ)について解説する。</p> <p>急速なIT化やDXの推進、AI技術の進化が世の中の仕組みを大きく変える中にあるとしても、スポーツにおいて「人間がプレーする」「人が取材する」という根本のところは(ロボットが試合に参加しない限り)変わらない。ゆえにスポーツとメディアの「親和性」の中からこの先、どんな価値を見出していくか？</p> <p>スポーツコンテンツは巨額の放映権料なども生み出すが、こうしたスポーツビジネスでの「勝ち組み」となるために、今、新聞社も放送局も、動画配信運営サービスの会社も、魅力あるスポーツコンテンツをいかに”囲い込むか”に躍起になっている。</p> <p>その動きを学ぶことで、スポーツとスポーツ報道の持つ特性や広がりを理解するとともに、将来、学校教育現場や地域社会・企業でのスポーツ活動と向き合う際に様々な対応が可能な知識を身に着ける。</p> <p>加えて「スポーツ」は「音楽」「マンガ」「ゲーム」「映画」…と他のキラーコンテンツとの「親和性」においても優れた特性を有し、故にここでもまた様々な「商品」が提供されている。</p> <p>…ということは、情報の受け手側は、どのコンテンツを選択するか、その”眼力”も試される。</p> <p>生活を豊かにしたり、日々の学習にプラスとなるよう活用したり、将来の可能性をより高めたりできるよう、スポーツとメディアという親しみやすいテーマを通して、メディアリテラシーを高めていく。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
5	一般教育科目 (看護)	広島スポーツ学	田辺 一洋	1	2	<p>広島スポーツが「国内最強」を誇った時代がある。 1928年(昭和3年)、アムステルダム五輪で日本人初の金メダルに輝いた三段跳びの織田幹雄は、広島一中(現広島国泰寺高校)の出身である。当時の広島一中はサッカーでも全国を制し、そのスクールカラー「紫」がサンフレッチェ広島へ引き継がれている。サンフレッチェ広島は2022年4月、創立30周年を迎える。 大正から昭和初期にかけ広島スポーツは続々に国内最強の時代を迎え、そして世界へ羽ばたいた。バレーボール、サッカー、野球、陸上競技、水泳…広島各地に競技ごと盛んな地域が誕生したこともあり、スポーツは人々の生活の一部となった。 1945年8月6日。人類初の原子爆弾の惨禍により広島は壊滅したが、広島の人々は戦後復興の過程でもスポーツとの関わりをその力に変えた。そして今なお広島はスポーツとともに歩み続ける。 2021年秋には国内初の女子プロサッカーリーグ、WEリーグがスタート。サンフレッチェ広島レジーナは、選手を全国からスカウトしてゼロからチームを作り上げた。スポーツの力で、女性の生き方そのものを変えていくという。こうして広島スポーツは新たな歴史を刻んでいく。 2024年2月、待望の新サッカースタジアム、エディオンピースウイング広島が誕生した。そのピッチから見上げる広島の青空がどんな意味を持っているか…原爆ドームから徒歩10分圏内… およそ30年にも及ぶカープ取材や、Jリーグの立ち上げから今に至るまで、さらにはサッカーの日本代表戦、アトランタオリンピックなど国内外での取材経験豊富な教員が、世界に挑み続ける広島スポーツ史の中から、身近なエピソードや特筆すべき出来事について紹介する。 100年を越えるこうした広島スポーツの歩みは、日本が経験した日清・日露戦争や2度の世界大戦と深く関わり、それ故、スポーツを愛する、応援する、プレーすることが、世界平和を希求する広島の心と重なる。 広島とスポーツと平和についての知識を深めることで、学校教育、社会教育の場などにおいて、様々な場面でその知識を活用できる。 また、教員が放送局勤務時代に制作した90分スポーツ番組「広島スポーツ100年、最強伝説」を視聴して広島スポーツの根底にある「不動心」や「ライバルの存在」「創意工夫」「特筆すべき指導者のありよう」などについて理解を深めることで、スポーツとの関わり方をより有意義なものとする態度、習慣を身につける。</p>
6	一般教育科目 (看護)	海外の言語と文化の研修Ⅰ	渡辺 清美	1	2	<p>本学が提携している海外の大学において開催される語学と文化の研修プログラムに参加することが受講する条件となる。教室で学んだ言語を教室の外で使うことができる環境は、言語運用能力を身に付けるうえで効果的である。語学力向上と同時に、現地での人々との交流を通して、その国の文化やものの考え方などに接することで、グローバルな視野を身に付けることが本科目のねらいである。米国留学など9年にわたる海外生活経験がある教員がその経験を活かして海外研修の指導を行う。</p>
7	一般教育科目 (看護)	海外の言語と文化の研修Ⅱ	渡辺 清美	1	2	<p>本学が提携している海外の大学において開催される語学と文化の研修プログラムに参加することが受講する条件となる。教室で学んだ言語を教室の外で使うことができる環境は、言語運用能力を身に付けるうえで効果的である。語学力向上と同時に、現地での人々との交流を通して、その国の文化やものの考え方などに接することで、グローバルな視野を身に付けることが本科目のねらいである。米国留学など9年にわたる海外生活経験がある教員がその経験を活かして海外研修の指導を行う。</p>
8	一般教育科目 (看護)	言語発達論	川島 範章	1	2	<p>なぜ子どもは生後数年後に流暢にことばを話すようになるのか、人はことばをどのように身につけていくのか？また、なぜ人間だけがことばを使えるのか、ことばの獲得・習得はどのような意味があるのか？ 本授業では、このようなことばの発達をめぐる問題について、保育・教育の観点から、考察できるようになることが本講義の目標である。本講義では、特に、幼児期以降に焦点を当てて考えていく。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。</p>
9	一般教育科目 (看護)	心理学	藤澤 真智	2	2	<p>現代は「心の時代」と言われるように、物質的な物では満たされない心の豊かさを人は求めています。自分自身への不確かさや人間関係への悩みなど、現代人ならではの悩みを誰もが抱え、多くの人が心への関心を強めています。 この授業では、「そもそも心理学はどんな学問なのだろうか、心理学で何がわかるのだろうか」といった素朴な関心・疑問に応えつつ、心理学の過去から現在に至る歴史を紐解き、人の心と行動を対象とする基礎心理学を中心に据えながら、今、様々な分野で応用されている心理学のすそ野の広がりを見学します。 医療、教育、福祉の分野で長年カウンセラーとしての臨床経験を持ち、それを生かしてカウンセリングや心理テストの演習も行います。皆さんの人間理解が深まることでしょ。</p>
10	一般教育科目 (看護)	ボランティア活動論	木宮 高代	1	1	<p>ボランティア活動は、社会のために自分ができることを行うことであり、暮らしや心の豊かさを向上させる重要な活動である。ボランティア活動の内容は多様化しており、活動分野も保健、医療、福祉、地域安全、環境、教育、文化、スポーツなど多岐にわたっている。 この授業では、看護の現場、地域社会の現場、災害の現場においてボランティア活動を実践した教員の経験を踏まえ、ボランティアの理念・目的・意義、現代社会におけるボランティア活動の現状、ボランティア活動を実践する際の基本原則を具体的な内容について講義し、社会の一員としての自覚と倫理観をもち、実際の活動を通して自己責任感や専門職としての基礎的経験学修の基礎力を養う。</p>
11	一般教育科目 (看護)	英語A	浅井 智雄	1	1	<p>グローバル化が進展する中、上手に英語を使って相手とのコミュニケーションをスムーズに展開する能力がより一層求められています。この能力は更に、異文化を理解して、多様な価値観への柔軟な対応力を高めることにも通じます。英語によるスムーズなコミュニケーションを展開させるための努力は、看護医療現場での様々な場面に対応できる力にも応用できるという点で、大変重要です。授業では、継続的に高校英語を復習するとともに、「読む」「聞く」「書く」「話す」活動とその振り返りを通して、語彙文法力を基盤とした実践に役立つ英語力を身につけることを目指します。なお、中学高校教育現場における教職経験がある教員がその経験を活かして、能動的に英語を学習する力の向上という課題への対応を指導する。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
12	一般教育科目 (看護)	英語B	浅井 智雄	1	1	グローバル化が進展する中、上手に英語を使って相手とのコミュニケーションをスムーズに展開する能力がグローバル化が進展する中、上手に英語を使って相手とのコミュニケーションをスムーズに展開する能力がより一層求められています。この能力は更に、異文化を理解して、多様な価値観への柔軟な対応力を高めることにも通じます。英語によるスムーズなコミュニケーションを展開させるための努力は、看護医療現場での様々な場面に対応できる力にも応用できるという点で、大変重要です。授業では、継続的に高校英語を復習するとともに、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」活動とその振り返りを通して、語彙文法力を基盤とした実践に役立つ英語力を身につけることを目指します。なお、中学高校教育現場における教職経験がある教員がその経験を活かして、能動的に英語を学習する力の向上という課題への対応を指導する。
13	一般教育科目 (看護)	英語A(上級)	渡辺 清美	1	1	リーディング、ライティング、リスニングの3スキルを主に課題を通して学修する。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
14	一般教育科目 (看護)	英語B(上級)	渡辺 清美	1	1	リーディング、ライティング、リスニングの3スキルを主に課題を通して学修する。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
15	一般教育科目 (看護)	英会話A	浅井 智雄	1	1	海外からの日本への入国者あるいは、地域のコミュニティに位置づいて日本での生活を継続している外国籍の方が日本の医療機関を訪れた場合、看護師として世界の主要な共通語の一つとしての英語を媒介としてコミュニケーションを成立させる力の育成は欠かすことができない。本授業では、語彙・文法知識の習得を土台として、多様な言語活動を経験することを通じて、将来、看護師を志す学生が医療現場で英語を用いてスムーズに業務を展開できる力を養うことをねらいとする。このねらいを達成するために授業では、基礎的なレベルの語彙や文法を用いて、スピーキング・リスニング・ライティング等を行います。また、自由度の高い創作課題、学生同士の英語を用いたやり取りの場面も設定する予定である。なお、中学校及び高等学校での教職経験に基づいて、英語を用いた実践的コミュニケーション力の向上に資する授業展開を工夫する。
16	一般教育科目 (看護)	英会話B	浅井 智雄	1	1	海外からの日本への入国者あるいは、地域のコミュニティに位置づいて日本での生活を継続している外国籍の方が日本の医療機関を訪れた場合、看護師として世界の主要な共通語の一つとしての英語を媒介としてコミュニケーションを成立させる力の育成は欠かすことができない。本授業では、語彙・文法知識の習得を土台として、多様な言語活動を経験することを通じて、将来、看護師を志す学生が医療現場で英語を用いてスムーズに業務を展開できる力を養うことをねらいとする。このねらいを達成するために授業では、基礎的なレベルの語彙や文法を用いて、スピーキング・リスニング・ライティング等を行います。また、自由度の高い創作課題、学生同士の英語を用いたやり取りの場面も設定する予定である。なお、中学校及び高等学校での教職経験に基づいて、英語を用いた実践的コミュニケーション力の向上に資する授業展開を工夫する。
単位数(合計)					25	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
1	経営学科	キャリア開発論	児子 正治	1	2	(授業のねらい) みなさんが、これからよい人生を生きていくためには、将来のキャリアを考えていく必要があります。人生100年時代と言われているなかで、自律的なキャリアの設計が、より良い未来につながっていきます。そのためには、世の中を知り、自分を知り、何に興味があり、どのような価値観を持っているかを確認することが大事になります。大学時代で自己開発をしながら、未来の働く姿を描いていくための考え方を身に付けることをねらいとします。 (概要) 企業でキャリア開発の経験のある教員が経験を活かして、将来の自律的なキャリア設計が描けるように指導します。
2	経営学科	外書講読	渡辺 清美	2	2	ビジネスおよび経営に関する資料を教材にして、その内容の理解と同時に英語の運用能力をつけることを目的とする。米国留学で大学、大学院を修了し、また英語教員として高校で20年以上勤務していた経験を活かして授業を行う。
3	経営学科	産業・組織心理学	児子 正治	1	2	(授業のねらい) 産業組織心理学の産業とは、将来、就職する様々な業界の企業と捉え、組織とは社員が共通の目的を目指して働く場所であり、心理とは、そのなかで働く人の心理的なメカニズムとなる。このメカニズムを解き明かし、組織や社会をよくするために活用する学問です。産業組織心理学の領域は、大きく分けて人事部門・組織行動部門・作業部門・消費者行動部門の4つに分かれています。みなさんが、長いキャリアを考える上で、4つの領域はとても重要になります。産業組織心理学を全体像を理解し、グループディスカッションで4つの領域を理解し、将来のキャリア形成を描いていくことをねらいとします。 (概要) 企業で人的資源開発の経験のある教員が経験を活かして、将来のキャリア形成の課題や、入社後のキャリアに必要な情報を描けるように指導する。
4	経営学科	経営学総論	小川 長	2	4	経営入門を始め、経営に関する他の講義で学んだ知識をベースに、経営学を総合的・体系的に修得します。 この授業は、大手証券会社における豊富な営業経験と、プロの経営コンサルタント(中小企業診断士)として活躍してきた経歴を持つ教員です。そのキャリアを活かしながら、マネジメント検定試験の公式テキストの内容に沿ってに行われます。 ですから経営学全般の知識修得を目指す学生のみならず、「マネジメント検定試験Ⅲ級」の受験を目指す学生にも必ず役立つ内容です。
5	経営学科	現代企業論	堀越 昌和	2	2	現代企業について学びます。この授業の目的は、二つあります。一つは、「企業とは何か」を理解することです。現代は企業の時代と言われますが、皆さんは「企業」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。この授業では、主に日本の大企業を対象として、企業の基本的な構造や機能について、理論的に理解してゆきます。もう一つは、経済社会のなかで果たすべき企業の役割について、皆さん一人ひとり、あるいは、地域社会とのかかわりを踏まえながら、自分なりの意見を表明できるようになることです。そこで、この授業では、企業経営における経験がある教員により、実際の企業行動がもたらす成果と課題について、事例紹介を通じて、実践的に理解してゆきます。
6	経営学科	デジタルマーケティング	児子 正治	2	2	(授業のねらい) マーケティングは、各時代ごとの企業や人々の課題を解決するために、常に変化を続けています。またマーケティングの定義も変遷し、デジタル技術の急激な進化で、人びとの生活や企業活動にも大きな変化が見られます。授業では、マーケティングの基本を押さえながら、時代で変わるコンセプト、テクノロジーを確認し、デジタルマーケティングを考えていきます。また、ICTを活用した企業や地域コミュニティの取組みを学び、社会に出てデジタルマーケティングを活用して、課題解決ができる考え方や仕組みを身に付けていくことを、ねらいとします。 (概要) 企業で広告・PRの経験のある教員が経験を活かして、デジタルマーケティングを、大学生活や今後の就職活動、社会生活でどのように活かせるかを、指導する。
7	経営学科	流通論	小川 長	2	2	流通とは、生産と消費とを繋ぐプロセスです。そこでは、様々な組織と人が複雑に関わっていますが、その多くは日常生活においてほとんど目にすることはありません。この普段は見えない流通のプロセスについて、事例と理論を通して明らかにしていきます。 この授業を担当するのは、プロの経営コンサルタント(中小企業診断士)として活躍してきた経歴を持つ教員です。企業活動を理解するために、流通プロセスの理解は欠かせません。そのような視点から、事例を取り上げながら流通論の課題について実践的な解説を行っていきます。
8	経営学科	ビジネス実務A	赤木 邦江	2	2	現代社会、特にビジネス社会の中に身を置くには、基本的な秩序やある一定の規範があることを認識しておく必要がある。「ビジネス実務A」では、ビジネス(実務)社会での行動における身の処し方(マナー:行動力・判断力・表現力などの必要とされる資質や言葉遣い、交際、事務技能など)の基本を学ぶ。そうして社会人として必要とされるスキルを身につけていく事によって、就職活動(インターンシップや企業訪問、面接など)に自信をもって進み、自らのキャリア形成を積極的に進めていく力を養成する。 企業における秘書経験、及び教育・キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設などでの社員・職員の教育指導・実務スキルアップ研修を、新人から管理職まで幅広く実施してきた経験を活かし、今後社会・組織人として求められるビジネス実務の教育指導を行う。
9	経営学科	中小企業論	堀越 昌和	2	2	中小企業について学びます。日本企業の99.7%、広島県内企業の99.8%を占めるばかりでなく、本学の就職先にも沢山ある中小企業ですが、皆さんは「中小企業」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。中小企業の多くは、規模こそ小さいですが、地域に欠かせない存在として、小回りの良さを力に変えながら、スピーディーにダイナミックにチャレンジしています。この授業では、中小企業経営における経験を有する教員により、中小企業の特質や課題に関して、事例紹介を中心に、実践的に理解してゆきます。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
10	経営学科	ブランドマネジメント	小川 長	2	2	ブランドを冠している製品やサービスが、高い価格で販売されている例をよく目にします。この授業では、こうしたブランドが価値を生み出す仕組みについて、事例を通して理論や考え方を講義します。 この授業を担当するのは、プロの経営コンサルタント(中小企業診断士)として活躍してきた経歴を持つ教員です。その経験から、ブランドマネジメントにおける様々な課題について、より実践的な解説を行っていきます。
11	経営学科	リテールマーケティング検定講座	小川 長	2	2	私たちの生活はたくさんの商品に囲まれています。それはメーカー(生産者)の努力だけで実現しているわけではありません。商業・流通部門の役割も非常に重要です。本授業のねらいは、履修学生が将来商業・流通部門で活躍できる人材となるように、商業・流通の基礎的知識を修得することと、その達成度合いを測定するために、適宜テストセンター(ネット)で実施されるリテールマーケティング(販売士)検定3級試験に合格することです。 この授業を担当するのは、大手証券会社における豊富な営業経験と、プロの経営コンサルタント(中小企業診断士)として活躍してきた経歴を持つ教員です。企業活動には販売活動が欠かせません。本講では、さまざまな視点からリテールマーケティングについて実践的な解説と演習を行っていきます。
12	経営学科	ビジネス実務B	赤木 邦江	2	2	ビジネス社会においてビジネスパーソン・産業人として求められる秩序や規範の基本を、「ビジネス実務A」で学修したことをベースに、「ビジネス実務B」では、実社会において活用するスキルとしての応用力を身につけていく。ビジネス(実務)社会での行動における身の処し方(資質やマナー、言葉遣い、交際、事務技能等)をより深く理解し、実践できる力によって、今後の自身のキャリア選択を幅広く検討することが出来ることを期待する。 企業における秘書経験、及び教育・キャリアコンサルタントとして、多くの企業・官公庁・各種施設などでの社員・職員の教育指導・実務スキルアップ研修を、新人から管理職まで幅広く実施してきた経験を活かし、今後社会・組織人として求められるビジネス実務の教育指導を行う。
13	経営学科	人的資源管理論	児子 正治	3	2	(授業のねらい) みなさんは、未来の働く姿を描けていますか。やりがいを感じ、働きやすい会社とは、どのような会社ですか。将来、会社選びをする時に、重要な視点になります。企業がどのような想いでヒトを採用し、能力開発から業績につなげ、社内制度や福利厚生を実施していく人的資源管理の仕組みを理解することで、働く姿を描くヒントに繋がっていきます。外部環境の変化で人的資源管理の仕組みも変わり、過去から現在、そして未来の人的資源管理の在り方を考察し、未来の働く姿を描いていくことをねらいとします。 (概要) 企業で人的資源開発の経験のある教員が経験を活かし、将来の職業・会社選択の課題に対して、将来のキャリアを描けるように指導する。
14	経営学科	企業倫理	堀越 昌和	3	2	「企業倫理」について学びます。現代は企業の時代と言われるように、私たちの生活に企業という存在は欠かせません。その一方で、ブラック企業や企業不祥事、環境破壊など、その影響力の大きさゆえに、人類社会や地球環境を脅かすのもまた、企業という存在にほかなりません。この授業では、企業の法令順守における経験がある教員により、企業倫理・コンプライアンス・CSRに関して、事例紹介を中心に学びつつ、現代社会における企業のあり方を考察します。
15	経営学科	ベンチャー企業論	堀越 昌和	3	2	「ベンチャー企業」について学びます。皆さんは「ベンチャー企業」と聞くと、フェイスブックやマイクロソフトなど、誰にも真似のできない革新的なビジネスを新たに創造する企業をイメージするのではないのでしょうか。ベンチャー企業には、そうしたイメージが当てはまる企業も多いことは事実ですが、既存のビジネスを組み合わせることで、地域や産業に変化をもたらす企業もたくさんあります。この授業では、ベンチャーファイナンスにおける経験を有する教員により、ベンチャー企業の創造のマネジメントについて、事例紹介を中心に学んでゆきます。その上で、ベンチャー企業の多様性を理解しつつ、キャリア選択としてのベンチャー起業の具体的方法を検討してゆきます。
16	経営学科	アントレプレナーシップ論	堀越 昌和	3	2	「アントレプレナーシップ」について学びます。アントレプレナーシップは一般に起業家精神のことを指します。独立して開業したり起業する人たちにとってだけ、必要な精神と思われるかも知れませんが、親の事業を継ぐ方や、社内でのプロジェクトを指揮する方など、どんな人にも、アントレプレナーシップは必要とされます。この授業では、起業家教育における経験を有する教員により、アントレプレナーシップに関して、事例紹介を中心に学びつつ、ご自身のキャリアデザインに必要なアントレプレナーシップについて考察します。
17	経営学科	サービスマネジメント	小川 長	3	2	私たちは、日常生活の上で無意識に「サービス」という言葉をよく使っています。サービスとは、人と人とが接する時に必要となる概念なのですが、では、サービスとは何かと改めて問われてみると、意外とぼんやりとした理解しかできていないのではないのでしょうか。そこで、この講義では、日頃よく使われる割には理解されていない「サービス」という概念に焦点を当て、サービスによって成り立っている職業を事例に、サービスがどのような価値を生み出しているかということを考えていきます。 この授業を担当するのは、大手証券会社における豊富な営業経験と、プロの経営コンサルタント(中小企業診断士)として活躍してきた経歴を持つ教員です。企業活動を理解するために、サービスの理解は欠かせません。そのような視点から、事例を取り上げながらサービスのマネジメントについて実践的な解説を行っていきます。
18	経営学科	中小企業研究	堀越 昌和	2	2	地域企業の大半を占める中小企業において、持続的な発展や地域活性化に必要な付加価値創出を担う中核人材の不足感は顕著である。他方で、こうした人材の確保に向けた中小企業の情報発信の不足も指摘される。同時に、本学科の学生は、地元志向が強いものの、各人の地元でどのような中小企業があって、また、どのような事業を行っているのかについての知識が非常に乏しい。そこで、この授業では、地元の中小企業の協力を得て、学生が中心となった中小企業の調査を行っていく。その上で、双方の情報ミスマッチの解消を図り、中核人材を確保したい地域の中小企業と、地域で自らのキャリアを活かしたい学生のニーズの充足を図っていく。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
19	経営学科	コンピュータ会計	井口 芳也	2	2	本講義では、会計ソフトを利用した会計処理能力の習得を目的としている。今日の企業経理の現場において、会計処理の大部分が会計ソフトを利用して行われている。 簿記の仕組みをコンピュータによってシステム化した会計ソフトは、仕訳伝票をデータ入力することによって自動転記し、各種帳票類の作成から財務諸表の作成までを一元的にコンピュータ上で処理することを可能にした。さらに、この数値を利用した経営分析、予算作成、資金管理等は、企業経営における業績管理および意思決定の支援ツールとしてその重要性を広く認識されている。 講義では、税理士業を営んでいる教員が、その経験を生かして会計実務に直結した課題への対応を指導する。
20	経営学科	税務会計論	井口 芳也	3	2	私たちの日常生活に極めて関わりが深く、日常生活を営むうえで必ず直面する税法である「所得税法」の講義を行います。本講義では、基礎的な知識及び計算方法を取得し、実際に活用できるレベルに到達する事を目標に各回の講義を進めます。
21	経営学科	ビジネスゲーム	赤木 邦江	3	2	「ビジネスゲーム」は、ゲーム理論という複数のプレイヤー（個人、企業、政府など）が競争や協力を行う状況や問題を数学によって理論化したものである。主に経済学・経営学などにおいて、様々な経済社会問題を解決するための分析ツールとして、戦略思考を磨く上で役立つ理論である。この講義では、数式をほとんど用いずに、図や表によってゲーム理論の概念や解の求め方などの基本的な理論部分を解説していく（数学の知識不要）。 ゲーム理論の基本である戦略型ゲームの「囚人のジレンマ」から「コーディネーション・ゲーム」「ダイナミック・ゲーム」などを通して、利害が対立する者同士の関係や駆け引きを事例・演習によって理解を促す。 講義中にシミュレーションゲームなどを行う講義ではなく、そのアルゴリズム（解を求める手続き）の基となるゲーム理論の理解・修得を行うものである。 企業等の組織における社員研修・教育コンサルティングの会社を起業して30有余年。主にHRM（人的資源管理）における組織の人財育成・マネジメントのコンサルティングを実践。併せて、大学院研究員として労働経済学では主に若年就業・キャリア研究を、行動経済学では主に組織行動、人的資源管理、消費者行動などゲーム理論を活用した研究をしている教員が指導する。
22	経営学科	基礎演習Ⅰ	本田 良平	1	4	高校までの学びは、教えられること、覚えることが比較的多かったのに対し、大学での学びの多くでは、明確な答えがない中で、皆さんが自分なりに考え、自分なりの答えを出してゆくことが重要になります。その土台として、自ら知識を集め、考え、自分なりの意見や結論を導き出してゆく能力と、意見や結論を自らの言葉で明確にまとめて他の人に分かりやすく伝える能力の涵養が必要です。言い換えれば、文献や資料を精確に読み、自分の考えを的確に伝える、より高度な日本語運用能力が必要になるのです。 本講義では、大学で学ぶための基礎力としての高度な日本語運用能力を、受講者の皆さんが読み、書き両面で身につけることを主な目的としています。この能力の獲得により、情報を広く収集し、正確に吟味したうえで深く思考することが出来るようになり、問題の発見とその解決の能力が高まります。また、精確に読み、的確に書く能力の向上は、相手の話をよく聞き、また相手に言いたいことを十全に伝えるコミュニケーション能力の涵養にもつながります。 さらに、大学生生活は受講者の皆さんが社会の一員たる大人になる準備の期間でもあります。このことから、本講義では受講生の皆さんに将来のキャリアについて意識を持てるようになることや、社会生活に必要な税に関する知識を身につけることも目的としています（そのための講義の一例として、税理士としての実務経験のある外部講師が、その経験を基に、大学生として知っておきたい税の知識に関する授業を行う租税教室があります）。
23	経営学科	海外研修Ⅰ	堀越 昌和	2	2	この授業では、海外勤務経験のある教員が、その経験を活かして、国際経営感覚を身につけた人材の育成に努めることを目的としています。なお、授業の概要は、以下の通りです。事前学習を通じて、国際経営に必要な理論と知識および、現地ビジネスでの問題解決のケーススタディを学習した後、現地研修を実施します。なお、現地研修は、アメリカのハワイ（ホノルル）にて実施、時期は9月を予定しています。
24	経営学科	インターンシップ	児子 正治	3	4	（授業のねらい） 就職活動におけるインターンシップの重要性が年々、高まっています。この授業では、インターンシップへの参加を通じて、自身の興味や特性に見合った就職先の探索、社会人として求められる知識や行動、心構えについて実践的に学びます。 （概要） 企業でインターンシップの経験のある教員が経験を活かして、将来のキャリアを描けるように指導します。
25	経営学科	ゼミナールⅠ	小川 長	3	4	この講義では、まず大企業勤務および経営コンサルタントの経験がある教員による講義と、受講生とのディスカッションによって、次の3つの内容について真摯に考え、理解を深めていく。 ①よい組織とは、どのような組織なのか。 ②よい企業とは、どのような企業なのか。 ③よい経営とは、どのような経営なのか。 そして、それらの知見をもとにゼミ活動に取り組み、応用力と実践力を修得する。 また、ゼミで学んだ知見をもとに卒業研究の計画を策定する。
			児子 正治			（授業のねらい） 経営学は、経済学・心理学・社会学の理論を応用し、経営を良くする学問です。みなさんが社会に出る前に社会人も知らないような理論や、これから重要になる人的資本経営を学び、将来のキャリア設計に約立てることを、ねらいとします。また、働く魅力づくりを考えていきます。 （概要） 企業で人的資源開発の経験のある教員が経験を活かして、将来の職業・会社選択の課題に対して、キャリアを描けるように指導します。
			堀越 昌和			この講義では、中小企業経営について経験のある教員により、次の三つの内容の理解・習得を図っていく。①ケースやビジネスプランを題材として、「中小企業の経営の特長」を理解する。②キャリア選択の一つとしての企業研究を進めていくために必要な「中小企業を診る基本的な視点」を習得する。③中小企業に対する興味関心を深め、卒業研究のテーマを発見する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
26	経営学科	ゼミナールⅡ	堀越 昌和	4	4	この講義では、中小企業経営について経験のある教員により、起業から承継へと至る中小企業のライフサイクルについて、事例紹介を中心に、理解していく。
単位数(合計)					62	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
1	福祉学科	福祉健康科学入門	岡部 真智子	1	2	本授業では、福祉健康科学をキーワードに福祉学科の各教員の研究・実践活動から幅広く学びます。 本講義を通じて、福祉を学ぶ意義やイメージを膨らませ、4年間の福祉学科での学びの基礎づくりを行います。 各回、福祉学科の教員が、福祉健康科学にかかる専門分野について、リレー形式で講義を担当するオムニバス授業です。詳細は1回目のガイダンスで確認して下さい。 実務経験を生かした授業科目:これまでの研究成果・教育活動を踏まえた授業内容とする。
2	福祉学科	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	石黒 慶太	2	2	【授業のねらい】 ・人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 ・ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、ソーシャルワークの基本理念と実践方法について解説する。
3	福祉学科	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	石黒 慶太	2	2	【授業のねらい】 ・ソーシャルワークにおける支援の意義や目的等について理解する。 ・ソーシャルワークにおける面接や記録の意義や目的等について理解する。 ・スーパービジョン及びコンサルテーションの意義、目的及び方法等について理解する。 【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」を基盤にしながら、ソーシャルワークを支援場面において必要とされる「面接」や「記録」をする時の留意点、そして「スーパービジョン」や「コンサルテーション」等の意義や目的について解説する。
4	福祉学科	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	石黒 慶太	3	2	【授業のねらい】 ・総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークについて理解する。 ・ソーシャルワークにおける援助関係について理解する。 ・ネットワークの形成について理解する。 ・ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について理解する。 【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「総合的かつ包括的な支援の考え方」「ソーシャルワークにおける支援関係の形成」「ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発」等について解説する。
5	福祉学科	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	石黒 慶太	3	2	【授業のねらい】 ・ソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロの視点について理解する。 ・さまざまな事例について、多角的な視点をもちながら思考する。 ・ソーシャルワークに関連する技法について理解する。 【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「ソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロの視点」「さまざまな事例について思考する際の多角的な視点をもつことの重要性や留意点」「ソーシャルワークに関連する技法」等について解説する。
6	福祉学科	障害者福祉	石黒 慶太	2	2	【授業のねらい】 ・障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ・障害者福祉制度の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ・障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ・障害による生活課題を踏まえ、障害者支援に携わる者としての支援のあり方を理解する。 【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「障害」の概念と特性を踏まえたうえで、障害者福祉や各法制度の変遷、内容及び課題について解説する。加えて、障害者支援に携わる支援者もしくは障害のある当事者をゲストスピーカーとして招き、ゲストスピーカーの講義から障害者支援の現場について思考する機会を設ける。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
7	福祉学科	高齢者福祉	中司 登志美	2	2	<p>[目的・ねらい] 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 高齢者の特性を説明した上で、高齢者の生活実態や取り巻く社会環境について述べる。その上で、高齢者福祉の歴史を押さえつつ、高齢者の生活を支える法制度を具体的に述べる。更に、地域包括ケアシステムの中で、高齢者、家族、専門職、機関がどのような関係にあり、社会福祉士・介護福祉士としてどう調整すべきかを考えることができる授業にする。 高齢者の医療、介護、福祉を支援内容としていた医療ソーシャルワーカー（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員の資格も所有している）の経験のある教員がこの授業を担当する。</p>
8	福祉学科	医学概論	石橋 亜矢	2	2	<p>[授業の目的・ねらい] 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 健康・疾病の捉え方について理解する。 人の身体構造と心身機能について理解する学習とする。 疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 要介護状態や心身機能に障害を持つ方達の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 予防的活動である公衆衛生も含めた広範に及ぶ医学的領域のなかから、個人や集団を支える対人援助の実践の場で必要な観察力、判断力の根拠となる健康・疾病に関する概念、人体の構造及び機能、疾病に関する基礎的知識を学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。</p>
9	福祉学科	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	石黒 慶太	3	1	<p>【授業のねらい】 ・地域の特性や課題を把握し、解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 ・社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</p> <p>【概要】 本講義では、障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、地域福祉の基盤整備と関係に係る事例を用い、個別指導並びに集団指導を通して、地域アセスメントや評価等の仕組みを学習する。また、事例の検討を通じて、ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関について学習する。また、一連の過程を通じて、社会福祉士としての価値を意識して取り組む。</p>
10	福祉学科	社会福祉援助技術論	中司 登志美	1	2	<p>[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について学ぶ。 コミュニケーションの意義や概要、手法について学ぶ。 病院や介護老人保健施設において社会福祉援助技術を用いて業務を行う医療ソーシャルワーカーの経験のある教員が、その経験を活かして社会福祉援助技術を指導する。</p>
11	福祉学科	介護福祉学Ⅰ	大塚 和美	1	2	<p>【授業のねらい】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を理解するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>【概要】 我が国の介護を取り巻く状況、介護福祉士の役割・守るべき倫理・専門性を学ぶ。 これらを学ぶことを通じて、介護福祉士として専門的知識・技術を実践に活用できる能力を介護福祉学Ⅱと連続して養う。 介護福祉士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かした授業を行う。</p>
12	福祉学科	介護福祉学Ⅱ	大塚 和美	2	2	<p>【授業のねらい】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を理解するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>【概要】 我が国の介護を取り巻く状況、介護福祉士の役割・守るべき倫理・専門性を学ぶ。これらを学ぶことを通じて、介護福祉士として専門的知識・技術を実践に活用できる能力を介護福祉学Ⅰと連続して養う。 介護福祉士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かした授業を行う。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
13	福祉学科	余暇生活支援法Ⅰ	山村 武尊	1	2	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを踏まえた上で、通所介護施設と地域で生活する対象者にはレクリエーションが必要であることを理解する。介護福祉の専門職に求められる能力のひとつである、通所介護施設の要支援者・要介護者を対象にしたレクリエーション援助計画の作成と実施について学ぶ。 介護福祉の基本的理念、地域を基盤とした生活の継続性を支援するしくみを学ぶ。 通所介護の利用者や地域で生活する要支援者・要介護者にとって、レクリエーションはどのような意義があるのかを学ぶ。 それらの方たちを対象にしたレクリエーション援助計画を作成し、実習に臨む。 なお、本科目は高齢者の介護予防活動の経験を持つ教員が、利用者の生活歴や障害例といった背景をもとに生活支援を考える授業を指導する。
14	福祉学科	余暇生活支援法Ⅱ	山村 武尊	2	2	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを踏まえた上で、通所介護施設の利用者や入所施設で生活する者の症状緩和を図るレクリエーションや、多数を対象にしたイベントの計画立案とその実施を学ぶ。 介護を必要とする方たちにとっての余暇生活の意義を振り返り、1年次の実習で実施したレクリエーションの評価を行う。その後、イベントの立案企画準備を通じて、イベントを実施する能力を養う。さらに、症状別アプローチを学び、実習で実施できるように準備を進める。 なお、本科目は高齢者の介護予防活動の経験を持つ教員が、利用者の生活歴や障害例といった背景をもとに生活支援を考える授業を指導する。
15	福祉学科	認知症の理解Ⅰ	中司 登志美	2	2	[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解が得られるように説明する。 認知症専用の介護老人保健施設、精神科病院の精神保健福祉士としての経験がある教員が担当する。現在も3箇所の認知症カフェを運営しているのでその経験も活かして、最新の認知症のケアや認知症に関する情報を授業に反映させる。
16	福祉学科	認知症の理解Ⅱ	中司 登志美	2	2	[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解を深め、介護福祉士としての連携と協働、家族への支援について学ぶ。 認知症専用の介護老人保健施設、精神科病院の精神保健福祉士としての経験がある教員が担当する。現在も2箇所の認知症カフェを主宰しているのでその経験も活かして、最新の認知症のケアや認知症に関する情報を授業に反映させる。
17	福祉学科	こころとからだのしくみⅠ	石橋 亜矢	2	2	[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造や機能を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 人間のこころのしくみを学び、人間の欲求、自己実現と尊厳を理解する。 また、からだのしくみを学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。
18	福祉学科	こころとからだのしくみⅡ	石橋 亜矢	2	2	[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造や機能を学ぶ学習とする。 生活支援技術を実施する際の基本となるこころとからだのしくみを学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 移動に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 身支度に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 食事に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 排泄に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
19	福祉学科	こころとからだのしくみⅢ	石橋 亜矢	3	2	<p>【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造や機能を学ぶ学習とする。 生活支援技術を実施する際の基本となるこころとからだのしくみを学ぶ学習とする。 健康と健康寿命、高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみを学ぶ。 健康とはなにか、健康寿命の意義とは何かを学ぶ。 介護を必要とする人の生活支援を実践するため、対象者がかかえる心身の障害、高齢者に多い主な疾患と生活上の留意点を学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。</p>
20	福祉学科	介護過程Ⅰ	中司 登志美	2	2	<p>利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画（個別援助計画）を立案し、適切な介護サービスの提供ができるようにする。 介護過程の意義や介護過程を展開するための一連のプロセスとアセスメントの視点について基礎的理解ができるように、事例を用いながら学ぶ。 病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーの経験があり、個別支援計画やケアプランの作成経験がある教員がその経験を活かしてこの科目を担当する。</p>
21	福祉学科	介護過程Ⅱ	中司 登志美	2	2	<p>利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画（個別援助計画）を立案し、適切な介護サービスの提供ができるようにする。 介護過程の意義や介護過程を展開するための一連のプロセスとアセスメントの視点について基礎的理解ができるように、事例を用いながら学ぶ。 病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーの経験があり、個別支援計画やケアプランの作成経験がある教員がその経験を活かしてこの科目を担当する。</p>
22	福祉学科	介護過程Ⅲ	中司 登志美	2	2	<p>利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画（個別援助計画）を立案し、適切な介護サービスの提供ができるようにする。 介護福祉実習で情報収集した担当利用者の情報（アセスメント用紙）を用いて、介護過程の実践的展開を理解する。 病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーの経験があり、個別支援計画やケアプランの作成経験がある教員がその経験を活かしてこの科目を担当する。</p>
23	福祉学科	介護過程Ⅴ	中司 登志美	3	2	<p>利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 居宅における要介護者・要支援者に対する介護過程の実践的展開が可能なための学びを行う。また、フォーマルサービス・インフォーマルサービスの協働を理解するためにチームアプローチについて、さらに深い学びを行う。 病院や介護老人保健施設で、医療ソーシャルワーカーとして在宅支援の経験がある教員が担当する。経験を活かして、施設で暮らす人の支援と異なる点や方法を指導する。</p>
24	福祉学科	リハビリテーション論	岡部 正道	2	2	<p>○介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解したうえで、介護の基本である尊厳のある生活や自立支援を踏まえたリハビリテーションを学ぶ。 ○リハビリテーションの理念を意義を正しく理解し、リハビリテーションの考え方や実践を通じた高齢者や障がい者の自立支援・介護予防の方法について学ぶ。 なお、高齢者の介護予防活動の経験を持つ教員が、利用者主体の生活とリハビリを考える視点を持った授業をします。</p>
25	福祉学科	障害の理解Ⅰ	石黒 慶太	2	2	<p>【授業のねらい】 ・障害のある人の心理や身体機能、社会的側面について理解する。 ・障害のある人の地域での生活を理解する。 ・障害のある人の家族や地域を含めた周囲の環境への働きかけについて理解する。</p> <p>【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「障害の基礎的理解」「障害の医学的・心理的側面の基礎的理解」「障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援」等について解説する。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
26	福祉学科	障害の理解Ⅱ	石黒 慶太	3	2	<p>【授業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の心理や身体機能、社会的側面について理解する。 ・多職種連携について理解する。 ・障害のある人の家族への支援について理解する。 ・障害者虐待の実態について理解する。 ・障害のある人のセクシュアリティについて理解する。 <p>【概要】</p> <p>障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「障害のある人の心理や身体機能、社会的側面」「多職種連携や家族支援」「障害者虐待」「障害のある人のセクシュアリティ」等について解説する。</p>
27	福祉学科	リスクマネジメント論	岡部 正道	3	2	<p>○介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解したうえで、要介護状態にある方々の「尊厳ある暮らし」を支えるためのリスクマネジメントの意義について学ぶ。また、介護活動に伴うリスク(危険)に対する安全確保の方策と介護福祉士の責務について学ぶ。</p> <p>○介護における安全の確保とリスクマネジメントとはどのようなことを指し、どのような意味を持つのかを学んだ後、グループワークやケース検討を用いながら介護における安全確保とリスクマネジメントの具体策を学ぶ。</p> <p>なお、高齢者介護の経験を持つ教員が、介護予防の視点を持ちつつ多職種とリスク管理をするための視点を持てる指導を行う。</p>
28	福祉学科	介護技術Ⅰ	松本 末信	1	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>生活支援の理解を伴う介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。自立に向けた移動介護の技術を身につけることで、生活支援技術の応用につながる基礎を学ぶ。</p> <p>介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>
29	福祉学科	介護技術Ⅱ	松本 末信	1	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>要介護者の自立に向けた身じたくと排泄に関連する介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。身じたくと排泄に関する介護技術を身につけることで、生活支援技術の応用の範囲を広げる。</p> <p>介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>
30	福祉学科	介護技術Ⅲ	松本 末信	2	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>要介護者の自立に向けた食事の介護に関連する介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。口腔ケアを含めた食事に関する介護技術を身につけることで、生活支援技術の応用の範囲を広げる。</p> <p>介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>
31	福祉学科	介護技術Ⅳ	松本 末信	2	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>要介護者の自立に向けた入浴・清潔保持と休息・睡眠に関する介護に関連する介護技術の実践の基礎を学ぶ演習を行う。入浴・清潔保持と休息・睡眠に関する介護技術を身につけることで、生活支援技術の応用の範囲を広げる。</p> <p>介護福祉サービスでの介護技術実践を経験に持つ教員が、その経験を生かして実践的に課題に対応する指導を行う。</p>
32	福祉学科	生活支援技術Ⅰ	大塚 和美	2	1	<p>【授業のねらい】</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。高齢期における自律的な生活を送るために必要な介護予防の考え方や福祉用具の活用、居住環境の整備等について学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>生活の理解から、その生活を行っている環境について、また障害に応じた環境の変更や福祉用具の活用について、講義を通し学ぶ。</p> <p>介護福祉士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かした授業を行う。</p>
33	福祉学科	生活支援技術Ⅱ	松本 末信	3	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。運動機能・高次脳機能障害のある人へ尊厳保持の観点から自律の尊重と潜在能力を引き出し、疾病の医学的知識を学び、自立に向けた障害に応じた根拠に基づく介護技術を安全に援助できる技術や知識を習得する。</p> <p>介護福祉士としての実務経験を活かし、実体験に基づいた授業を心掛ける。</p> <p>障害・疾病に関する講義を基に、それらに応じた介護技術の演習を行う。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
34	福祉学科	生活支援技術Ⅲ	石橋 亜矢	3	1	<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践をおこなうための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の概要] ・内部障害の医学的側面の基礎知識を学ぶ。 ・内部障害のある人の生活上の困りごとを学ぶ。 ・内部障害のある人への支援の展開を学ぶ。 ・内部障害のある人への支援の実際として、酸素チューブ・バルーンチューブ・人工肛門造設患者ケアについて対象者と家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を学ぶ。 ・人生の最終段階にある人とその家族をケアする人に、終末期の支援やチームケアの実践を学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。</p>
35	福祉学科	生活支援技術Ⅳ	松本 末信	4	1	<p>障害のある利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>知的障害、精神障害、発達障害、重症心身障害のある人への生活支援の理解を学ぶ。移動場面をはじめ各種生活場面における具体的支援方法について学ぶ。</p> <p>介護福祉士の実務経験をもつ教員が、その経験を活かして支援方法を教授する。</p>
36	福祉学科	生活支援技術Ⅴ	松本 末信	4	1	<p>視聴覚障害者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>視覚障害、聴覚・言語障害、盲ろうといった感覚器障害のある人への生活支援の理解を学ぶ。移動場面をはじめ各種生活場面における具体的支援方法について学ぶ。</p> <p>介護福祉現場にて従事経験がある教員が、その経験を活かして支援方法を教授する。</p>
37	福祉学科	生活支援技術Ⅵ	松本 末信	3	1	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。自立に向けた家事に関する生活支援の基礎知識と技術を習得し、介護保険制度上の居宅サービス提供における実践的な能力を養う。家庭生活の理解、家庭生活の営み、衣類の整理、食品に含まれる栄養の理解、掃除方法、嚥下や咀嚼の困難な要介護者に対する調理方法などの基礎知識と技術を習得する。</p> <p>家事支援の重要性についての講義と共に、買い物・調理実習、裁縫実習、洗濯実習を行うことで家事に関する知識・技術を身につける。</p> <p>介護福祉士としての実務経験を活かし、実体験に基づいた授業を実施する。</p>
38	福祉学科	介護実習指導Ⅰ	大塚 和美	1	2	<p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>介護実習1のための準備を行う。</p> <p>介護福祉現場にて従事経験がある教員が、その経験を活かして実習指導を展開する。</p>
39	福祉学科	介護実習指導Ⅳ	中司 登志美	3	2	<p>・介護実習3の事例をまとめ、報告会を行う</p> <p>・介護実習4に向けた準備を行う(実習事業所についての学習、事前訪問、必要書類の作成等)</p> <p>・介護実習4は、夏休み期間(6日間・46時間)に、小規模多機能型居宅介護事業所、通所介護事業所等で行う。主に自宅で暮らす要支援要介護高齢者を地域でどのように支援しているかを学ぶ。在宅や地域における個別ケアや家族支援のあり方、多職種連携、ケアマネジメントなどについて総括的に理解する。</p> <p>病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーとして在宅支援をした経験がある教員がその経験を活かしてこの科目を担当する。</p>
40	福祉学科	介護実習Ⅳ	中司 登志美	3	1	<p>[授業のねらい] 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎能力を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護実習4(実習Ⅰ)は、地域生活支援を行う小規模多機能型居宅介護事業所、通所介護(デイサービス)等で48時間行い、利用者自身や生活、地域との関わりを把握する。また、独居者への支援や家族と同居している利用者への支援方法を学び、地域における生活支援の実践を学ぶ。そして、地域生活を支える保健・医療・福祉の施設や機関の連携、多職種協働の実践について学び、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>病院や介護老人保健施設で医療ソーシャルワーカーとして地域生活支援に関わったことがある教員が担当する。</p>
41	福祉学科	カウンセリング	大中 章	1	2	<p>この授業のねらいは、「聞き上手になる」ということである。そのためには、共感的な態度と傾聴の技術を身につけなければならない。これらは、専門家の行う心理カウンセリングの基礎であると同時に、福祉サービスの提供をはじめ、学校での教育など、あらゆる対人援助サービスの基礎でもある。「聞き上手になる」ためには、カウンセリングの知識を習得するだけでなく、練習を積み、聞く技術を身につけていく過程が欠かせない。そこで、この授業では、講義と共に、「聞く」ということを実際にやってみる演習も取り入れていきたい。</p> <p>精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
42	福祉学科	福祉用具専門相談員論Ⅰ	大塚 和美	2	2	介護保険では、「利用者本位」「高齢者の自立支援」「利用者による選択(自己決定)」を基本理念として掲げている。 この基本理念をもとに福祉用具についても、高齢者の自立支援、介護者の負担軽減を図る観点から、福祉用具の貸与や特定福祉用具購入費の支給などのサービスが位置づけられており、年々利用者が拡大してきている。このサービスの指定基準(人員基準)において義務付けられているのが「福祉用具専門相談員」である。 福祉用具に関する専門的知識に基づく助言を行う者である「福祉用具専門相談員」を目指し、福祉用具の知識を身に着け、高齢者福祉また障害者福祉の一端を担えるようになる。 なお、介護福祉士として働いていた際の知見を基に授業を行う。
43	福祉学科	福祉用具専門相談員論Ⅱ	大塚 和美	2	2	介護保険では、「利用者本位」「高齢者の自立支援」「利用者による選択(自己決定)」を基本理念として掲げている。 この基本理念をもとに福祉用具についても、高齢者の自立支援、介護者の負担軽減を図る観点から、福祉用具の貸与や特定福祉用具購入費の支給などのサービスが位置づけられており、年々利用者が拡大してきている。このサービスの指定基準(人員基準)において義務付けられているのが「福祉用具専門相談員」である。 福祉用具に関する専門的知識に基づく助言を行う者である「福祉用具専門相談員」を目指し、福祉用具の知識を身に着け、高齢者福祉また障害者福祉の一端を担えるようになる。 なお、介護福祉士として働いていた際の知見を基に授業を行う。
44	福祉学科	福祉研究A	岡部 真智子	4	2	社会福祉士養成にかかる講義系科目の基礎的な知識、技術、価値を理解する。 実務経験を生かした授業科目:社会福祉士資格を有する教員により、相談援助専門職に不可欠な知識・技術・価値を伝達する。
			大塚 和美			・介護福祉士養成にかかる講義系科目の基礎的な知識、技術、価値を理解する。 ・その上で、介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 実務経験を活かした授業科目:介護福祉士資格を有する教員により、介護福祉士に不可欠な知識、技術、価値を伝達する。
45	福祉学科	福祉研究B	石田 咲子	4	2	社会福祉士国家試験の専門科目の学習を通して、社会福祉士に求められる価値・知識・技術を学ぶ。さらに、社会福祉士国家試験の合格に向けた試験対策を行う。 実務経験を生かした授業科目:社会福祉士資格を有する教員により、相談援助専門職に不可欠な知識・技術・価値を伝達する。
			大塚 和美			・介護福祉士国家試験の学修を通して、介護福祉士に求められる知識、技術、価値を学ぶ。 ・介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 実務経験を活かした授業科目:介護福祉士資格を有する教員により、介護福祉士に不可欠な知識、技術、価値を伝達する。
46	福祉学科	福祉研究C	石田 咲子	4	2	社会福祉士国家試験の専門科目の学習を通して、社会福祉士に求められる価値・知識・技術を学ぶ。さらに、社会福祉士国家試験の合格に向けた試験対策を行う。 実務経験を生かした授業科目:社会福祉士資格を有する教員により、相談援助専門職に不可欠な知識・技術・価値を伝達する。
			大塚 和美			・介護福祉士国家試験の学修を通して、介護福祉士に求められる知識、技術、価値を学ぶ。 ・介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 実務経験を活かした授業科目:介護福祉士資格を有する教員により、介護福祉士に不可欠な知識、技術、価値を伝達する。
47	福祉学科	福祉研究D	岡部 真智子	4	2	社会福祉士養成にかかる講義系科目の応用可能な知識、技術、価値を理解する。 実務経験を生かした授業科目:社会福祉士資格を有する教員により、相談援助専門職に不可欠な知識・技術・価値を伝達する。
			大塚 和美			・介護福祉士養成科目の応用可能な知識、技術、価値を理解する。 ・介護福祉士国家試験合格に向けた試験対策を行う。 実務経験を活かした授業科目:介護福祉士資格を有する教員により、介護福祉士に不可欠な知識、技術、価値を伝達する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
48	福祉学科	認知症カフェ運営特講	中司 登志美	3	2	<p>[授業の目的・ねらい] 2012年から広く日本に広まった認知症カフェは、全国に約8千カ所になった。 10年の経過の中で多様な認知症カフェが誕生する一方で、認知症カフェの役割や機能を理解しないまま数の整備だけを推進している行政も散見する。 まず認知症を正しく理解すること。そのうえで、認知症カフェの役割や機能を理解すること。そして運営方法について学ぶこと。いずれ、地域や職場のなかで認知症カフェを開設できる準備とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・認知症の基礎的理解。 ・認知症当事者から生活の困りごとを学ぶ。 ・認知症当事者の生活の工夫を学ぶ。 ・介護者支援を考える。 ・住民の認知症教育を考える。 ・認知症カフェを取り巻く状況、歴史を学ぶ ・認知症カフェの役割、機能を理解する。 ・認知症カフェの運営方法を学ぶ。 認知症専用の介護老人保健施設や精神科病院の精神保健福祉士としての経験があり、3箇所の認知症カフェを立ち上げ、運営の経験がある教員が担当する。</p>
49	福祉学科	ノーマライゼーション特講	岡部 真智子	3	2	<p>本授業では「ノーマライゼーション」をキーワードに、住まい・まちづくり、障害者スポーツの領域について、アクティブラーニングの形式で学ぶ。 学生が自ら課題を設定し、主体的に課題解決に取り組む。 実務経験を生かした授業科目:これまでの研究成果・教育活動を踏まえた授業内容とする。</p>
50	福祉学科	医療ソーシャルワーク特講	石橋 亜矢	3	2	<p>[授業のねらい・概要] 保健・医療・福祉の人的資源と財源が限界を迎えている中で、人々の医療・介護ニーズは増大し、多様化・複雑化している。このような現状において、医療福祉職は関連職種と連携して幅広く対応する力が求められている。 本講義では、社会福祉士のなかでも医療ソーシャルワーカーの機能と役割を学習する。また、臨床経験者よりチームアプローチの方法や相談援助の技法を修得する。 医療ソーシャルワーカーとして実務経験のあるゲスト講師の授業(6回目、12回目)を予定している。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。</p>
51	福祉学科	医療的ケアⅠ	石橋 亜矢	3	2	<p>[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医療的ケアⅠでは、医療的ケア実施の基礎的知識として、関連する制度、医療的ケアと関連付けた個人の尊厳と自立、倫理上の留意点、チーム医療と連携、利用者の安全な療養生活・感染予防を学び、根拠に基づく「たんの吸引」の手順の基礎的知識と技術を学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。</p>
52	福祉学科	医療的ケアⅡ	石橋 亜矢	4	2	<p>[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医療的ケアⅡでは、喀痰吸引と経管栄養という医行為を根拠に基づく手技で実施できるよう、基礎的知識と実施手順方法を学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。</p>
53	福祉学科	医療的ケアⅢ	石橋 亜矢	4	1	<p>[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医療的ケアⅢでは、喀痰吸引と経管栄養という医行為を根拠に基づく手技で実施できるよう、演習を中心に基礎的知識と実施手順方法を学ぶ。 「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生」の演習を行う。 ・口腔内吸引:5回以上 ・鼻腔内吸引:5回以上 ・気管カニューレ内部の吸引:5回以上 ・胃ろうによる経管栄養:5回以上 ・経鼻経管栄養:5回以上・救急蘇生法:1回以上 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
54	福祉学科	介護概論	大塚 和美	2	2	人権を基盤とした介護を理解し、介護福祉を支えている、または関わっている法制度やサービスを理解する。そのサービスの担い手である専門職や介護支援の実践、具体的な方法などを理解する。これらの理解を通して、誰もが避けて通ることができない『介護』について、理解を深めていく。 なお、「知る」「習得する」「考える」「振り返る」を繰り返し、介護に関する知識と技術を身につけられるように学ぶ。 介護福祉士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かした授業を行う。
55	福祉学科	基礎演習Ⅰ	中嶋 裕子	1	2	この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習Ⅰにおいては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。 なお、医療現場での実務経験を持つ教員がゼミを担当する。実務経験を活かし、学生のキャリア形成を支援する。 また、現場での課題や事例を紹介し、学生の学習意欲を喚起する。
			石橋 亜矢			この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習Ⅰにおいては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。
			石黒 慶太			この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習Ⅰにおいては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。 なお、障害者福祉現場での実務経験を持つ教員がゼミを担当する。実務経験を活かし、学生のキャリア形成を支援する。 また、現場での課題や事例を紹介し、学生の学習意欲を喚起する。
			松本 末信			この授業のねらいは、自ら進路を考え、大学で必要になる学習技能(「読む」・「書く」・「表現する」)を身につけることである。基礎演習Ⅰにおいては、前期で履修モデル選択のためのキャリア学習を行う。後期においては将来展望を描いたうえで専門教育に備える基礎学力向上を目指す。 なお、医療現場での実務経験を持つ教員がゼミを担当する。実務経験を活かし、学生のキャリア形成を支援する。 また、現場での課題や事例を紹介し、学生の学習意欲を喚起する。
56	福祉学科	基礎演習Ⅱ	藤島 法仁	2	2	授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」・「書くこと」・「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			崔 銀珠			授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」・「書くこと」・「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。福祉現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			梶原 豪人			授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」・「書くこと」・「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。医療現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
			大塚 和美			授業のねらいは、基礎演習Ⅰで培った「読むこと」・「書くこと」・「表現すること」を中心とした学習技能を土台として、自らの将来展望に密接に関わらせて設定した課題を、協働的取り組みを通して解決しようとする姿勢を身につけることである。課題設定を出発点に、グループワークを中心として、情報の収集・整理、分析・考察を経て、課題解決に繋がる知見を探る。この過程では、文献や資料の検索のみならず、招聘外部講師の講話の受講、関連施設への訪問等の社会資源の活用あるいは、場面を設定した上での実技演習等も経験する予定である。また、取組の過程と成果を公表する場として、中間発表を設定することによって、進捗状況を自覚するとともに、最終発表に結びつける。介護現場での就業経験のある教員がその経験を活かして、キャリア教育に役立てる。また、現場における課題について言及し、学生の学習意欲を喚起する。
57	福祉学科	専門演習Ⅱ	岡部 真智子	4	4	各自のテーマに即した卒業論文の執筆上の指導、調査活動の指導・助言を行う。途中経過を確認しながら、ゼミ生相互のピアレビューを進める。 実務経験を生かした授業科目：研究を行っている教員が持つ研究の方法論を伝達する
単位数(合計)					101	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
1	こども学科	保育者論	中原 大介	1	2	現代社会において求められる保育者の役割と責務について、その歴史と社会的背景をベースとしながら学習する。また、自身の保育者としてのアイデンティティーを確立していくために求められる専門性や資質について概観し、キャリアパスを視野に入れながらその実際について学習する。
2	こども学科	教育心理学	川島 範章	1	2	教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「学習評価(教育評価)」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本授業では教育心理学の基礎的な知識を学ぶ。 幼児および児童が主体的な学習活動を支援するために必要なそれぞれの発達段階における 心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解することを目的とする。また、各発達段階に応じた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解することを目指す。 その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
3	こども学科	子ども家庭支援の心理学	川島 範章	1	2	乳幼児期は発達において重要な時期であり、また、家庭をはじめとする環境の影響を大きく受ける時期でもあるため、幼稚園教諭・保育者は子どもの心身の発達過程を理解する必要がある。そこで、本講義では子どもの発達と家庭支援について、心理学的観点から、①生涯発達、②家族・家庭、③子育て家庭の現状、④子どもの精神保健の4つのテーマを取り上げ、子どもと家庭の支援のあり方を理解することを目指す。 また、子どもの発達と家庭支援に関する心理学の基礎的知識の獲得を目指すことに加え、子育て家庭に関する課題を自分自身と関連付けて考えたり、現代の社会状況を分析したりすることができることを目指す。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
4	こども学科	特別支援教育論	矢野川 祥典	1	2	担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を活かし、特別支援教育に関する理念や制度、各障害の特性と支援内容等について講義する。特に通常学級に在籍している発達障害や知的障害のある幼児、児童及び生徒の障害特性と心身の発達、「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法及び配慮、すなわち「合理的配慮」について学ぶ。 また、肢体不自由や病弱、視覚障害や聴覚障害、言語障害等を有する幼児、児童及び生徒の障害特性と心身の発達、援助・支援方法及び配慮のあり方について学び、インクルーシブ保育、インクルーシブ教育に関する理解を深める。 さらに、障害を有する子どもの「困りごと」や保護者の「困りごと」に対応するため、関係機関との連携の必要性について学ぶ。
5	こども学科	幼児理解	川島 範章	1	2	幼児理解は幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。まず、幼児理解の基本となる子どもの発達や学習に関する心理学の理論を理解することを目指す。加えて、幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度に関して、臨床心理学におけるカウンセリングの基礎的な知識を習得する。 また、幼児理解の具体的な技法である観察と記録の方法を理解し、映像や事例を基に実際に分析・考察を行う。 その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
6	こども学科	基礎演習Ⅰ	永井 純子	1	1	基礎演習は、大学1年生のための導入教育として開講される授業である。目標を持って大学生活を主体的に学修する意欲を高めるとともに、実務経験のある教員(公立中学校での勤務経験(8年間))の指導により、必要な基礎的知識および汎用的技能の習得をはかる。また、最近の子どもを取り巻く課題等について少人数での意見交換やグループ活動を行い、思考力や表現力を培うとともに、教師や友人との良い人間関係力の育成をはかる。
			川島 範章			基礎演習Ⅰは大学での導入教育として開講される授業であり、高校と大学の学びの橋渡しをすることを目的とする。大学生活や大学での学びについて理解し、大学での学びに必要とされる基礎的なスキルを習得することを目的とする。また、大学の4年間の学びを方向付けるために、キャリアデザインについても取り組む。 キャリアデザインについては、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
			足立 登志也			本授業は、目的をもって大学での学びに取り組み、4年間の学修を円滑に図るための意識の持ち方、学びの方法、ルール、マナーなど基礎的知識、基本的技能を身につけるとともに、保育・教職履修カルテで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。授業においては、保育・教育の実践現場に出た時のことを想定して、豊かなコミュニケーション能力や主体的、積極的な態度の形成を重視する。 なお、本授業は小学校勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
			矢野川 祥典			基礎演習Ⅰは、大学での導入教育として開講される授業である。大学生活における学修に慣れるとともに、授業の履修方法や文献検索の方法、レポートの書き方や発表の仕方など学び方の基本やルールを習得すること等、授業全般を通して確認していく。 そして、自らの力で4年間の学習や生活に見通しを持ち、目標を立て、計画、実行していけるよう実践的に学ぶ姿勢を培っていくことを目標とする。 担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、発達が気になる子どものみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、理解を図る。
			西川 京子			この授業では、学生が乳幼児や児童を対象に「絵本から広がる遊び・学び」を企画・実践・省察します。小中学校や生涯学習の実践経験と、国内外の教諭や行政・教科書担当者への研修経験のある教員が「豊かな遊び・学びと確かな育ち」の場づくりを指導します。子どもや教材や保育・教育を研究・実践する学科での学び方の基礎を会得しながら保育・教育者に必要な創造・実践・表現力とは何かを共に考えましょう。
			佐伯 岳春			・大学で学んでいくために必要な知識やスキルを教員から学ぶ。また、キャリアを模索する1年次にあたって、社会に出て必要と考えられる自分自身の個性を形成していく知識、スキル、その表現方法について理解を深める。 ・演習で、他者とのディスカッションやICT機器の活用をとおして学び、円滑な学生生活の基盤形成を目指す。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
7	こども学科	基礎演習Ⅱ	永井 純子	2	1	実務経験のある教員(公立中学校での勤務経験(8年間))が将来の進路選択に向けて情報提供を行い、目標を具体化させる。大学での授業、実習、模擬試験等から進路を明確化するとともに、就職への準備を開始する。そのために必要な実践的な演習を行い、基礎的知識・技能を習得する。また、個別指導やグループディスカッション等により、思考力や表現力、課題解決力を育成する。
			川島 範章			将来の進路選択に向けて情報提供を行い、目標を具体化させる。大学での授業、実習、模擬試験等から進路を明確化させるとともに、就職への準備を開始させる。そのために必要な知識・技能に関する助言を行う。 また、実習で必要な文章作成に関する指導を行う。 キャリアリサーチについては、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
			足立 登志也			「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学での専門的な学習のために必要とされるスタディ・スキルズの中でも、特に読むことと書くことを実践的に習得することをねらいとする。なお、本授業は小学校勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
			矢野川 祥典			・1年次の基礎的な学びを基盤とし、興味・関心のある事柄について文献を読み、考察する力を高める。 ・子どもとの関わりを通して得た気づきなどからテーマを選び、レポートにまとめる力を高めることを目指す。 ・保育者・教育者に求められる他者と協働していく力をつけるために、ゼミ学生が協力して実践する活動を行う。 ・担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、発達が気になる子どものみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、活用方法の理解を図る。
			西川 京子			この授業では、学生が乳幼児や児童を対象に「絵本から広がる遊び・学び」を企画・実践・省察します。小中学校や生涯学習の実践経験と、国内外の教諭や行政・教科書担当者への研修経験のある教員が「豊かな遊び・学びと確かな育ち」の場づくりを指導します。保育・教育者に必要な子どもや教材の理解を深め、創造・実践・表現力を共に高めましょう。
			佐伯 岳春			・キャリア形成に必要な情報や、身につける知識やスキルを整理し、選択し習得することを目指す。また、他者とICTによるコミュニケーションをとおし、社会に出て必要と考えられる自分自身の理解を深める。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る。
8	こども学科	専門演習Ⅰ	三藤 恭弘	3	2	本授業は、卒業論文を執筆するための基礎的知識・基本的技能を身につけるとともに、ディプロマポリシーで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。 授業では、言葉に関わる保育・教育、また言葉に関わる文化や物語的な社会事象、あるいは教育全般に関わって課題を発見し、文献を収集、卒論作成を進めるとともに、就職に向けての実務的な学修、準備もおこなう。 なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			川島 範章			本授業では、受講生の関心や進路の希望を考慮しながら、卒業論文作成に向けたテーマ設定と研究計画の作成を行う。卒業論文作成のために必要な知識・技能の習得、基本的な資料の収集、自身の関心の明確化などを行うことを目的とする。また、キャリア形成のため、地域の学校等の調査や見学を行い、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を行う。
			伊藤 憲孝			演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、子ども・児童を取り巻く音楽的現状を把握するとともに、卒業研究発表に向けて、研究にはどのような方法があるのか等々、本演習では問題の焦点化、方法の吟味、分析方法の紹介を演習形式でとりながら行うことにより、卒業研究表をするための基礎的能力を育成することを目的とする。なお、卒業研究では【演奏】【論文】のどちらを選択することとする。
			足立 登志也			本授業は、卒業論文を執筆するための基礎的知識・基本的技能を身につけるとともに、保育・教職履修カルテで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。授業では、生活科や総合的な学習の時間の内容、意義、指導法を中心に小学校で進める授業や学級経営について、文献を収集したり、レポートを作成したりする。また、それをもとにしてディスカッションを行い、論文作成の準備をするとともに、就職に向けての情報収集も行う。 なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			矢野川 祥典			本授業では、受講生の関心や進路の希望を考慮しながら、卒業論文作成に向けたテーマ設定と研究計画の作成を行う。卒業論文作成のために必要な知識・技能の習得、基本的な資料の収集、自身の関心の明確化などを行うことを目的とする。 担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、「発達が気になる子ども」のみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、より実践的な活用方法の理解と習得を図る。
			西川 京子			この授業では、興味関心や希望進路、これまでの経験や体験活動、先行研究に基づいてテーマを決め、製作または卒業論文研究を進めていきます。研究計画発表や研究テーマからの実習の考察により論文構成を改善しながら、卒業論文本文または作品の案を提出します。小中学校や生涯学習における教材開発や実践研究と、国内外の学生や教諭や行政・教科書担当者の研究指導の経験がある教員が保育(環境領域)・社会科教育・特別活動・ESD for 2030に関する研究方法を指導します。より良い保育・教育と一緒に考えていきましょう。
			佐伯 岳春			・子どもの造形的な視点や考え方を学び、子どもの発達段階に合わせ、生活や社会のなかで形や色と豊かに関わる資質・能力を育成するには、何をすべきかについて考える。 ・興味があることや卒業後の進路に活かせる研究テーマをゼミでのディスカッションやグループワーク等で深め、卒業制作、卒業論文の作成を進める。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
9	こども学科	専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）	古賀 一博	4	4	学生が「専門演習Ⅰ」で学んだことを生かして、卒業研究にふさわしいテーマを決定し、計画的に調査研究活動を進め、卒業論文を完成させることができるよう、また、卒業論文発表会において効果的な発表ができるように支援することをねらいとする。 具体には、卒業論文のテーマを決定して研究計画書を作成し、各自で調査研究を進めて行き、6月に卒業論文中間発表会を行う。卒業論文を仮完成させた後に丁寧に推敲を行い、より良い論文として完成させる。完成後は、要旨や発表会用スライドを作成し、卒業論文発表会において効果的な発表ができるようにリハーサルを行う。 また、調査研究を進めていく上では、教育現場経験のある教員が、日本の学校教育について教育現場の実情に即した視点の提供や助言を行う。
			三藤 恭弘			本授業は、卒業論文を執筆するための基礎的知識・基本的技能を身につけるとともに、ディプロマポリシーで求められる知識、技能、資質、能力の修得を進めることをねらいとする。 授業では、言葉に関わる保育・教育、また、言葉に関わる文化や物語的な社会事象、あるいは教育全般に関わり課題を発見し、文献を収集、卒論作成を進めるとともに、就職に向けての実務的な学修、準備もおこなう。 なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			川島 範章			本授業では、受講生の関心や進路の希望を考慮しながら、卒業論文の完成に向け、自分の関心を明確にし、基本的な資料の収集、論文作成のために必要な知識・技能の習得などを行う。4年間の学習の成果を卒業論文という形にまとめることを目的とする。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
			伊藤 憲孝			演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、子ども・児童を取り巻く音楽的現状を把握するとともに、卒業研究発表に向けて課題を吟味するためにはどのような方法があるのか等々、本演習では問題の焦点化、方法の吟味、分析方法の紹介を演習形式でとりながら行う。卒業研究発表に即した発展的能力を育成することを目的とし、その成果を卒業研究発表としてまとめる。
			足立 登志也			本授業は卒業論文作成することを主要な目的とするとともに、保育・教職履修カルテで求められる知識、技能、資質、能力の修得をねらいとする。 授業では、各自の論文に関する課題の発見、考察、探究を行い、発表・討議を繰り返すことを通して卒業論文を作成するとともに、就職に向けた実践的な準備を進める。 なお、本授業は小学校勤務経験の教員がその知見を用いて指導する。
			矢野川 祥典			本演習では、学生の興味・関心や進路の希望を考慮し、卒業論文の作成に取り組む。卒業論文完成のために、研究計画を立て、それに基づき資料収集や調査を行い、データを集め分析する。得られた結果から考察を行い、論文としてまとめる。 担当者は特別支援学校において、実際に教育支援に携わってきた経験を有する。この経験を生かし、発達が気になる子どものみならず、通常の保育・教育現場にも共通する「視覚支援」や「構造化」といった援助・支援方法、配慮のあり方について紹介し、より実践的な活用方法の理解と習得を図る。また、インクルーシブ保育・教育について、より理解を深める機会とする。
			西川 京子			この授業では、専門演習Ⅰの成果と課題を踏まえて研究を進め、本文または教具や作品等、抄録、スライドを完成させ、卒業論文研究発表会で発表、質疑応答を行います。小中学校や生涯学習における教材開発や実践研究と、国内外の学生や教諭や行政・教科書担当者の研究指導の経験がある教員が保育（環境領域）・社会科教育・特別活動・ESD for 2030に関する研究方法を指導します。より良い保育・教育と一緒に考えていきましょう。
			佐伯 岳春			・自身の興味ある分野や卒業後の進路に活かせる研究テーマを考察し、卒業研究として制作または、論文を作成する。 ・研究の内容をICTを用いて分かりやすく広く社会に発信できる方法などを考察する。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術を指導し、創造力の育成を図る。
			黒木 貴人			「専門演習Ⅰ」で学んだことを生かして、卒業研究にふさわしいテーマを決定し、計画的に調査研究活動を進め、卒業論文を完成させるとともに、卒業論文発表会において効果的な発表ができるようになることをねらいとする。 各自で調査研究を進めて行き、6月か7月に卒業論文中間報告を行う。 卒業論文を仮完成させた後に丁寧に推敲を行い、より良い論文として完成させる。完成後は、要旨や発表会用スライドを作成し、卒業論文発表会において効果的な発表ができるようにリハーサルを行う。
10	こども学科	保育キャリア演習Ⅰ（保・幼）	川島 範章	3	1	保育者として必要な保育実践力の基礎を学修することで、自らのキャリアに対する意識を高めていくことを目的とする。 就職活動のスタートアップとするとともに、子どもを理解することや保育者のかかわりについて学修を深める。 「落ち葉を拾って遊ぼう」などの実践をとおして、保育者として子どもに向けた総合的な表現を構想する力を身に付ける。 近隣の幼稚園と協力して学習を進めていく。
11	こども学科	保育キャリア演習Ⅱ（保・幼）	中原 大介	4	1	保育者として必要な保育実践力の基礎を確認し、活用することで、自らのキャリアに対する意識を深めていくことを目的とする。ゲストスピーカーとしての現場の園長・保育者を交えてのグループ討論、保育現場の観察・参加、子育て広場への参加等を通して、保育者としての職務、保育観・こども観についての理解を深める。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
12	こども学科	教育キャリア演習Ⅰ（小）	三藤 恭弘	1	1	<p>小学校教員に求められる「資質・能力」の実際を知り、その「資質・能力」の基盤を育むとともに、自分との職業マッチングについて検討することをねらいとする。</p> <p>「資質・能力」の基盤を育むことを目的とするため、基礎的知識・技能はもちろん、実技や社会的教養等幅広く身に付けていく。</p> <p>授業は集中講義との併用で進めて行く。</p> <p>なお、本授業は小学校現場において20年以上勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。</p>
13	こども学科	教育キャリア演習Ⅱ（小）	古賀 一博	4	1	<p>「こども実務演習B」の内容をさらに発展させ、学校現場の経験がある教員が、その経験を生かして、小学校教員志望者を対象に、初任者教師として即戦力となる実務の演習を通して受講学生が小学校教員として最低限どの能力を具備することができるような支援を行う。</p> <p>3年間の自己の学びの振り返りを行い、教師に必要とされる資質のうち、自分に足りないものを自ら再確認できるよう支援する。そのうえで、主体的・協働的な学びを通して、教師としてふさわしい表現技法、国や任命権者の教育政策の学習、学習指導案の即興的作成と模擬授業などを準備提供し、上述した各種能力獲得の支援を行う。</p>
14	こども学科	子ども家庭福祉	矢野川 祥典	2	2	<p>この授業は新しい保育士養成課程に準拠した内容で、子育て家庭への支援と保育の推進について理解する。特に「児童の権利に関する条約」や「児童福祉法」などに基づいた子どもの支援に関する理念や原理について知ると共に、「貧困家庭」「外国籍の子どもとその家庭への対応」「虐待」など、現代的な課題に対応できるように理解を深める。</p> <p>また、2023年4月に新設された「子ども家庭庁」の動向や施策を踏まえ、適宜、情報を提供する。</p>
15	こども学科	子育て支援	中原 大介	3	1	<p>現代の子育てを巡る状況を知り、その上で子育て支援の意義と課題について理解する。</p> <p>保育士の専門性を背景とした保護者支援について理解を深める。</p> <p>事例検討やロールプレイといったグループワークを通じ、現場へ出た際の実践力と思考力の涵養に努める。</p> <p>近隣のこども園のご協力を得ながら、子育て支援の実際について体験的に学習する機会を設けます。</p>
16	こども学科	子どもの理解と援助	矢野川 祥典	2	1	<p>保育者が望ましい保育を行っていくためには、子ども一人ひとりにふさわしい保育実践及び発達について理解を深めることが必要である。そこで本講義では、これまでに学んできた幼児児童理解や教育心理学等の知見を踏まえ、より効果的な保育を展開するための基本事項について、乳幼児期の発達段階を押さえながら理解することを目的とする。</p> <p>また、特別支援学校において実務経験のある担当者が実際の支援方法を紹介し、発達が「気になる」子どもへの理解と援助、支援方法や配慮等について、定型発達の乳幼児と併せて学ぶ機会とする。さらに、保護者との連携や支援、関係機関等との連携の在り方について学ぶ。</p> <p>授業では、映像資料などによる具体的な事例をもとに観察力を養い考察する力を高めるため、レポート課題の提出を求める。多様な視点から子どもの心身の発達や学びの理解を深めることを目指す。</p> <p>また、2023年4月に新設された「子ども家庭庁」の動向や施策を踏まえ、適宜、情報を提供する。</p>
17	こども学科	社会的養護	矢野川 祥典	2	2	<p>近年、長く続いたコロナ禍での生活や世界情勢の不安、物価高等により、子どもと家庭を取りまく環境はより厳しいものとなっている。こうした諸事情により子どもの養育が困難、あるいは子どもの養育を委ねることが適切でないといった理由・判断から、養育者に代わり社会全体で次の世代を担う子どもの成長・発達を図ることも必要となる。こうした「子育て」に関する様々な課題と取組について、「社会的養護」の視点から学ぶ。</p> <p>・子どもを監護する社会福祉施設として、児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、障害児施設等の機能と役割について学ぶ。また、里親・養子家庭を中心にした社会的養護のシステムと内容について学ぶ。</p> <p>・特別支援学校において実務経験のある担当者が、実際に対応、経験した社会的養護に関する事例や支援方法、関係機関の業務内容等を紹介し、理解を深めることを目指す。</p> <p>・2023年4月に新設された「子ども家庭庁」の動向や施策を踏まえ、適宜、情報を提供する。</p>
18	こども学科	社会的養護演習	矢野川 祥典	2	1	<p>・長年続いたコロナ禍や世界情勢の不安、物価高等により、子どもと家庭を取りまく環境はより厳しいものとなっている。こうした諸事情により子どもの養育が困難、あるいは子どもの養育を委ねることが適切でないといった理由・判断から、養育者に代わり社会全体で次の世代を担う子どもの成長・発達を図ることも必要となる。これら「子育て」に関する様々な課題と取組について、将来、「社会的養護」の関係者となることを踏まえ、事例を交えてより身近な問題として理解を深める。</p> <p>・子どもを監護する社会福祉施設として、児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、障害児施設等の機能と役割について学ぶ。また、里親・養子家庭を中心にした社会的養護のシステムと内容について学ぶ。これらにより、保育士として「社会的養護」に実際に携わるための知識と考察力を得る。</p> <p>・「社会的養護」で学んだ基礎知識を活かすとともに、2023年4月に新設された「子ども家庭庁」の動向や施策を踏まえ、グループワーク等により具体的かつ実践的に学ぶ。</p>
19	こども学科	子どもの保健	池田 真理子	3	2	<p>保育者として子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や子どもの身体発育、生理機能の発達について指導する。また、子どもの健康状態の把握に必要な基本的・基礎的知識を身に付けるとともに、子どもの疾病予防や保健管理・保健指導における適切な対応や支援について講義する。さらに子どもを取り巻く現代的な課題への対応についても健康の観点から講義を行う。この授業では、保健分野における経験がある教員がその経験を生かして実践的に指導する。</p>
20	こども学科	子どもの健康と安全	池田 真理子	3	1	<p>保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について具体的に学ぶ。また、子どもの発達や状況に応じた適切な対応、感染対策や子どもの安全を守るため安全管理の仕方や救急処置等について、演習を中心とした学習を行う。</p> <p>小学校養護教諭としての経験を活かし、体験的かつ実践的に課題への対応について指導する。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
21	こども学科	介護概論	大塚 和美	2	2	人権を基盤とした介護を理解し、介護福祉を支えている、または関わっている法制度やサービスを理解する。そのサービスの担い手である専門職や介護支援の実践、具体的な方法などを理解する。これらの理解を通して、誰もが避けて通ることができない『介護』について、理解を深めていく。 なお、「知る」「習得する」「考える」「振り返る」を繰り返し、介護に関する知識と技術を身につけられるように学ぶ。 介護福祉士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かした授業を行う。
22	こども学科	障害者福祉論Ⅰ	石黒 慶太	3	2	【授業のねらい】 ・障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ・障害者福祉制度の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ・障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ・障害による生活課題を踏まえ、障害者支援に携わる者としての支援のあり方を理解する。 【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「障害」の概念と特性を踏まえたうえで、障害者福祉や各法制度の変遷、内容及び課題について解説する。加えて、障害者支援に携わる支援者もしくは障害のある当事者をゲストスピーカーとして招き、ゲストスピーカーの講義から障害者支援の現場について思考する機会を設ける。
23	こども学科	生活研究	足立 登志也	1	2	生活科の教科書の内容を研究しながら、生活科という教科の意義、指導内容に関する知識、技能の総合的な習得をはかる。また、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムに代表される望ましい保幼小連携教育について考える。 なお、本授業は小学校で生活科の授業および幼小連携研究の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
24	こども学科	子どもの多文化理解・共生	梅木 璃子	1	2	多文化共生社会における保育・教育の在り方について理解し、外国につながる子ども・保護者への支援と配慮ができる専門性を身に付けることをねらいとする。 急速な国際化の進展により、日本の都会だけでなく全国各地の保育・教育の場においても子どもの多文化理解・共生に関する専門性をもった保育者・教育者のニーズが高まっている。本授業では、そのような現状の背景にある国内外の社会情勢を把握した上で、外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援についての様々な事例を取り上げ、理解を深める。そして、多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割について理解する。 なお、海外において多文化保育・教育の実務経験を持つ教員を招き、実体験を取り上げながら、実態に沿った多文化理解・共生に関する指導を行う。
25	こども学科	体育Ⅰ	永井 純子	2	2	運動は人間の体を動かすという本源的な欲求に答えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びを与え、健康の保持増進、体力の向上など心身の両面にわたる人間形成に多大な影響を与え、とりわけ、子どもにとっては、運動が健全な発達に資することが知られている。この授業では、学校現場における体育指導経験(公立中学校での勤務経験(8年間))がある教員が集合・整列・笛の吹き方等、集団指導の方法を指導する他、集団の特性および各運動種目の持つ特性・ねらいを理解した上で、創意工夫を重ねた体育の指導方法や援助の仕方などを身につけることを目標とする。
26	こども学科	体育Ⅱ	永井 純子	2	2	本時は中学校における勤務経験(公立中学校での勤務経験(8年間))のある教員がその経験を活かして実践的な指導を行う。 1. 子どもの発達に応じた運動の実技・指導・補助ができるようにする。 2. 児童期には、運動に対する不安感・恐怖心が大きいため、その感情を考慮した体育の指導ができるようにする。 3. また、運動の得意な子どもに対して向上心を養えるような「できた」を感じる指導ができるようにする。 4. 体育(運動)が嫌いにならないように導入から「楽しい」と感じるができる体育指導を目指し、指導の現場に直結した授業を行う。
27	こども学科	音楽Ⅰ	伊藤 憲孝	2	2	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、音楽の基礎である楽譜の仕組みを学び、自己の語法とする。「旋律・律動・和声」という音楽の3要素を的確に表現し他者に伝えるために存在する楽譜の仕組みを理解し体得する。理論を学びそれを実践へとつなげ、基礎的な音楽表現能力を高めることを目的とする。
28	こども学科	音楽Ⅱ	伊藤 憲孝	2	2	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、音楽の基礎である楽譜の仕組みを学び、自己の語法とする。「旋律・律動・和声」という音楽の3要素を的確に表現し他者に伝えるために存在する楽譜の仕組みを理解し体得する。理論を学びそれを実践へとつなげ、基礎的な音楽表現能力を高めることを目的とする。
29	こども学科	図画工作Ⅰ	佐伯 岳春	2	2	・子どもが創造することの楽しさを感じることができる造形的な表現の創造活動を展開するための基礎的な知識・技能を制作活動をとおして身につける。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
30	こども学科	図画工作Ⅱ	佐伯 岳春	3	2	・児童が創造することの楽しさを感じることができる造形的な表現の創造活動を展開するための基礎的な知識・技能を制作活動をとおして身につける。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
31	こども学科	幼児と健康	永井 純子	2	2	幼児期における様々な遊びは、人間の本源的な欲求に答えるとともに、健全な成長・発達に多大な影響を与える。とりわけ、運動遊びは爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びを与えるとともに、健康の保持増進、体力の向上など心身の両面にわたる人間形成にも影響することが報告されている。この授業では、公立中学校での実務経験(8年間)がある教員が、幼児と健康に関する基礎的な知識・技能を修得するとともに、実際に運動遊びを体験し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出すための心身の発達・安全を考慮した指導方法や援助の仕方などを身につけることをねらいとする。
32	こども学科	幼児と人間関係	川島 範章	2	2	本講義では、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、乳幼児期の子どもの発達の基礎となる「人間関係」をどのように育てていくのかを学ぶ。具体的には、他者とのかかわりを通した発達が期待される意欲や態度、情動(愛情や信頼感、自立心等)について、それらの育ちを支える保育者の役割、望ましい援助の在り方や評価等の指導法について考える。また、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることを目的とする。また、人間関係を育む絵本の読み聞かせ等を行う。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
33	こども学科	幼児と環境	足立 登志也	1	2	保育環境とは、「人的環境」「物的環境」「自然・社会環境」など、子どもをとりまく全ての物事のことである。この授業では、その中でも「自然・社会環境」を中心に学びます。前半は自然豊かな本学のキャンパスを使って、ネイチャーゲームなど、五官を使って自然を感じる活動を行う。そして後半には、学外にまで範囲を広げ、社会環境について各自の好奇心を刺激し、世の中の不思議や面白いと思ったものを発見する活動をする。これらの活動を通して、幼稚園・保育所・こども園から小学校に繋がる環境の意義、子どもを育てる上での環境の大切さ、技能の総合的な習得等をはかる。 なお、本授業は小学校で生活科の授業および幼小連携研究の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
34	こども学科	幼児と言葉	小野 順子	2	2	乳幼児期の言葉の役割と機能を理解し、言葉を獲得させるための保育の在り方を考え、保育内容「言葉」のねらい・内容・支援の方法について修得する。 また、絵本などの教材に関わる演習・発表を通して、乳幼児の言葉の発達過程を実践的に理解する。 なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
35	こども学科	幼児と音楽表現	伊藤 憲孝	2	2	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、音楽の基礎である楽譜の仕組みを学び、自己の語法とする。「旋律・律動・和声」という音楽の3要素を的確に表現し他者に伝えるために存在する楽譜の仕組みを理解し体得する。理論を学びそれを実践へとつなげ、基礎的な音楽表現能力を高めることを目的とする。身につけた音楽表現能力をもとに、幼児と音楽表現の関りやを、実践を含めて学ぶことをねらいとする。
36	こども学科	幼児と造形表現	佐伯 岳春	2	2	・子どもが創造することの楽しさを感じることができる造形的な表現の創造活動を展開するための基礎的な知識・技能を制作活動をとおして身につける。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
37	こども学科	保育内容総論	小野 順子	2	2	この授業は、保育所保育士・幼稚園教師をめざす学生のための入門として学修することをねらいとする。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を読み取りながら、保育の全体構造を理解する。また、保育内容の歴史的変遷及び保育所保育指針、幼稚園教育要領の概要について学び、保育内容を総論として理解する。その中で、子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについてエピソードの中から具体的に学ぶ。また、ITCを使用した保育方法についても学ぶ。 本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
38	こども学科	保育指導法総論	小野 順子	3	2	この授業では、幼稚園・保育所等の実習で求められる「観察記録をとる」「指導計画をたてる」力を、知識だけではなく実際に使える技能として身につけることをねらいとする。幼稚園園長および教諭による指導や模擬保育を行う中で、ITCを活用した観察記録(日誌)や指導計画(指導案)の書き方とともに、発達に応じた指導方法について学修する。 本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
39	こども学科	保育内容・指導法(健康)	永井 純子	2	2	授業の概要 子どもが健やかに伸び伸びと成長していくためには、心身ともに健康であることが大切である。しかし、現代社会の子どもを取り巻く環境は大変憂慮すべき状態にある。学校現場で教育経験(公立中学校での勤務経験(8年間))のある教員が、健康についての知識・理解を深める指導を行うとともに、「健康」領域の観点から、幼児期の子どもの運動機能、精神的発達および豊かな心と健やかな体を育てるための内容及び指導方法を修得し、保育者としての資質を高める。
40	こども学科	保育内容・指導法(人間関係)	川島 範章	2	2	本講義では、幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、乳幼児期の子どもの発達の基礎となる「人間関係」をどのように育てていくのかを学ぶ。具体的には、他者とのかかわりを通した発達が期待される意欲や態度、情動(愛情や信頼感、自立心等)について、それらの育ちを支える保育者の役割、望ましい援助の在り方や評価等の指導法について考える。また、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることを目的とする。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
41	こども学科	保育内容・指導法(環境)	足立 登志也	2	2	子どもが成長していくうえで、周囲の環境による影響は大きい。乳幼児にとって家族や保育者、友だちといった人的環境はもちろんのこと、その子どもが使ったり、触れたり、通ったりする物的環境との関わりも重要となる。子どもたちは、自分を取り囲む周囲の環境と相互的に作用しながら発達していくのである。 そこで本授業では、子ども一人一人の成長や発達を保証するために、子どもにとってどのような環境構成が望ましいのかを考え、それを実践できる力を獲得することをねらいとする。 なお、本授業は小学校で幼稚園と小学校の接続の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
42	こども学科	保育内容・指導法(言葉)	小野 順子	2	2	乳幼児期の言葉の役割と機能を理解した上で、『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』における言葉の獲得に関する領域「言葉」のねらいおよび内容、指導について学ぶ。 また、素話や手遊びなどの児童文化財やことば遊びに関する発表や模擬保育を通して、表現力を高め、乳幼児の言葉の発達の過程や保育内容の指導、援助のあり方について考察することを目的とする。 なお、本授業は幼児教育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。
43	こども学科	保育内容・指導法(表現)	佐伯 岳春	2	2	・子どもの心身の発達や保育における環境構成および表現に関わる具体的な展開を学び、子どもの豊かな感性や表現する力について必要な知識・技術への理解を深める。 ・子どもが感じたことや考えたことを自分なりに楽しく表現することを児童文化財を通して引き出す「保育者としての表現」を構想して実践する。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
44	こども学科	幼児の描画理解とその指導	佐伯 岳春	2	1	・子どもの描画発達の過程について学び、自らの描画活動を通して子どもの描画表現を理解する。 ・子どもの描画発達の過程を理解したうえで、子どもの発達に合わせた描画の指導内容について、実践を通して理解を深める。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
45	こども学科	乳児保育	小野 順子	2	2	保育士として必要な乳児保育の基礎知識と技術を修得することを目的とする。保育者の役割や援助方法、乳児の生活や遊びの実態について理解を深め、望ましい保育内容について考察する。
46	こども学科	乳児保育演習	甲斐 弘美	2	1	保育士として必要な乳児保育の基礎知識と技術を修得することを目的とする。保育者の役割や援助方法、乳児の生活や遊びの実態について理解を深め、望ましい保育内容について考察する。この授業では、保育園・認定こども園における乳幼児保育の経験のある教員が、その経験を活かして、実践的な課題への対応を指導する。また、西田啓子助産師の協力を得て、乳児への接し方についてデモンストレーションをしていただく。
47	こども学科	障がい児保育Ⅰ	矢野川 祥典	2	1	障がい及び障がい児の基礎知識や保育を中心とする発達を促す取り組みについて学び、人間発達に影響する諸要因の理解、及び保育と学校教育との関係を理解する。 特別支援学校において実務経験のある担当者が実際の支援方法を紹介し、「発達が気になる子ども」に対する理解及び援助・支援方法、配慮の在り方について学ぶ。 また、障害当事者への支援のみならず保護者への支援、関係機関との連携による支援体制の在り方等について学ぶ。 授業では、映像資料などによる具体的な事例をもとに、観察力を養い考察力を高める。多様な視点から子どもの心身の発達を学び、支援方法や配慮等について理解を深めることを目指す。 また、2023年4月に新設された「子ども家庭庁」の動向や施策を踏まえ、適宜、情報を提供する。
48	こども学科	障がい児保育Ⅱ	矢野川 祥典	2	1	・前期で学んだ「障がい児保育Ⅰ」を踏まえ、障がい及び障がい児に関する基礎知識や保育を中心とする発達を促す取り組みについて、より実践的に学ぶ。また、これまで触れる機会がなかった他の障害種についても学び、より広範囲な知見を得る。人間発達に影響する諸要因の理解、及び保育と学校教育との関係について、身近な問題としてより実践的に理解する。 ・特別支援学校において実務経験のある担当者が実際の支援方法を紹介し、「発達が気になる子ども」に対する理解及び援助・支援方法、配慮の在り方等について、より具体的に学ぶとともに、インクルーシブ保育・教育に対する理解をさらに深める。 ・障害当事者である本人と併せ保護者への支援、関係機関との連携、情報の共有や引継ぎで必要となる「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等について、学ぶ。 ・授業では映像資料などによる具体的な事例をもとに、多様な視点から子どもの心身の発達を学び、支援方法や配慮等について理解を深めることを目指す。 ・2023年4月に新設された「子ども家庭庁」の動向や施策を踏まえ、適宜、情報を提供する。
49	こども学科	初等国語Ⅰ	三藤 恭弘	2	2	本授業は「小学校国語科」授業を担当するための基礎的な知識・技能や資質・能力の修得をねらいとしている。 授業では「小学校国語科」というものがどのような内容・要素で成り立っているのかを理解し、授業の作り方について学ぶとともに、実践的に自身の資質・能力を磨くことを目標とする。 「日本語検定」は全員3級以上の獲得を目指し、受検すること。3級以上獲得した(既に獲得している)者には加点する。 本授業は小学校教育現場の経験者が、その知見を生かして指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
50	こども学科	初等国語Ⅱ	三藤 恭弘	2	2	本授業は小学校教員になりたい人の教材研究力、国語科授業力の向上を図ることを目的とした授業である。時間割上不可能でない限り、受講すること。初等国語Ⅰを先に受講していること。皆出席。 教材研究力を高めると同時に、実践的意欲・態度や視点・技術を獲得することを目標とする。 日本語検定の3級以上に合格していない人は秋の受検日に受検すること。3級以上に合格した者(している者)は加点する。 本授業は小学校勤務経験を有する教員が、その知見に基づき指導する。
51	こども学科	初等国語科教育法	三藤 恭弘	3	2	本授業は実際の小学校国語科授業を想定した教材研究力、学習指導案の作成力、指導技術の力量向上を目指して、模擬授業と協議を繰り返し、実践的指導力を身に付けることを目標とする。 学習指導案の作成は、パソコンを用いて的確に作成する。授業では適宜電子黒板を活用する。「日本語検定」で3級以上を未取得者は受検し、認定を受けること。日本語検定3級以上獲得の者(既に獲得している者も含む)には加点する。 本授業は小学校に勤務の経験がある教員がその知見をもとに指導する。
52	こども学科	初等社会	西川 京子	2	2	この授業では、グループワーク等の参加型学習や校外学習体験を通して、小学校社会科授業づくりに必要となる基礎的な知識・理解と技能を習得します。担当教員は、小学校教諭経験と国内外の教師や教員養成担当者等への研修経験を生かし、社会科とその授業づくりの在り方について指導します。
53	こども学科	初等社会科教育法	西川 京子	3	2	本科目は講義とアクティブラーニング(授業体験、授業や学習指導計画の分析、模擬授業等)を通して、基礎的な学習指導理論の理解と具体的授業場面を想定した授業設計方法の修得をねらいます。小学校教諭経験と、国内外の教師や教員養成担当者への研修経験をいかして社会科教育の理論と実践の往還を図ります。
54	こども学科	初等算数	太田 直樹	2	2	小学校算数科で扱う内容の中で、特に重要な領域や教育内容を例示しながら、小学校教員として必要な数学的素養を養う。「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の各領域を概観すると共に、各領域において重要な教育内容に関する初等的な数学の背景について理解を深める。また、具体的な算数的活動に取り組むことを通して、教員になった時に必要な教材研究を自ら行い得る力を育てる。
55	こども学科	初等算数科教育法	太田 直樹	3	2	小学校算数科について、目標、内容、方法、評価についての基礎的な知識を理解するとともに、子どもたちに育む資質や能力(基礎力・思考力)への視点を養うことを目的とする。授業では、算数科の五領域に対する子どもの数理解識を中心に講義し、その認識を高める教材を作成する。
56	こども学科	初等理科	足立 登志也	2	2	この授業は、小学校学習指導要領(理科編)に基づき、まず初等理科の学習内容に関わる基礎的・基本的な事物・現象について理解する。その上で小学校において理科を教えるのに必要な基礎的・基本的な知識と技能を探究活動を通して獲得し、その内容を発表することで受講者全員のさらなる力量向上を図ることを目的とする。 なお、本授業は小学校で理科の授業の実践経験の教員がその知見を用いて指導する。
57	こども学科	初等理科教育法	足立 登志也	3	2	理科における教育目標や育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともにさまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。 なお、本授業は小学校で理科の授業の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
58	こども学科	初等生活科教育法	足立 登志也	2	2	生活科における教育目標や育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともにさまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。特に、平成元年度の小学校学習指導要領改訂において新設された生活科は、学習方法や評価方法などにおいて他教科にはない特徴がある。本授業ではその学習方法や評価方法などを理解することを目的とする。さらに学習指導案の検討や模擬授業を行ったりすることを通して、将来教壇に立つ者の実践的な力を培う。 なお、本授業は小学校で生活科の授業の実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
59	こども学科	初等図画工作科教育法	佐伯 岳春	3	2	・児童の造形的な表現における発達段階を実践事例などから学び、学年に合わせた指導内容や方法、手順を学ぶ。 ・製作活動に取り組み、他者の造形的な表現に対する共感や取り組みに対する態度を学ぶ。 ・高等専修学校において、陶芸技術指導のある教員が、その経験を活かして陶土を使った表現技術などについて指導し、創造力の育成を図る。
60	こども学科	初等家庭	梶山 曜子	2	2	小学校家庭科の教育内容に対する自分なりの考えを確立し、学びに必要な内容を自ら探究できること、さらに、生活を総合的に捉え、よりよい家庭生活のあり方を考究し、自ら実践できる能力を身につけること。 授業では、小学校家庭科の内容について、家庭科教育の理念を踏まえ検討を加える。具体的には、家庭生活と家族、食生活、衣・住生活、消費生活と環境に関する基礎的な内容についての解説をおこなう。日常生活を構成する各要素とその相互関係を理解し、よりよい生活の創造について考究する。なお、高等学校で「家庭基礎」他家庭に関する専門科目を担当していた経験を持つ教員が担当する。
61	こども学科	初等家庭科教育法	梶山 曜子	2	2	授業のねらいは、授業の設計、実践授業の分析をとおして小学校家庭科の授業に対する自分なりの考えを確立し、授業を実践する能力を身につけることである。 授業では、家庭科教育の理念を踏まえ、小学校家庭科を中心に教育目標、教育内容、教育方法について検討を加える。さらに、実践的授業研究をとおして、授業の構成要素について解説します。最後に授業を実際に組み立て家庭科授業のあり方を考究する。なお、高等学校で「家庭基礎」他家庭に関する専門科目を担当していた経験を持つ教員が担当する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
62	こども学科	初等体育科教育法	永井 純子	2	2	1. 学校現場における体育指導経験(公立中学校での勤務経験(8年間))がある教員が、その経験を活かして、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることの重要性を伝えるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく生活を営む態度を育てる。 2. 児童の特性を勘案した運動の楽しさを伝えることができる学習指導案の作成を指導する。用具の準備、種目に適した準備運動および児童の特性に応じた運動指導を実践する。
63	こども学科	初等外国語(英語)Ⅰ	梅木 璃子	2	2	小学校外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力(CEFR B1レベル程度)を「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域において育成しながら、その能力を授業場面で実践的に活用できるようにする。また、英語や第二言語習得に関する基本的な知識や、児童文学や異文化理解に関する知識を身に付ける。 なお、現職の小学校英語専科指導教員を招いて、学生が教育現場で行われている授業を実際に体験するとともに指導技法に関する指導を仰ぐことで、教育現場の実態に沿った指導を行う。
64	こども学科	初等外国語科教育法(英語)	梅木 璃子	3	2	本授業のねらいは、小学校における外国語活動(中学年)・外国語(高学年)の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身に付けることである。 本授業では、小学校外国語活動・外国語科の授業実践に必要な知識として、まず、学習指導要領や教材等の小学校外国語教育についての基本的な内容について理解する。そして、子供の第二言語習得の特徴について理解するとともに、指導に生かす方法を身に付ける。そのうえで、英語での話しかけ方等の指導技術を習得する。さらに、学習評価や指導計画等の授業づくりの基本を踏まえた上で、実際の授業観察を通して、授業分析を行い、その授業の成果と課題を明確にし、授業改善の方策を探る。また、実際にグループで学習指導案を作成し、模擬授業を行うことで、自らの授業実践を振り返り、授業改善に取り組むことができる応用力を身に付ける。 なお、小学校の現職教員を招いて、学生が教育現場で行われている授業を実際に体験するとともに指導技法に関する指導を仰ぐことで、教育現場の実態に沿った指導を行う。
65	こども学科	総合的な学習の時間の指導法	足立 登志也	2	1	総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。また、各教科等で育まれている見方・考え方を総合的に活用して広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識技能を身につける。本授業でも、ただ講義を聞くという受動的な形ではなく、学生同士の小グループでのディスカッション、発表、活動等を中心に行い、総合的な学習の時間の本質に触れるとともに、授業実践に繋がる力を修得できることを目的とする。 なお、本授業は小学校での実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。
66	こども学科	特別活動の指導法	西川 京子	2	1	この授業では、グループワークやテキストの精読を通して、小学校における特別活動の意義を理解し、指導に必要な知識や素養を身につけていきます。小学校教諭としての社会科専科担任や学級担任の経験を持つ担当教員が、各教科や地域との連携を図った特別活動の理論と実践の往還を指導します。
67	こども学科	教育相談	川島 範章	3	2	学校教育現場では、不登園・不登校、ひきこもりなどの非社会的行動や非行などの反社会的行動から、発達障害児への生活指導や学習支援、教師のメンタルヘルスまで、幅広い課題への対応が必要となる。本講義では、教育現場で見られる様々な問題について取り上げ、学校で必要とされる教育相談のあり方について考える。カウンセリング手法を用いた基本的関わり方やアセスメントの方法、関係者／機関の連携によるチーム援助体制の構築について学び、問題を示す児童・生徒に対する基本的理解および効果的な対応スキルを身につけることを目指す。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
68	こども学科	ICT活用の理論と実践	青木 麟太郎	2	2	この科目はICT(Information and Communication Technologies)が社会活動の基盤を形成する現代の教育専門職者が持つべきICTの教育利用に関する基礎技能とビジョンを形成することを目標に講義と演習を行う。授業内ではICT教育利用をクラス内で実践しつつ、ICTの核となるコンピュータ及びネットワークに関する技術的背景、ICTの世界的な普及に伴う社会変動とその中で教育に対する要請の変化、教育分野のICT利用の前提及びICT利用の普及が教育現場に及ぼす影響などについての理解を深めていく。
69	こども学科	教職実践演習(幼・小)	小野 順子	4	2	小学校または幼稚園の教員・保育士としての教育実践力が身についているかを確認するため、「教員の職務内容」、「学校教育現場の諸課題への対応」、「レディネスと教育活動の実践」、「学級経営」、「保護者との連携協力」、「教科内容の指導力」及び「保育内容の指導力」の7段階の授業を行う。これらの修得状況を段階的に確認しながら、補うべき課題を重点的に指導する。グループ討議、模擬授業及び模擬保育を受けての実技指導等を適宜実施する。なお、教育・保育現場での実務経験を持つ教員が、現場の実態に即した指導・演習を行う。
70	こども学科	ピアノ奏法Ⅰ	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	1	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノの原理・特性、奏法の初歩、読譜の初歩等、教育現場で必要とされる基礎を演奏を通して学ぶ。音楽の3要素であるリズム(律動)、メロディー(旋律)、ハーモニー(和音)の理解を中心にすえ、演奏・実践を通して音楽的感性を養う。豊かな演奏とはどのようなものかを一步一步学ぶ。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
71	こども学科	ピアノ奏法Ⅱ	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	1	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノの原理・特性、奏法の初歩、読譜の初歩等、教育現場で必要とされる基礎を演奏を通して学ぶ。音楽の3要素であるリズム（律動）、メロディー（旋律）、ハーモニー（和音）の理解を中心にすえ、演奏・実践を通して音楽的感性を養う。またピアノ演奏のみならず、歌、手拍子など総合的に音楽を学んでいく。
72	こども学科	ピアノ奏法Ⅲ	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	2	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノ奏法の基礎を演奏を通して学び、教育現場で必要とされる作品の演奏を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指す。またアンサンブル能力向上のためピアノ演奏のみならず、歌、手拍子など総合的に音楽を学んでいく。
73	こども学科	ピアノ奏法Ⅳ	伊藤 憲孝 片山 美希 片山 舜 青木 彩絵子 三原 直美	2	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、ピアノ奏法の基礎を演奏を通して学び、教育現場で必要とされる作品の演奏を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指す。またアンサンブル能力向上のためピアノ演奏のみならず、歌、手拍子など総合的に音楽を学んでいく。
74	こども学科	ピアノ奏法Ⅴ	伊藤 憲孝	3	1	演奏家/ピアニストとして経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。ピアノ奏法の応用を演奏を通して学び、教育現場で必要とされる作品の演奏を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指す。教育現場にて活用される作品を取り上げ、ピアノ演奏を行う。
75	こども学科	ピアノ奏法Ⅵ	伊藤 憲孝	4	1	演奏家/ピアニストおよび声楽家として経験のある教員が、その経験を活かして実際の技術的課題や音楽的能力育成への対応を指導する。具体的には、保育・教育現場で必要とされる作品を学ぶ。ピアノ演奏・実践を通して音楽的感性を養い、技術的・音楽的熟達を目指す。採用試験対策を行う。
76	こども学科	保育実習ⅠA(保育所)事前事後指導	佐伯 岳春	3	1	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育に取り組む力を身につける。保育現場の講師を招き、実習生の心構え等について指導を行っていただく。
77	こども学科	保育実習ⅠB(施設)事前事後指導	矢野川 祥典	3	1	1. 保育実習の意義・目的を理解する 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む力を養う。
78	こども学科	保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	矢野川 祥典	4	1	1. 保育実習の意義と目的を理解し、施設での保育士の役割について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性をふまえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護の力を身につける。
79	こども学科	教育実習Ⅰ・Ⅱ(幼稚園)事前事後指導	小野 順子	3	1	教育実習の目的や意義を明確にし、積極的に取り組むことができるよう、教育実習前には保育内容や指導方法にかかわる基礎的な知識・技能を学修する。また教育実習後には実習を振り返り、個々の省察やグループ協議を通しながら保育に対する理解を深める。 なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
80	こども学科	教育実習Ⅲ(小学校)事前事後指導	足立 登志也	3	1	<p>小学校教育の実際について、その概要を理解し、教壇に立つための基礎的・基本的な事項を身に付け、教育実習校での教育活動に携わることができるようにすることをねらいとする。</p> <p>教育実習の計画と実施にあたり、能率的かつ効果的に実習を行うために、事前に教育実習の意義や目的、子どもの実態や教育活動の実際等について明らかにする。そして、準備と実施に不可欠な基本的・予備的知識や心構え、実習の手続きの仕方等を身に付ける。実習終了後は、まとめや反省・評価を行い、実習の成果と課題を明確にしたうえで報告書を作成し、小学校教育実習報告会においてパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。</p> <p>教育現場での教諭としての経験がある教員が、その経験を生かして、教育現場の実情に即した講義を行い、模擬授業や場面指導の効果的な演習ができるように指導する。</p>
81	こども学科	保育実地体験Ⅰ(保・幼)	小野 順子	1	1	<p>保育実地での観察及び活動を通して、保育所・施設・幼稚園・こども園での生活の流れ、子どもの発達や保育者の職務について学修すると同時に、保育実地での観察及び活動で学んだことをもとにグループ協議を行い、多様な観点での学修を深める。</p> <p>本授業は、学内での授業を11回(第1回～第6回、第12回～第15回)、学外での実地体験活動を15時間以上実施する。</p> <p>なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。</p>
82	こども学科	保育実地体験Ⅱ(保・幼)	佐伯 岳春	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方、近隣園所の子どもや保育者との関わりの中で求められる保育者として思考力、判断力、表現力の育成を目的とする。 ・児童文化財などの制作をとおして、保育者として子どもに向けた総合的な表現を構想する力を身につける。 ・保育者として必要な保育実践力の基礎を学修することで、自らのキャリアに対する意識を高めていくことを目的とする。
83	こども学科	教育実地体験Ⅰ(小)	足立 登志也	1	1	<p>子どもが多様化する小学校の教員になるためには、大学で学ぶ理論は大切であることは言うまでもないが、現場に出向き、直接児童や教員と関わる経験は大変需要であると考えられる。そこで本授業では、現場で児童の活動や教員の仕事に触れ、小学校教諭としての基礎的素養を身につけることを目的とする。</p> <p>なお、本授業は小学校での実践経験のある教員がその知見を用いて指導する。</p>
84	こども学科	教育実地体験Ⅱ(小)	足立 登志也	2	1	<p>小学校教育の実際について、その全体像を理解するとともに、教育現場の実際を体験することによって、教職についての現実的な理解と教職を志望する決意を深めることができる。また、「教育実地体験Ⅰ」での学習経験を生かし、ボランティアなどの教育現場での経験知を増やし、教師になるための自己の成長を促す。初回、中間、最終回における講義では、教育現場での教諭としての経験がある教員が、その経験を生かして、教育現場の実情に即した助言や指導を行い、受講生の不安や疑問を解消するとともに、教師として必ず押さえておくべき点への気づきを促すことを目的とする。</p>
85	こども学科	保育実習ⅠA(保育所)	中原 大介	3	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む「人間力」の涵養に努める。</p>
86	こども学科	保育実習ⅠB(施設)	矢野川 祥典	3	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子ども・利用者とかかわりを通して子ども・利用者への理解を深める。 3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育・養護及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育・養護の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む力を養う。</p>
87	こども学科	保育実習Ⅱ(保育所)	中原 大介	4	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める 2. 子どもの観察や関わり視点の明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や関わり視点の明確にすることを通して保育の理解を深める 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」などを身につける。</p>
88	こども学科	保育実習Ⅲ(施設)	矢野川 祥典	4	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に関する理解をもとに、本人支援や保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>学内で学習した内容理解を深めた上で、子どもの可能性を育成する「実践力」、現場における「思考力」、現場で求められる社会的常識や協調的に保育・養護に取り組む「人間力」の涵養に務める。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
89	こども学科	教育実習Ⅰ（幼稚園）	小野 順子	3	2	<p>教育実習の目的は、幼稚園と幼児の実態を知り、大学において学んだ理論に基づき、保育の实际的理論と保育経験を実践することである。直接幼児に接し、その実態を把握し、具体的な人間関係を通して、幼稚園教育全体を把握し、保育理論や心理学やその他の知識と実際とを結びつけて考えることが大切である。</p> <p>この教育実習Ⅰでは、幼稚園教諭免許を取得するために「観察・参加、部分の指導」の立場で幼稚園の生の教育現場に接する。教育活動の現場をよく観察し、子どもたちの実態や教師の実践活動を自分の目で具体的に捉え、指導的対応を経験する。</p> <p>なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。</p>
90	こども学科	教育実習Ⅱ（幼稚園）	小野 順子	3	2	<p>教育実習の目的は、幼稚園と幼児の実態を知り、大学において学んだ理論に基づき、保育の实际的理論と保育経験を実践することである。直接幼児に接し、その実態を把握し、具体的な人間関係を通して、幼稚園教育全体を把握し、保育理論や心理学やその他の知識と実際とを結びつけて考えることが大切である。</p> <p>この教育実習Ⅱでは、幼稚園・小学校教諭の資格・免許を取得する学生が履修し「観察・参加」「部分・全日指導」の立場で幼稚園の生の教育現場を学ぶための実習である。</p> <p>なお、本授業は保育現場で勤務経験のある教員が、その知見を用いて指導する。</p>
91	こども学科	教育実習Ⅲ（小学校）	足立 登志也	3	4	<p>小学校の教育実習に参加して、授業や学級経営など教師の職務の一部を担当しながら、大学で学習した理論と教育現場での実践を統合し、実践的な指導力を身につけることをねらいとする。訪問指導では、教育現場での教諭としての経験がある教員が、その経験を生かして、それぞれの教育現場に対応した実践的な指導を行う。</p> <p>実習の内容・方法については、実習校の実情に合わせて計画をお願いする。具体的には、授業参観、実地授業、研究授業・研究会、学級指導、学級経営や学級指導に関する補助活動、学校行事等特別活動での指導や補助、校長・教頭・教務主任・保険主事・学年主任・養護教諭・栄養士の先生等による講話などである。</p>
92	こども学科	保育・教育実地研究（国内）	西川 京子	1	2	<p>本科目は、SDGs for Education、ESD（持続可能な発展のための教育）や多文化共生のための保育・教育の理論と実践の往還を図ることをねらいとしています。具体的には、トントン文庫、「世界一大きな授業」、ウクライナの避難民支援、ルワンダの幼児・児童と広島の保育園・幼稚園・小学校の交流活動といった事例を題材に、テキストを輪読したり、教材研究・開発・実践をしたりといったことを行います。授業担当者の、小学校教諭経験と、国内外の教員や教員養成関係者への研修経験を生かした指導を行います。</p>
93	こども学科	保育・教育実地研究（野外）	西川 京子	1	2	<p>SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」他の実現に向け、子どもが「地域の自然・社会・人の中で豊かに遊ぶ（学ぶ）」野外体験活動づくりの基礎を培います。学内研修15回（ワークショップ・教材研究・子どもの研究・発表・講義）と、学外研修（3回の日帰り野外体験活動）があります。主体性の尊重や体験を通した科学的見方・考え方の育成に関する理論と実践の往還について、小学校や地域における野外体験教育実践経験のある教員と優れた野外体験教育の実践家として評価の高い実践家（絵本牧場ごんぼ、にじいろアトリエ、てんぐりかつぱの各代表）が指導します。</p>
単位数(合計)					122	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
1	健康スポーツ科学科	スポーツ心理学	藤本 太陽	2	2	<p>スポーツ心理学は、スポーツに関する諸問題を心理学的に解明し、スポーツの実践や指導にあたって役にたつ知見や技術を提供しようとする学問である。</p> <p>本講義ではスポーツに関する心理学的基礎、スキルの獲得に関する運動学習、スポーツと健康、競技スポーツとメンタルトレーニング、スポーツに関わる様々な問題など、広範囲に心理的現象を取り上げて概説する。さらに、これらの知見を競技活動および教育現場で活かせるように、体育・スポーツ現場での問題または疑問と常に関連させながら授業を実施する。また、本講義は日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。</p>
2	健康スポーツ科学科	専門演習Ⅰ	近藤 千穂	3	4	<p>この演習は、学校保健と子どもの健康課題をテーマとして扱う。従って、養護教諭免許資格取得を希望し、これらの内容に興味を有する学生を対象とする。質的・量的な調査研究、文献研究などを研究手法として、卒業論文(専門演習Ⅱ)の研究テーマを決めるための文献購読、研究方法、研究計画書作成などの検討を、発表・討論形式で進める。</p>
3	健康スポーツ科学科	救急法技法	石井 智紋	3	2	<p>不慮の事故によるケガや体調不調による急病の発生に実践レベルで対処できる救急技法を学ぶとともに、ケガや急病を予防するための安全管理や施設管理等についても学習する。安全に配慮したつもりでも、ケガや急病は時と場所を問わず発生する。まずは私たちを取り巻く日常は、常に危険と隣り合わせであることを認識し、不幸にも発生してしまった事故に対しても、正確で迅速な救急処置ができる技能及び知識の習得を目的とする。それ故、この講義では、講習日本赤十字社が救急法救急員の養成に規定する理論および実技内容を網羅し、考えられる限りの救急法の習熟を求め、加えて運動やスポーツの指導者として必要な施設の安全管理や救急管理体制づくりの必要性についても学ぶ。</p> <p>また本講義は、学外で日本赤十字社救急法指導員の資格を有する指導員が講習会を行っている。</p>
4	健康スポーツ科学科	健康心理学	藤本 太陽	3	2	<p>高齢化社会の到来により個人は自らの健康に対して少なからずの責任を負わなければならない。そこで立ち止まり「健康とは何か」と自問すると、明確な定義がいかに困難であるかがわかる。心理的側面から捉えた健康の価値と身体的側面から捉えた価値は必ずしも一致しないが、その双方が人間のあるべき姿を規定していることは疑う余地もない。講義で扱う問題は健康とは何か、そしてそれを確保するための取り組みとは何かである。心理面だけでなく、身体面から介入する取り組みに説明の重点を置く。また、本講義は日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。</p>
5	健康スポーツ科学科	臨床スポーツ医学	石橋 勇	2	2	<p>種々のスポーツ現場で指導に携わる指導者が修得しなければならないスポーツに関わる功罪、特に罪の部分である障害・外傷について正しい知識を系統的に講義する。講義の内容は外科系の外傷・障害、内科系の障害、疾患とスポーツの関係、さらに境界領域のスポーツ外傷・障害についての知識と手技についてである。スポーツに限らず「障害」は早期発見・早期治療がもっとも要求されることである。そのためには現場の指導者が豊富なスポーツ医学的知識を有することが求められる。本学科の学生はまさに指導者となる人々であり、重要な授業科目である。本講義は、日本代表トレーナー経験がある教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。</p>
6	健康スポーツ科学科	コンディショニング科学	石橋 勇	3	2	<p>スポーツの場面で、コンディショニングとは「ピークパフォーマンスの発揮に必要なすべての要因をある目的に向かって望ましい状況に整える」と定義されている。競技選手がより良いパフォーマンスを発揮するために必要なことを理解することは競技関係者にとって重要である。そこで本講義では、コンディショニングを理解し、そこで必要な身体的要素を中心に学習していく。また、その方法と実際の場面を想定した手法についても学習する。</p> <p>更に講義中には、スポーツマッサージの実技を行う。スポーツマッサージには、(1)選手の基本運動能力を高める目的で行われるもの、(2)トレーニングや試合直前に、筋肉のウォーミングアップやほぐすことを目的に行われるもの、そして(3)運動後の疲労回復を促進するために行われるものがある。本講義では、マッサージにおける生理・心理的効果を理解し、それぞれの目的に適したマッサージの習得を目指す。</p> <p>本講義は、日本代表トレーナー経験がある教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。</p>
7	健康スポーツ科学科	アスレティック・トレーナー演習	石橋 勇	1	4	<p>これまで健康スポーツ科学科内の講義において、スポーツ医科学を専門的に学修してきたが、そういった講義を基礎とし、アスレティックトレーナーとして適した内容を学修し最適な知識を構築する。更に各分野の実践演習を行い、実技部門のエキスパート化を図る。</p> <p>また、初めてスポーツ医科学を学ぶ者であっても高レベルからの学修により、今後の基礎教育につなげることを図る。</p> <p>更に渡航先のスポーツ医学プログラムを受講し、海外のスポーツ医学の現状を学ぶこと及び異文化について理解を深めることを目的とする。</p> <p>本講義は、日本代表トレーナー経験がある教員やアスレティックトレーナー関連資格を持った教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。</p>
8	健康スポーツ科学科	Sports Medicine Seminar	峯田 晋史郎	3	2	<p>本授業はスポーツで起こる有害事象(スポーツ外傷、内科疾患など)に対する応急処置法について学習し、その技術の習得を目指す授業である。</p> <p>スポーツ外傷・障害などの有害事象に対する対応は、数年おきに国際学会などでガイドラインが更新されることから、常に最新の手法にアップデートを行うためには英語の資料を読み解く能力も必要になる。そのため、英語の資料を用いる。</p>
9	健康スポーツ科学科	海外演習(スポーツアカデミー)	石橋 勇	1	4	<p>本講義では、スポーツ科学や文化を背景とした保健体育教員養成・スポーツ指導者養成の観点から、近代スポーツの発祥であるイギリスにて学修を進める。イギリスはパブリックスクールを中心としたスポーツの広がりやアマチュアスポーツの精神を持った国であり、アメリカのような商業化を中心としたスポーツではないことから、学校教育には適した文化背景がある。またフットボールを中心としたプロスポーツの広がり、ヨーロッパ特有の地域スポーツの現状などの観点からもスポーツ科学やスポーツ文化を理解する。</p> <p>本講義では、スポーツ教育・地域スポーツ・学校スポーツ・スポーツ文化・プロスポーツ等について理解を深めることを目的とする。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
10	健康スポーツ科学科	健康運動演習Ⅰ（エアロビックダンス）	木村 真弓	2	2	健康運動実践指導者の資格取得を目標としている学生たちが、エアロビックダンスエクササイズの実践指導が可能になるようにする。 民間スポーツクラブなどでエアロビックダンスエクササイズの指導実務経験・指導者養成講座実務経験がある教員が、その経験を活かして、実践型授業を展開し、指導プログラム作成方法及び指導技術を身につけていく実習を多く行う。 また、健康づくりの為に運動を、自らが実践できる社会人になる為の下地作りをする。
11	健康スポーツ科学科	アスレティック・リハビリテーション	峯田 晋史郎	2	2	傷害受傷から一般活動レベルまでのリハビリテーションとは異なり、アスリートを対象としたリハビリテーション(リコンディショニング)では、一般活動レベルから競技レベルまで身体活動レベルを戻す必要があり、専門的な知識が必要となる。 本講義では各部位の傷害に関する基礎知識を復習したうえで、競技復帰までのリコンディショニングプログラムの作成法について学習する。
12	健康スポーツ科学科	スポーツプロモーションⅠ	吉川 浩司	2	2	現代の生活におけるスポーツの効果と必要性を理解した上で、スポーツ振興をどのように進めることができるか、を考えます。具体的には、スポーツに関わる様々な立場、スポーツ競技団体、地域住民、行政、民間企業等の特徴を理解し、それらが有効なパートナーシップを築く方法について考えを深めます。 「実務経験のある教員」による授業に関して： 講師は1984年ロサンゼルスオリンピックを始め、1992サッカーアジアカップ、1993サッカーU-17世界選手権、1994第12回広島アジア大会、2002年ワールドカップ日本招致活動、1998フランスワールドカップ、2002年FIFAワールドカップ日韓大会、2012FIFA U-20女子ワールドカップ、他のスポーツ大会に運営側として、主にプロトコール(国際外交儀礼)担当として従事して来ました。これらの経験をもとに、メガスポーツイベントの実施現場の仕組みと「現場に居て突発的なトラブル状況に陥った場合、いかに考え、どのように行動するか？」を、実例をもとに具体的に提示し、「考え、行動する道筋」等について多く言及したいと思います。
13	健康スポーツ科学科	メンタル・トレーニング方法論	藤本 太陽	2	2	メンタルトレーニング(以下、MT)に対する世間の注目が増加する一方、日本スポーツ心理学会ではS(スポーツ)MT指導士なる資格を制定し、その誤用防止に努めている。MTの目的は、選手が持つ実力を試合の場において100%発揮できるようにすることである。その内容及び方法は多岐にわたる。それらを具体的に解説し、受講生にMTに対する理解を深めてもらいたい。なお、受講生の多くが競技スポーツに関与していると考えられるため、自己の競技力向上及び今後の指導力向上に役立つヒントとなることを期待している。本講義は、日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。
14	健康スポーツ科学科	メンタル・トレーニング演習	藤本 太陽	3	2	メンタルトレーニング(以下、MT)に対する世間の注目が増加する一方、日本スポーツ心理学会ではS(スポーツ)MT指導士なる資格を制定し、その誤用防止に努めている。MTの目的は、選手が持つ実力を試合の場において100%発揮できるようにすることである。MT方法論で得た知識を応用することを本講義の狙いとする。また、自己の競技力向上及び今後の指導力向上に活用できるスキルを獲得することを期待している。 本講義は、日本スポーツ心理学会認定資格スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有している教員が、その経験を生かして実践的な課題への対応を指導する。
15	健康スポーツ科学科	コーチ学B	若井 研治	2	2	コーチングとは、目標を達成するために必要となる能力や行動をコミュニケーションによって引き出す能力開発法である。専門のコーチが質問を重ねながら相手に自分自身で何を実現したいのかを明確にイメージさせ、潜在能力を引き出して目標を達成するための行動を促すことでもある。このことから、リアリティを持ったトレーニングを構築し、効果的なコーチングをするために「全体像からの逆算」で課題を分析できるようにしていく。また、コーチングにおいて重要になるコミュニケーション・スキル、トレーニング科学も学習していく。 この授業は日本サッカー協会公認A級ジェネラルライセンスを有し、指導歴20年以上の教員が担当する。
16	健康スポーツ科学科	スポーツ施設演習	石井 智紋	3	2	地域のスポーツ施設や事業団体等での実習経験を通じて、地域社会におけるスポーツ活動を理解し、理論にとらわれず現場で役に立つ知識や技術を積極的に学習する。また、それぞれのスポーツ施設・事業団体が持つ理念を理解し、責任を持って主体的に行動する態度や能力を養う。 本授業の履修において、学生は各種施設・団体を自ら選択し、実習期間を任意に設定する。また、各スポーツ施設・事業団などの実務経験を有している担当者のもとで実習をおこなう。
17	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(リズム・エクササイズ)	黒坂 志穂	1	2	本授業では教材としてスポーツクラブで行われているフィットネスエクササイズの実習を中心として授業を行う。 健康づくりにあたっての運動強度管理や、ある程度の運動強度が確保された状態でいかに楽しく、効果的なカラダづくりを行っていくかに焦点を当てる。 動画やICT教材を利用した授業も行う。 高等学校専修免許状(保健体育)及び健康運動実践指導者の資格を有する教員が、その経験を活かして実践的な課題への対応を指導する。
18	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(バレーボール)	永井 純子	1	2	学校教育現場経験(公立中学校での勤務経験(8年間))のある教員が、大学バレーボールトップチームスタッフの協力を得て、バレーボールの基本技術であるサーブ・パス・スパイクの練習ドリルや試合の運営法、ルールの説明を行い、実際の試合で応用できるように進める。また、スキルの向上を目標としながらラリーゲームに親しむ感覚や学生同士のコミュニケーションを促進できるよう指導する。
19	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(サッカー)	若井 研治	1	2	サッカーは、味方と相手との攻防の中でボールを奪い、ゴールを守り得点を競うゴール型のスポーツである。そのために必要な基本技術・戦術を習得し、学習段階・状況に応じた作戦を立て、ゲームができるようにする。世界基準との比較で、実際にできることとできないことのギャップを感じ、その課題にいかに取り組むか自分で解決方法を見いだせるようにする。 この授業は、日本サッカー協会公認A級ジェネラルライセンスを有し、指導歴20年以上の教員が担当する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
20	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(ラケットスポーツ)	阿部 直紀	1	2	ラケット種目である卓球とバドミントンは、多くの地域で生涯スポーツとして楽しまれている。この授業ではグループ活動を中心として基本的な戦術や運動技術を探究することを通して、主体的にスポーツ活動を展開していくための方法を理解していく。 なお、授業担当者の、中・高等学校の教育現場から得た知見とその経験を活かしつつ、子どもから大人まで幅広く楽しむための課題を取り上げながら学びを深めていく。
21	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(トレーニング)	門田 正久	1	2	スポーツ実践演習授業の狙いとしては、身体機能の理解及び効果的身体活動のためのプレパレーションの理解と周辺環境因子(栄養・休養・動作・mind set)の理解と実践。また、プレパレーションにおいては実践とともに必要な動作を理解し。自ら実践できるようになることを狙いとする。
22	健康スポーツ科学科	スポーツ実践演習(武道)	高橋 和久	1	2	剣道の講話と実技を通して、日本固有の文化である武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようになることを目指します。中学、高校の授業や部活動で剣道指導の実務経験のある教員が、その経験を活かして理論的かつ実践的に指導法を解説します。 (1)講義前半では、剣道具(防具)のない場合の指導法を習得できます。 (2)講義後半では、剣道具(防具)のある場合の指導法を習得できます。
23	健康スポーツ科学科	高齢者福祉	中司 登志美	1	2	[目的・ねらい] 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 [授業全体の内容の概要] 高齢者の特性を説明した上で、高齢者の生活実態や取り巻く社会環境について述べる。その上で、高齢者福祉の歴史を押さえつつ、高齢者の生活を支える法制度を具体的に述べる。更に、地域包括ケアシステムの中で、高齢者、家族、専門職、機関がどのような関係にあり、社会福祉士としてどう調整すべきかを考えることができる授業にする。 高齢者の医療、介護、福祉を支援内容としていた医療ソーシャルワーカー(社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員の資格も所有している)の経験のある教員がこの授業を担当する。
24	健康スポーツ科学科	障害者福祉論Ⅰ	石黒 慶太	2	2	【授業のねらい】 ・障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ・障害者福祉制度の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ・障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ・障害による生活課題を踏まえ、障害者支援に携わる者としての支援のあり方を理解する。 【概要】 障害者福祉の現場で勤務した経験のある教員が、「障害」の概念と特性を踏まえたうえで、障害者福祉や各法制度の変遷、内容及び課題について解説する。加えて、障害者支援に携わる支援者もしくは障害のある当事者をゲストスピーカーとして招き、ゲストスピーカーの講義から障害者支援の現場について思考する機会を設ける。
25	健康スポーツ科学科	介護概論	大塚 和美	2	2	人権を基盤とした介護を理解し、介護福祉を支えている、または関わっている法制度やサービスを理解する。そのサービスの担い手である専門職や介護支援の実践、具体的な方法などを理解する。これらの理解を通して、誰もが避けて通ることができない『介護』について、理解を深めていく。 なお、「知る」「習得する」「考える」「振り返る」を繰り返し、介護に関する知識と技術を身につけられるように学ぶ。 介護福祉士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かした授業を行う。
26	健康スポーツ科学科	カウンセリング	大中 章	1	2	この授業のねらいは、「聞き上手になる」ということである。そのためには、共感的な態度と傾聴の技術を身につけなければならない。これらは、専門家の行う心理カウンセリングの基礎であると同時に、福祉サービスの提供をはじめ、学校での教育など、あらゆる対人援助サービスの基礎でもある。「聞き上手になる」ためには、カウンセリングの知識を習得するだけでなく、練習を積み、聞く技術を身につけていく過程が欠かせない。そこで、この授業では、講義と共に、「聞く」ということを実際にやってみる演習も取り入れていきたい。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
27	健康スポーツ科学科	医学一般Ⅰ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 健康・疾病の捉え方について理解する。 人の身体構造と心身機能について理解する学習とする。 疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 要介護状態や心身機能に障害を持つ方達の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。 [授業全体の内容の概要] 予防的活動である公衆衛生も含めた広範に及ぶ医学的領域のなかから、個人や集団を支える対人援助の実践の場で必要な観察力、判断力の根拠となる健康・疾病に関する概念、人体の構造及び機能、疾病に関する基礎的知識を学ぶ。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。
28	健康スポーツ科学科	心理学概論Ⅱ	大中 章	1	2	この授業のねらいは、「聞き上手になる」ということである。そのためには、共感的な態度と傾聴の技術を身につけなければならない。これらは、専門家の行う心理カウンセリングの基礎であると同時に、福祉サービスの提供をはじめ、学校での教育など、あらゆる対人援助サービスの基礎でもある。「聞き上手になる」ためには、カウンセリングの知識を習得するだけではなく、練習を積み、聞く技術を身につけていく過程が欠かせない。そこで、この授業では、講義と共に、「聞く」ということを実際にやってみる演習も取り入れていきたい。 精神科医療機関での心理臨床経験のある教員が、その経験を生かして、実践的な理解と対応の仕方について指導する。
29	健康スポーツ科学科	医学一般Ⅱ	石橋 亜矢	3	2	[授業の目的・ねらい] 本科目は、健康を支援する職業に就く者、一般職に就く者、家庭に入る者にとっても、人の身体を知り、病気と健康に対する理解を深めることで、履修者個々の今後に活かせることを目的としている。 [授業全体の内容の概要] 本授業は、疾患の理解の基礎となる各器官、重要な疾患、心身の障害とリハビリテーション、健康の定義等、身体・疾患・健康に関わる一連の内容を概観しながら、その基礎的な理解を目指す。 急性期から回復期、そして緩和ケア病棟などで患者とその家族の支援を行う看護師として勤務していた教員が授業を担当する。
30	健康スポーツ科学科	体育実践演習(水泳)	林 浩之	2	2	水泳技能を身に付けることは水に対して自分の安全を守ることであるというの言うまでもないが、泳ぎができても溺れることはある。これは自分の力を過信したり、水に対する知識の不足によるものである。小学校での体育の運動領域の水泳のねらいの中で『安全』が特に強調されるのは水泳だけである。したがって水泳能力はどうしても身につけさせることが必要である。また、水を利用したスポーツ、例えばカヌー、ラフティング、ダイビング、サーフィンなどが盛んになって、これらのスポーツでも犠牲者が多くでている。このことは水に対する知識の不足による。長年水泳指導経験がある教員がその経験を活かして水に対する知識・技能を指導する。
31	健康スポーツ科学科	体育実践演習(武道)	藤本 太陽	2	2	教育基本法の改正から、「伝統と文化を尊重」することが強調され、学習指導要領改訂の課題が、全ての生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させることであるということから、中学校での武道を含む全領域が必修となった。そのことから柔道授業の充実が求められ、柔道の効果的な指導ができるようになっていく。このことは教員の指導力の向上が不可欠であるということが示される。前述のことから柔道の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るために、生徒の意欲を高めさせ、安全に学ばせる指導方法を身につけさせることをねらいとする。本講義は、柔道四段の資格を持ち、競技経験、指導経験がある教員が指導する。
32	健康スポーツ科学科	体育実践演習(器械体操)	吉田 浩	2	2	本授業では、体操競技を専門とする教員が、ジュニア選手からトップ選手までの育成指導の経験や、幼児から小中学校、高校での学校体育の授業経験もとに、器械運動の実践や指導の基本を教材とする。器械運動とは、マット、鉄棒、平均台、跳び箱など、器械・器具を使った運動種目である。それぞれの運動種目は、器械・器具の特性を生かした「技」で構成されている。学生自らが実践することで、各運動種目の「スキル(技の技術)」を習得することに重点を置きつつ、①各技の名称や体系の理解、②安全に配慮した指導者の補助活動についても理解を深める。履修に際し、各運動種目で得手不得手があることは否めない。ただ、この授業で技を克服する意志(挑戦・思慮)や精神を大切にする。積極的な履修を望む。
33	健康スポーツ科学科	体育実践演習(創作ダンス)	木村 真弓	2	2	学習指導要領によって必修化されたダンスの「民謡・フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」を体験して、ダンスの楽しさを体感し、体の使い方を学ぶ。 「創作ダンス」の単位では、実際に創作ダンス作品を作る過程を通して、指導の実際を学び、自分が授業を組み立てる際に、気を付けるべきことを体得する。 ダンスインストラクターとして活動もしている教員が、その経験を活かして、ダンスの楽しさ・素晴らしさ・指導のコツを伝えていく。
34	健康スポーツ科学科	学校保健	中村 雅子	1	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 学校における保健活動について、保健教育と保健管理の内容とそれらに関連づける組織活動について概説する。また、児童生徒の心身の発達や健康問題を小児保健、精神保健の立場からも取り上げる。事故防止について学校安全の内容を取り上げる。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
35	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法Ⅰ	阿部 直紀	1	2	本講義では、中学校と高等学校の保健体育の授業づくりに必要な知識と方法を学ぶ。具体的には、学習指導要領をもとに体育の授業づくりに必要な目標論、カリキュラム論、教科内容論、教材づくり論、学習指導論(系統的指導論・学習集団論)、体育理論の授業づくり論、および教科外体育(運動会・体育的行事・運動部活動)の理論についての講義をする。これらから、保健体育教師になる上で根幹となる基本的な知識を得ることがねらいである。 なお、授業担当者の中・高等学校の教育現場から得た知見とその経験を活かし、学校現場で求められる実践的指導力の課題に対応した学習を進めていく。
36	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法Ⅱ	阿部 直紀	2	2	本講義は「中高保健体育科教員」をめざす学生が受講しているという前提で、体育の模擬授業演習を中心に進める。模擬授業は自己の授業実践の改善点が明確になると同時に、実際に現場で授業実践をする上で必要な自信を養うことができる。模擬授業の進め方は、選択した運動領域について目標の設定、教材・教具の選定、指導法、評価法などを検討し、学習指導案の作成を行う。その指導案にもとづいて模擬授業を実施し、自己の授業実践についての省察をする。 「学習カードの段階的提示をする、教師と生徒の相互のコミュニケーションのあり方を例示する、オーセンティックな評価の仕方を提示する」 なお、授業形態の一つとして4年生の教育実習修了学生が参加したアクティブラーニング(グループ学習や班別学習)でのディスカッションを取り入れ、課題を明確化させその解決方法等を検討していく。さらに、現職の保健体育科教諭の実践を聞く講義から教育現場での現状を把握させ、具体的な保健体育科の授業イメージを創造していく。 以上の内容について、保健体育科教員として実際に学校現場で勤務した経験から実践的な学びを提供する。
37	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法Ⅲ	阿部 直紀	2	2	保健体育教師は体育の授業だけではなく、保健の授業も担当する。本講義は「保健分野(科目)」について全般的な模擬授業を行い、授業の実際を理解することが目的である。 保健の授業では、「教科書を読み、下線を引いて終わり。」や「教員から生徒への一方通行の講義で終わり。」といったことが見受けられる。しかし教育現場における保健授業の位置づけは高く、事前の教材研究が極めて重要である。そこで、模擬授業を通してよりよい保健の授業を行うために必要な指導技術を身につけていく。それと同時に、保健授業を実践するための学習指導案作成の方法についても理解していく。 なお、授業形態の一つとして4年生教育実習修了学生を参加させ、アクティブラーニング(グループ学習や班別でのディスカッション)を取り入れ、課題を明確化し解決方法等を探究する学習を進めていく。さらに、現職の保健体育教師の実践を聞く講義から、学校現場の現状を知り、具体的な授業イメージが作れるようにする。 保健体育科教員として学校現場で勤務した経験から、より実践的な学びを提供する。
38	健康スポーツ科学科	保健体育科教育法Ⅳ	松田 広	3	2	受講する学生は、「中学校・高等学校の保健体育科」の教員採用試験を受験するということを前提とした上で、中学校の体育分野・保健分野及び高等学校の科目体育・科目保健の模擬授業を行い、審査される授業実践を学ぶ。また、教員採用試験の過去問題を中心としてその内容を学習し、模擬試験等を行いつつ試験領域ごとに試験内容を整理して学んでいく。 「学校現場での実際の役割と責任を事例から示す、面接の視点と立ちふるまいの実践、生徒の動かし方の事例、模擬授業の教師行動のあり方の事例」 なお、授業形態の1つとして4年生教育実習修了学生が参加したアクティブラーニング(グループ学習や班別学習)でのディスカッションを取り入れ、課題を明確化してその解決方法等を探究する。そして、現職保体科教諭の実践を聞く講義からは保健体育教員の現状を把握し、具体的なイメージが創造できるようにする。 保健体育科教員として学校現場で勤務した経験から、実践的な学びを提供する。
39	健康スポーツ科学科	保健看護学	近藤 千穂	1	2	本授業は、看護師資格を持ち、養護教諭20年、指導主事10年の勤務経験を有する教員が担当する。 保健看護学は、医療福祉の思想と理論を基盤に、保健と看護を統合したケアリングを追求する学問である。保健看護学の理論枠組み、専門職としての役割・機能、実践活動について総合的に学習し、養護教諭が保健・医療、福祉システムの中で自らのアイデンティティを保ちながら他の専門職と連携していくことの重要性を、法制度、教育制度、国際動向を基に考察し、将来の在り方を展望する。
40	健康スポーツ科学科	学校看護学	中村 雅子	2	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 養護教諭に必要な基礎的な看護の知識と看護援助の方法及び看護技術をまなぶ。看護援助の必要な対象を理解し、適切な看護を実施するために必要な具体的なケアの方法について講義・演習を通して学習する。
41	健康スポーツ科学科	養護概説	中村 雅子	2	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 児童生徒の健康実態に関心を持ち、学校保健及び養護教諭の活動内容と役割を理解し、具体的に展開するための知識及び技術を習得する。子どもの心と身体の健康課題を解決するための養護紀要湯の支援活動(養護実践)の展開を理解し、その過程で用いる技術を習得する。また、その展開過程において地域保健や医療機関との連携した活動の必要性を知る。
42	健康スポーツ科学科	健康相談活動	中村 雅子	2	2	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 近年、養護教諭の行う健康相談活動の重要性がますます高まってきている。学校における健康相談活動のあり方と、養護教諭の役割、健康相談活動のすすめ方、校内外の支援組織とそれぞれの役割、家庭との連携のあり方などについて基礎知識をつけるとともに、具体的な健康相談活動場面を想定して展開できる基礎的な実践能力を習得する。 児童生徒の発達段階における心と身体の特徴および健康実態を把握するとともに児童生徒の健康問題について学校医・学校歯科医や専門機関ならびに学校内連携による健康相談と養護教諭・保健室の機能を生かした健康相談の違いを理解し実践能力を習得する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
43	健康スポーツ科学科	看護学実習	中村 雅子	2	1	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 病院の外来・病棟・関連施設において、養護教諭に必要な基礎的な看護の知識と看護援助の方法及び看護技術の見学と体験実習を行う。
44	健康スポーツ科学科	養護実習指導	中村 雅子	3	1	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 養護実習の内容を十分理解し、実習校での計画に基づいて、保健教育、組織活動、児童・生徒への対応等、養護実践活動全般の具体的な展開を学ぶ。実習終了後には、養護実習の記録を整理する。その中から、研究課題を取りあげて発表する。
45	健康スポーツ科学科	養護実習	中村 雅子	3	4	本授業は、看護師資格、保健師資格を有し、養護教諭として30年勤務経験を有する教員が担当する。 学校において養護教諭実習を行うことにより、学校現場の施設設備や組織を理解し、保健室における児童生徒との関わりにおいても、児童生徒の発達課題や健康課題を理解し、対応についても指導養護教諭や自分自身の経験を通して学ぶことができる。
単位数(合計)					96	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
1	看護学科	栄養と代謝	井上 徹	1	2	本科目は、「身体のしくみ」および「身体の働き」として履修する【解剖生理学】という学問領域に含まれる一分野である。 「代謝」とは、細胞の中で営まれる様々な化学反応のことを指す。 本科目を通じて、体内で営まれる生命現象の原動力「エネルギー代謝」を学ぶための基盤を作る。 そこで本講義では、① 食物を摂取して消化し、栄養素を体内へ吸収するまでの経路、② 吸収した栄養素を全身へ運搬する経路、③ 糖質・蛋白質・脂質という3大栄養素の基本構造、および ④ 3大栄養素を消化・吸収していく工程、までを学ぶ。 栄養素を利用して営まれるエネルギー代謝の工程は、後期「身体の働き～呼吸」および2年次「病態と治療～代謝異常」などで、さらに学んでいく。 糖尿病や脂質異常症などの代謝異常は、腫瘍(…「がん」など)と並んで、近年の疾病構造の中心にあるため、以上に述べた一連の修得は、必ず現場で必要とされる知識になる。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・大学院医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および海外医療協力を携わった研究歴を生かす授業を実施したい。
2	看護学科	食生活論	田中 陽子	1	2	栄養療法はすべての治療の根幹であり、臨床現場でも栄養管理の重要性が再認識され、診療報酬においても多職種による質の高い栄養管理に対し、評価がされるようになりました。今後ますますチーム医療が推進されていく中、その中心的存在となる看護師は、臨床栄養学の知識をより深めておく必要があります。食生活論では、臨床分野での実務経験豊富な管理栄養士が、より実践的な知識の習得を目指した講義を行なって参ります。
3	看護学科	身体のしくみ	井上 徹	1	2	身体の構造【解剖学】と働き【生理学】を融合した【解剖生理学】という広い分野を、前期「身体のしくみ」、「栄養と代謝」および後期「身体の働き」を通して1年間学ぶ。解剖生理は、診断、治療、看護、検査、リハビリテーション、公衆衛生などの医療活動を実践する基盤だけでなく、日頃意識せずできている行動や生活がどのようにしてできているのか、自分自身の身体を知ることによって、健康な身体であることがどのような営みであるかを認識することができる。解剖生理学の膨大な範囲を教科書的に羅列して知ろうとすると、「そのような身体の構造がどのような働きに適しているのか」という身体現象が見えにくく、単に「暗記物」となりがちである。そうならないように、「覚える」よりも「考え理解する」ことに重点を置く。【身体活動の最小単位「細胞」を生かす体内環境】という視点より、解剖生理学を以下のように組み立てる：① 細胞の構成と働き、② 細胞を栄養する「体液」という環境の構成と働き、③ 体液環境を維持するための身体各部位の仕組みと働き、④ 身体各部位の働きを調節して統合し、人体として機能させる仕組みと働き。前期の本科目では、主に①と②に取り組み、後期に③から④へ進む。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・大学院医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学研究に携わった研究歴を生かした授業を行いたい。
4	看護学科	身体の働き	井上 徹	1	2	身体の構造【解剖学】と働き【生理学】を融合した【解剖生理学】という広い分野を、前期「身体のしくみ」、「栄養と代謝」に引き続いて学ぶ。解剖生理は、診断、治療、看護、検査、リハビリテーション、公衆衛生などの医療活動を実践する基盤だけでなく、日頃意識せずできている行動や生活がどのようにしてできているのか、自分自身の身体を知ることによって、健康な身体であることがどのような営みであるかを認識することができる。解剖生理学の膨大な範囲を教科書的に羅列して知ろうとすると、「そのような身体の構造がどのような働きに適しているのか」という身体現象が見えにくく、単に「暗記物」となりがちである。そうならないように、「覚える」よりも「考え理解する」ことに重点を置く。【身体活動の最小単位「細胞」を生かす体内環境】という視点より、解剖生理学を以下のように組み立てる：① 細胞の構成と働き、② 細胞を栄養する「体液」という環境の構成と働き、③ 体液環境を維持するための身体各部位の仕組みと働き、④ 身体各部位の働きを調節して統合し、人体として機能させる仕組みと働き。前期で①と②を修得したので、後期の本科目では③から④に取り組む。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・大学院医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学研究に携わった研究歴を生かした授業を行いたい。
5	看護学科	看護と病態	井上 徹	2	2	前期【病態と治療】に引き続き、1年次【解剖生理学、栄養代謝学および発生学】を基にして疾病の成り立ち【病理、病態】を理解することを通じて、臨床へ橋渡しする。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および生理学の研究歴を生かし、理屈立てて会得する授業にしたい。
6	看護学科	感染と免疫	井上 徹	2	2	人体に侵入して「感染症」という病気を起こす「病原体」は、メートル大の寄生虫(条虫)から百万分の1メートル大の蛋白質(異常プリオン蛋白)まで無数にある。その中で、顕微鏡で観察されるレベルの「病原微生物」を中心に、医療現場で頻繁に問題となる、あるいは重大な感染症を引き起こすものを知る。これらを知ることを通じて、感染症の予防法や治療法の原理を理解できるようになる。 人体に侵入してからの経過は、体内にある防御機構「免疫」に依存しており、この工程を知ることによって、感染症発症の予防や治癒の原理を理解でき、さらに人為的に免疫を起こさせる「ワクチン」の予防接種も理解できるようになる。ただし「免疫」については、他の科目「身体の働き(1年)」「看護と病態(2年)」などを通じて、段階的に理解していくこととする。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・大学院医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および海外医療協力を携わった研究歴を生かす授業を実施したい。
7	看護学科	病態と治療	井上 徹	2	2	前期【病態と治療】に引き続き、1年次【解剖生理】に基づいて、疾病の発生機序を明らかにする【病理、病態生理】を修得する。詳細はシラバス「病態と治療」を参照されたい。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・大学院医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および海外医療協力を携わった研究歴を生かす授業を実施したい。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
8	看護学科	援助的人間関係論	松本 陽子	1	1	看護は対象との対人関係を基盤として行われるものである。その看護の基本となる援助的人間関係の形成について理解を深めるとともに、専門職として援助的な関係を形成していくための技術を習得する。 本授業では、看護師および看護教育での経験および研究活動を活かして臨床現場に即した実践的な内容を教授する。
9	看護学科	臨床心理学	川島 範章	3	2	臨床心理学とは「人間の心理的適応・健康や発達、自己実現を援助するための、心理学的人間理解と心理学的方法を、実践的かつ理論的に探究する心理学の一領域」とされる。本講義では、臨床心理学の成り立ちを学ぶとともに、臨床心理学の代表的な基礎理論について学ぶ。また、学校臨床における対人援助の実践について学ぶことで、人間尊重の精神とこころの問題への理解を深めることを目的とする。その際、教職及び教育行政の経験のある教員が、その経験を生かして、教育現場の実態に対応した実践的な指導と助言を全体と個別に行う。
10	看護学科	学校保健	岡 和子	2	1	今日、大きく様変わりしようとしている学校教育、なかでも児童生徒の健康問題は山積している。これらの現状を捉え、ヘルスプロモーションに基づき、看護の専門性に基づいた知識、技術、科学的な理論と実践の上に立脚した学校保健活動の展開について学ぶ。「学校保健の理念」「健康管理」「健康教育」をテーマとして、養護教諭として教育現場で的確に実践できる資質力量を身につける。 この科目は現職の養護教諭として学校現場で活躍し、また、大学教員として経験豊富な教員が指導します。
11	看護学科	疫学	井上 徹	3	2	環境問題・公害と健康被害、感染症の流行防止、食中毒と原因究明、喫煙や化学物質と発ガンなどの多岐にわたる社会問題では、その対策への根拠は「疫学」という研究方法論に基づき提供され、さらに、行政レベルの施策への指針にも取り入れられる。疫学は、ヒトの健康事象について、原因と結果という「因果関係」を、用意周到にデザインされた研究方法を用いて証明する、実用的な学問である。この研究方法では、ヒトの健康問題を個人でなく「集団」として評価するという独特のアプローチをとる。この方法は、地域住民を対象とする公衆衛生領域において不可欠であるだけでなく、患者個人を対象とする医療現場においても、医療者－患者間で良好な医療が行われるための根拠を提供している。本講義では保健・医療における疫学の有効性・有用性を知り、疫学データに不可欠な様々な「指標」の意味・計算法・評価法を身に付け、疫学研究の中心課題「因果関係」を明らかにしていくための、様々なレベルの疫学研究方法を理解する。 医学部修了、臨床医、医学博士、医学部・大学院医学系研究科教員という担当教員の学歴・職歴、および海外医療協力に携わった研究歴を生かす授業を実施したい。
12	看護学科	保健統計論Ⅰ	田中 知徳	3	1	保健統計学とは、集団を対象として、その集団の健康に関する現象の数量的な特徴を観察・把握・分析することを目的とした学問である。 最近、少子・高齢化の進展や疾病構造の変化などに対応するために、科学的根拠に基づいた保健・看護活動が求められている。この科学的根拠に基づいた保健・看護活動の実践に当たっては、保健統計学の知識・技術が不可欠である。 今回の講義を通して、保健統計学の理論と手法を習得し、地域保健・看護活動において効果的に専門性を発揮できることをめざす。 授業にあたっては、保健所長としての長年の勤務経験を生かした講義、演習を行います。
13	看護学科	保健医療福祉行政論	齋藤 公彦	2	4	少子高齢化社会で保健師活動の重要性が強く言われ、健康づくりや在宅療養者の支援の需要の拡大から保健師活動が重要な課題となっている。その保健師活動を実践する上で不可欠な知識と技術（保健福祉計画の策定・実践・評価・報告）としての基盤をなす保健医療福祉行政の仕組みや変遷、その制度や内容等を学習する。 行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実践について具体的に教授する。
14	看護学科	基礎看護学	岡 和子	1	2	人間の理解を中心に、健康、環境、看護の定義・役割・機能などに関する看護の概念について学習する。看護専門職として、自律していくための必須条件を学び、看護実践の基本となるケア能力を育成する。また、看護の発達の歴史を理解し、看護を科学的に思考・分析する能力を培うとともに、今日の看護のありようとこれからの看護の方向性を考察する。学外授業（病院見学）に該当するものとして、DVD学習・グループワークを取り入れ、看護の基本概念、看護活動の場、看護の役割機能、専門性等について、より効果的に理解できることをめざす。 この授業では、看護師・大学教員として経験豊富な教員の指導の下で講義・演習を実施する。
15	看護学科	看護倫理学	内田 史江	2	1	人間を対象とし、生と死に向き合う職業である看護専門職は、倫理的であることが求められる。本授業では、看護専門職として必要な看護倫理の原則・看護倫理の課題について理解し、現実的な看護問題に包含される倫理的課題について考察し、理論的な解決プロセスを学ぶ。本授業では、看護師および看護教育について経験豊富な教員により指導を行います。
16	看護学科	看護理論・看護過程論	中川 名帆子	2	2	対象の個別性やニードを捉え、看護を系統的・科学的に実践するための方法論である看護過程の基本的知識・技術を習得する。また、既習の看護理論が看護過程の中でどのように活かされているのかを理解するとともに、看護実践における意義を知る。 事例を用いた看護過程の展開の演習では、個別またはグループワークを行うことで看護過程の具体的なプロセスを学ぶ。 この授業では、看護師としての臨床経験や看護教育の経験が豊富な教員が指導にあたります。
17	看護学科	生活援助学Ⅰ	中川 名帆子	1	1	日常生活援助とは単に療養上の世話という意味にとどまらず、健康を回復していくことを助けるという看護独自の介入技術であり、対象の安全・安楽、尊厳と権利を守り、健康生活を支援していかなければならない。そのため、看護技術の概念、範疇特性、一般原理、技術獲得の条件について学習し、人間の健康生活に注目した日常生活援助の基本となる理論と原理原則に基づく看護技術の実践を統合し、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を養う。本授業では、これらの看護援助に必要な知識と技術の確実な習得に向けて、クラス分けを行い少人数制での授業を展開する。本科目では、臨床現場における看護実践の経験がある教員がその経験を活かして具体的な援助技術の指導を行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
18	看護学科	生活援助学Ⅱ	福田 久仁子	1	2	日常生活援助とは単に療養上の世話という意味にとどまらず、健康を回復していくことを助けるという看護独自の介入技術であり、対象の安全・安楽、尊厳と権利を守り、健康生活を支援していかなければならない。そのため、看護技術の概念、範疇特性、一般原理、技術習得の条件について学習し、人間の健康生活に注目した日常生活援助の基本となる理論と、原理原則に基づく援助技術の実際を演習を通して統合していく。 本科目では、臨床現場における看護実践の経験のある教員が、具体的に援助技術の指導を行う。
19	看護学科	治療援助学	中川 名帆子	2	2	治療や処置は対象の症状に応じて医師の指示により行われるが、看護師としては実施される治療や処置の専門的な知識とともに責任と倫理性を持ち、対象が安全・安楽に治療を受けられるよう援助していくことが大切である。 本授業では、診療の補助における看護師としての基本的な態度、呼吸・循環を整える技術、創傷管理、検査時の看護、対象への侵襲が高い技術である与薬、ME機器の取扱いに関する基礎的理論と基本的技術を学習するとともに、対象の立場に立った看護について学習する(知識・技術・態度)。 1. 授業は各単元に関する事前学習と講義および演習により展開する。 2. 技術の獲得と演習時の安全の確保のために、2つのクラスに分ける。 *この授業は1クラスで学生番号が前半の学生を対象とする。 3. 看護師として臨床経験がある教員の指導の下、少人数のグループ制で行う。
20	看護学科	リスクマネジメント	荒井 葉子	2	1	質の高い医療看護を提供するためには、安全についての意識と共に安全を確保する技術が、必要不可欠である。医療安全の歴史と医療現場の陥りやすい看護事故、対象の安全を守る技術について教授する。さらに、事故防止の観点から組織の損失を最小に抑え、医療の質を保証するためのプロセス、分析手法を学び、看護専門職としての意識を高め看護実践能力の向上につなげる。看護師としての臨床経験や実習指導から、様々なヒヤリハットの場面を経験してきた教員および、病院で医療安全管理者を務めている医療安全のスペシャリストが、その経験を活かして実践的な課題への対応を教授する。
21	看護学科	在宅看護論	平井 三重子	2	2	在宅看護の対象である疾病や障害をもちながら地域で生活している人とその家族を生活者として捉える。その生活の継続・QOL向上のための支援を行う上で必要となる基本的な視座と看護援助、社会資源の活用・チームケアのあり方を理解・考察できるようにする。 地域包括ケア時代の保健・医療・福祉の在り方、看護の在り方を理解・考察できるようにする。 講義は、臨床と在宅での実務経験がある教員が、その経験を活かして地域包括的な課題への対応を指導する。
22	看護学科	在宅看護援助論	大元 雅代	3	2	少子・高齢社会の到来によって、高齢者や障害者の在宅ケアニーズはますます高まっている。施設内外を問わず、看護援助を必要とするすべての人々に対して看護機能を果たす必要がある。そのために、人々の地域社会での生活を基盤として、健康回復や保持増進のための看護や保健医療福祉従事者と協働で地域を支えていく看護を実践する能力が求められる。在宅看護援助論では、在宅療養者とその家族の看護上の問題を明確にし、看護計画の立案ができる力を身につける。 講義は臨床と在宅での実務経験がある教員が行なう。さらに現場の訪問看護師からも専門的な知識・技術について学ぶ。
23	看護学科	家族看護論	大元 雅代	2	1	少子・超高齢社会の現代では医療の進歩や認知症の増加、難病での在宅療養など疾病構造は大きく変化している。社会生活を送りながら療養している患者の生活に、家族の存在は大きな影響を及ぼしており、家族への支援のニーズは高まっている。 家族を1つのケアの対象として援助するために、具体的な看護介入について学ぶ。 さらに患者のみならずその家族のQOLを高めることを目標として、その理論と実践を学ぶ。 臨床で家族のサポートの経験のある教員が看護の対象としての家族について講義を行う。
24	看護学科	地域看護論	齋藤 公彦	1	1	今日、栄養の過多・過少や労働・運動・休養(睡眠)の課題を基盤とする健康障害が世界的な問題となっている。本講義では健康管理の基礎的理論や健康行動理論の基礎を学ぶことにより、看護専門職としての保健指導を可能とする基盤的方法論を身につける。 ※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
25	看護学科	エンド・オブ・ライフケア論	大元 雅代	2	1	終末期における症状緩和、患者のQOLを大切にしながら日常生活を支える看護は重要であり、看護師の果たす役割は大きいと考える。本講では死に対する考え方を深めるとともに、人としてどのように生き、対象のエンド・オブ・ライフを意味あるものとしていくのかを考えられることをねらいとする。終末期にある患者を支えるために必要な知識・技術について理解を深め、看護者に求められる資質・スキルについて学ぶことがねらいである。また、終末期にある人とその家族が意義のある生(エンド・オブ・ライフ)を全うできるような援助の在り方について、理論と方法を学び活用できるよう援助の在り方について、理論と方法を学び活用できるよう学習を深めることができる。 この科目は看護師としての実務経験を持ち、介護支援専門員として地域医療の現場で実務経験を持つ教員が単位認定者である。
26	看護学科	成人看護学総論	上村 千鶴	1	1	成人期は、人のライフサイクルにおいてもっとも長く、人口比率が大きく、身体的精神的には徐々に安定し、社会・経済的に重要な役割をもつ時期である。また、成人期にある人々は、多種多様な生活様式や 価値観をもち、そのことが人々の健康問題や家族関係などの社会的問題へと発展することもある。 本講義では、成人期の看護の特徴を、発達、生活習慣、社会、ストレス、健康、アンドラゴジー教育理論 の側面から総合的に理解する。さらに、健康問題を持つ成人期の対象の看護展開に必要な看護理論や概念モデルについて学習する。 成人看護領域で臨床経験をつんだ教員による授業であり、学生の興味・関心を引き出す主体的授業態度を養う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
27	看護学科	生活習慣病と看護	秋山 由加里	2	1	成人期にある人は精神的・経済的に独立し社会人として活動するようになるが、その活動が個人の生活習慣やストレスをもたらす健康障害を引き起こす場合がある。成人期の特徴や生活習慣を中核に捉え、学生自身や身近な人の実生活を通して、「健康」とは何かを探究する。生活を営むその人にとっての最適な「健康」について考察し、看護実践に必要な慢性疾患看護学の基礎的知識の概要について学習する。疾患と共に生きる人を身体的・心理的・社会的側面から全人的に捉え、その人の健康障害の各レベルに対応する看護の役割や機能について学び、看護実践能力を養うことを目指す。本科目では特に生活習慣病とは何か、生活習慣に関連して発症する呼吸機能障害、糖代謝機能障害、脳神経機能障害、腎機能障害のある患者の慢性期の看護について学ぶ。さらに各健康領域における実務経験のある医師・看護師から最新の医療・看護について学ぶ。
28	看護学科	成人慢性期疾患看護	平川 幹子	2	1	成人期にある人は精神的・経済的にも独立するが、社会人としての活動は個人の生活習慣やストレスによって健康にひずみをもたらす障害を引き起こす。成人期の特徴や生活習慣を中核に捉えて、学生自身や身近な人の実生活を通し「健康」とは何かを探究する。生活を営むその人にとっての最適な「健康」について考察し、看護実践に必要な慢性疾患看護学の基礎的知識の概要について学習する。疾患と共に生きる人を身体的・心理的・社会的側面から全人的に捉え、その人の健康障害の各レベルに対応する看護の役割、機能について学び看護実践能力を養うことを目指す。さらに各健康領域における現場のプロフェッショナルから最新の医療・看護について学ぶ。 本科目では特に、がん化学療法、放射線療法および血液疾患、代謝機能障害など慢性期疾患看護について学ぶ。さらに各健康領域における現場のプロフェッショナルから最新の医療・看護について学ぶ。
29	看護学科	周手術期看護	上村 千鶴	2	1	成人期にある人は精神的・経済的にも独立するが、社会人としての活動は個人の生活習慣やストレスによって健康にひずみをもたらす急激な障害を引き起こす。成人期の特徴を身体的・心理的・社会的側面から全人的に捉え、急激な健康破綻をきたした対象者及び家族の危機的な状況に対する看護の役割、機能について学ぶ。実務経験を有した科目担当教員から、臨床看護に即した教授を受けるとともに、各専門領域における臨床のプロフェッショナルから最新の医療・看護について学ぶ。
30	看護学科	成人急性期疾患看護	上村 千鶴	2	1	成人期にある人は精神的・経済的にも独立するが、社会人としての活動は個人の生活習慣やストレスによって健康にひずみをもたらす急激な障害を引き起こす。成人期の特徴を身体的・心理的・社会的側面から全人的に捉え、急激な健康破綻をきたした対象者及び家族の危機的な状況に対する看護の役割、機能について学ぶ。さらに各専門領域における現場のプロフェッショナルから協力を得て最新の医療・看護について学ぶ。 本授業では、主に各論編として脳神経の外科的療法、心筋梗塞、心臓弁膜症、肝臓がん、胆石症、女性生殖器(乳がん)、男性生殖器(前立腺がん)、膀胱腫瘍の術前術後に必要なアセスメントおよび看護を学ぶ。
31	看護学科	成人看護過程論	平川 幹子	3	1	生活習慣病と看護、慢性期疾患看護、急性期疾患看護で学習した健康機能障害をもつ対象者の事例について、情報収集、アセスメント、看護診断、看護計画、評価までの一連の看護過程の展開方法を理解する。また、成人期にある対象者の発達段階、発達課題、生活環境などを考慮し、健康機能障害に伴う看護上の問題を確定し、適切な看護援助を計画・立案するための思考力を養う。そして、看護問題の解決に必要な知識・看護過程展開技術の習得を目的とする。さらに成人看護学実習(臨地実習)で対象者に対応するための実践的な看護展開能力の育成をねらいとする。授業内容は、実務経験を有する科目担当教員および成人看護学実習担当教員による個別指導を行い、効果的な学習を行う。
32	看護学科	成人看護援助学	高垣 由美子	3	2	成人期にある患者に適切な看護援助を行うために、必要な知識・技術を習得することを目的とする。さらに成人看護学実習(臨地実習)でよく出会う場面に対応できるための基本的な実践能力の育成をねらいとする。 成人期の看護における臨床経験および実習指導経験のある教員の指導の下、看護技術の演習を行う。
33	看護学科	クリティカルケア看護	榊 美穂子	3	1	クリティカルケア看護は生命の危機的状況にある急性・重症患者や家族の看護を探究する科目である。 クリティカルな患者の病態・全身状態の管理・急変時の対応、危機状態にある患者・家族へのケア、チーム医療、クリティカルケア看護師に必要な能力と思考プロセスについて学ぶ。
34	看護学科	高齢健康科学Ⅰ	木宮 高代	1	1	超高齢社会と核家族化の進む我が国の現状の中、高齢者に対する身体的・精神的・社会的(霊的)に理解する学修は不可欠である。身体的側面では、高齢者の加齢変化を通して、精神・社会的側面への影響に加えて認知症についても合わせて学修する。さらに、個々の高齢者の自己概念を学ぶことにより、個の受け止め方の相違を理解し、その背景に個の置かれた社会的側面も同時に考えることが必要であることを学修する。また、学外研修として国立療養所長島愛生園・長島愛生園歴史館を訪問しハンセン病の歴史や人権についての学修を深める。この授業は臨床現場での看護活動を実践した教員の経験を活かし、高齢者個々の生活史が現在を生活している高齢者にどのように影響を与えているのか、まだ理解し得ないことへの謙虚な気持ちも同時に学修する。
35	看護学科	高齢健康科学Ⅱ	池田 彩加	2	1	高齢者の身体的変化の本質である各機能の老化過程をふまえ、老年期特有の疾患、治療(薬物)が高齢者やその家族に及ぼす影響について学び、高齢者への適切な診断アセスメント、リスクマネジメントのできる高度な看護実践能力を養う。 健康の各段階、症状に応じ高齢者やその家族のQOLを維持・向上する看護について教授する。 高齢者の健康状態に応じたアセスメントに必要な課題発見力、創造力、計画力を養い、高齢者の特性をふまえ現有機能を最大限に活かした援助へ展開できることを目指す。 本講では、看護師として高齢者および終末期患者・家族看護の経験、看護学生への実習指導の経験がある教員が実践的内容に即して教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
36	看護学科	老年看護援助学Ⅰ	荒井 葉子	2	1	<p>老年期にある患者の特徴を理解し、健康上の問題や障害を持つ高齢者の生活におけるニーズや諸問題を抽出し有効な看護援助を提供するために、適切な看護援助計画・立案するための思考力を養う。</p> <p>又、老年期にある患者に適した、個別性のある看護を提供するために、臨床判断技術として、対象の理解、生活上・健康上の背景、論理性・推理力を必要とする看護過程の展開を行い、個別性のある援助技術の習得を目的とする。</p> <p>紙上患者事例を用い、アセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価のプロセスを系統的教授する。</p> <p>又、豊富な臨床経験や教育経験がある教員及びその指導の下に、有効な援助技術を習得するため臨床判断技術として、看護過程、看護記録に関する思考過程を学び、対人関係能力、看護介入のための技術を修得する。</p>
37	看護学科	老年看護援助学Ⅱ	荒井 葉子	3	1	<p>老年期にある患者の特徴を理解し、適切な看護援助を行うために、必要な知識・技術を習得することを目的とする。</p> <p>更に看護問題の解決に必要な看護過程展開し、看護介入のための技術として、高齢者の日常生活援助、対象の訴えに対する看護技術、教育指導技術など演習を通し修得する。</p> <p>又、豊富な臨床経験や教育経験がある教員及びその指導の下に、健康障害を持つ高齢者に対し、対人関係能力として、非言語的コミュニケーション、タッチング・スキンシップを図り、看護介入のための技術を修得する。</p>
38	看護学科	認知症の人の家族への看護	木宮 高代	3	1	<p>本科目では、認知症の人とその家族への看護について理解し、認知症看護を実践するための知識・技術・態度を養う。</p> <p>本科目では、看護師として高齢者・認知症高齢者および終末期患者の入院および外来看護、救命救急看護の経験、看護学生への実習指導の経験がある教員が実践的内容に即して教授する。</p>
39	看護学科	子どもの成長と健康	田村 美子	2	1	<p>小児看護学の対象である子どもと家族の理解と、小児看護の理念および役割を理解する。そのため、社会の中で成長・発達する子どもの特性を理解し子どもと家族が個人の権利を保障され、より健康に成長・発達していく過程を支援していくために必要な知識について学ぶ。また、成長発達の過程にある子どもの問題や特徴、子どもと家族が抱える問題を理解し、子どもと家族の健康を支えるための援助について学ぶ。</p> <p>この授業では、臨床経験、教育経験の豊富な教員が指導を行う。</p>
40	看護学科	子どもの病気と看護	田村 美子	2	1	<p>小児看護学の対象である子どもと家族を理解する。小児と家族を看護する基本的態度、子どもの権利を尊重する看護実践の重要性を学ぶ。そして成長・発達過程にある子どもの健康上の問題とその特徴、子どもと家族が抱える問題を理解し、病気の子どもと家族への援助について学ぶ。</p> <p>担当教員は、医療機関において小児看護実践の経験を有し、病気の子どもと家族の看護実践のあり方を概説する。</p>
41	看護学科	小児看護援助学	佐竹 潤子	3	2	<p>健康障害のある子どもの成長・発達に与える影響を子どもの反応や、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解し、発達段階に応じた療養生活、家族への援助を学び、子どもの発達を助けるための看護の役割を考える。また、成長発達の過程にある子どもの問題や特徴、子どもと家族が抱える問題を理解し、子どもと家族の健康を支えるための援助について学ぶ。さらに、子どもの成長・発達や子どもの家庭、生活環境に起因する健康障害について理解を深め、健康を害された子どもと家族のニーズに対し、QOL向上への看護について学ぶ。</p> <p>臨床経験の豊富な教員や認定看護師により、知識や経験を活かして、具体的な看護を指導する。また、小児看護に必要な技術演習を行う。</p>
42	看護学科	障害児・者ケア論	荒井 葉子	3	1	<p>障害児・者の潜在能力と可能性をいかに引き出すか、その人の発達段階や家庭状況を考慮した、より質の高い看護をすることが重要な課題である。障害児・者が将来にわたって質の高い人生を送ることができるよう援助するために、社会資源の活用し、支援体制を整備・構築する必要性とその方法論を学ぶ。さらに、障害児・者が安心して自立した生活を送れるための長期的な看護のあり方をノーマライゼーションおよびユニバーサルデザインの理念に基づいて学習する。</p>
43	看護学科	ケアリング看護論	田村 美子	3	1	<p>看護実践におけるケアリングの重要性を理解し、患者の身体的、精神的、社会的ニーズに対応する能力を養う。倫理的な看護ケアを提供するための基礎を学ぶ。</p> <p>看護実践におけるケアリングの理論と技術を探求し、実際の看護場面での適用方法を学ぶ。さらに、患者とのコミュニケーション、感情の管理、チームでの協働、倫理的な問題の対応方法を学ぶ。医療機関での臨床経験を活かし、看護に必要な理論を教授する。</p>
44	看護学科	母性と生命科学Ⅰ	藤原 弘子	2	1	<p>母性機能、母性を取り巻く社会環境および母性看護の役割について学ぶ。母性の健康は次世代の健康に受け継がれていくため、生命の継承に関わる母性看護の役割と課題について考えを深める。</p> <p>また、女性のライフステージ各期における特徴および健康問題と看護の役割、妊娠に伴う身体的・心理社会的変化とその看護について学ぶ。</p> <p>母性各期の健康支援の中核となる周産期の女性に焦点をあて、妊娠期の看護について理解を深め、その援助に必要な知識・技術を学ぶ。</p> <p>* 看護師・助産師として臨床経験のある教員が、その経験を活かして女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護、妊娠期にある女性の対象理解とその看護について、具体的な内容を教授する。</p>
45	看護学科	母性と生命科学Ⅱ	永田 華千代	2	1	<p>周産期の看護を中心に、分娩期および産褥期・新生児期の看護について、その援助に必要な知識・技術を学ぶ。特に、分娩期の看護では、分娩の生理や産婦の心理に着目し、安楽なケアについて視聴覚教材を通して学ぶ。また、産褥期・新生児期の看護では、妊娠・分娩期からの母子の経過に関連づけて対象を理解し、母子が正常な経過を辿ることを支援するために必要な知識・技術を学ぶ。</p> <p>出産は女性の一生の中で大きな出来事であり、産婦や家族にとって満足できる体験となるように援助する必要があることを理解するとともに、女子学生にとっては自らの母性意識を高め、男子学生にとってはパートナーへの思いやりを養えるよう、助産師として臨床経験のある教員が、臨床での体験や事例を通して身近なことと受け止められる講義内容とする。</p>

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
46	看護学科	母性看護援助学	永田 華千代	3	2	妊娠・分娩・産褥期にある女性の特性および新生児の特徴を理解し、母子を関連づけて、その援助に必要な知識・技術について学ぶ。 特に、褥婦と新生児の身体的変化や心理社会的側面での適応を促す支援や、正常な経過を辿るための看護および健康を逸脱した場合の看護について学ぶ。 また、事例を用いた看護過程の演習を通して、ウェルネスの視点から対象理解を深め、必要な看護ケアを考察する。 さらに、妊婦の観察技術、褥婦・新生児の観察技術、新生児蘇生法、正常な産褥経過を支援するための理論と知識・技術について、演習を通して習得する。 ＊看護師・助産師として臨床経験のある教員が、その経験を活かして妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある女性および新生児の対象理解とその看護について、具体的な内容を教授する。
47	看護学科	心のケア	後藤 満津子	2	1	精神とは何か、精神の健康とはどういうことなのかを心理学的視野から学び、今注目されている脳科学や感情活用理論や対人関係論へと発展させながら、個人から家族、集団への心の健康について学修する。 精神看護の臨床経験と教育経験豊富な教員が、現代社会の心の健康について多角的視点から指導する。
48	看護学科	精神看護援助学Ⅰ	後藤 満津子	2	1	心のケアで学ぶ基礎的知識を理解しながら、精神の疾病・障害に関する基礎的知識と、その看護に必要な基礎的な援助方法・技術・態度を学ぶ。 さらに精神保健医療福祉のリハビリテーションの現状と課題について学修する。 精神看護の臨床経験と教育経験豊富な教員が、精神障害をもつ人の医療・看護について指導する。
49	看護学科	精神看護援助学Ⅱ	松本 陽子	3	1	心のケア・精神看護援助学Ⅰで学んだ既習知識をふまえて、精神障害のある対象への治療的対人関係形成や看護過程について演習を行いながら、看護のポイントを理解する。 本授業では、病院や地域における精神看護の経験がある教員が、その経験を活かし、実習でもより学びが深まるよう、臨床現場に即した実践的な内容を教授する。
50	看護学科	看護とカウンセリング	後藤 満津子	3	1	援助的人間関係、心のケア、精神看護援助学Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎的知識を踏まえて、治療的人間関係形成について講義と演習を行い、対人関係を展開していくためのカウンセリングの基本的技術を修得する。共感的態度、受容的態度について理解を深め、カウンセリング・マインドを身につける。自己理解・他者理解を深め、自己の傾向について考察できる能力を養う。 この授業では、看護師としての臨床経験・教育経験の豊富な教員が指導に当たります。
51	看護学科	養護概論	秋山 由加里	3	2	養護学概論は養護教諭の専門性に基づいた養護活動の展開について学ぶ。養護教諭としての基礎的応用的な知識・技術を学び、科学的な理論と実践のなかで研究的な資質・力量を身につける。「学校教育における養護教諭の果たすべき役割」「養護教諭の制度と職務内容の変遷」「養護教諭の職務の進め方」をテーマとして、教育現場での確に実践できる資質力量を身につける。 この科目は、看護師、高等学校看護教員や養護教諭として教育現場で実務経験のある講師が体験から得られた知識や生徒の実態についての理解をもとに指導します。
52	看護学科	災害看護・国際看護活動論	長野 扶佐美	4	1	災害看護の授業については、災害看護が生命の危機や、健康が脅かされる災害の急性期だけでなく、その後の生活や地域が安定するまで継続されることに鑑み、臨床現場や災害現場での災害看護活動を実践してきた教員の指導のもと、災害看護の基礎知識と看護技術、災害看護の課題と看護職の役割について教授する。また、国際看護の授業については、これまでに国内外での看護活動を実践した教員により、国際的な視点で世界の人々の健康を支援するために、看護職者の果たす役割や開発途上国や自らの社会・文化と異なる「異文化」についてグループワークを取り入れながら、国際看護の課題と対応について教授する。
53	看護学科	看護学教育論	木宮 高代	4	2	看護学教育は社会からの看護への要求や、期待される成果の質に対して責任を負うものである。教育の基本的な考えに基づき、教育活動の展開を通して、看護専門職を育成するための看護学教育のあり方について教授する。具体的には、看護学教育の特殊性、目的・目標、看護学教育の大学での教育の必要性について学習する。資質が問われる看護学教育の構造と内容の中で、看護の感性をいかに培うかを考察する。また、看護教育制度、看護教育課程、看護教育を支える学習方略、教育方法、看護学実習の位置づけ、意義、特質についても学習する。看護系大学における教育経験のある教員が、その経験を活かして実践的な方法論を指導する。
54	看護学科	基礎ゼミⅠ	秋山 由加里	1	1	大学生として、自ら主体的に学び、新しい知見を得、疑問を持ち自分の力でその事象を解き明かし、「聴き」「話し」「読み」「書き」「発表」といった能力を講義やグループワークを通し身につける。そして他者の意見を受け入れ、自分の考え方を磨いていくプロセスを学習する。 特に看護学教育では、将来看護職として社会に出たときに必要な基礎力を学ぶ。 多職種ケアマネジメントにおけるグループ学習でのファシリテーターや社会人としての経験を活かし、「書き」「聴き」「話し」「発表」といった能力が身につくように指導する。看護師としての臨床経験や、大学教員として経験豊富な教員が指導に当たる。
55	看護学科	基礎ゼミⅡ	佐竹 潤子	2	1	看護キャリアの形成を図るために必要な知識とスキルを講義・演習・グループワークを通して学習し、キャリアデザインを描く能力を育成する。 臨床経験・研究業績のある教員の指導の下、ゼミナール形式で行う。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
56	看護学科	看護研究Ⅰ	福田 久仁子	3	1	①看護現象の中に、自身が興味・関心がある問題や追求すべき課題を見出すことができる。 ②見出した看護現象の中の問題・課題を探究するための文献検討をすることができる。 ③看護現象の中の問題・課題を探究し、看護の新たな知見を得る方法としての看護研究の意義を理解することができる。 ④研究デザインの種類とその特徴を理解することができる。 ⑤看護研究を進める上での研究計画書の必要性を理解し、研究計画書を作成することができる。 ⑥看護現象の中の問題・課題を見出し、研究計画書を作成する全過程を通して、看護職に必要な探求能力、論理的思考を習得することができる。 ＊1.研究の基本的な知識習得は一斉授業で行うが、文献検討・研究計画書作成は、学生の興味・関心に応じてグループを編成し、ゼミナール形式で行う。 ＊2.学生の興味・関心のある分野についての問題・課題の明確化・文献検討、研究計画書の作成は、学生の興味・関心領域の研究経験がある教員がゼミ担任となり、その経験を活かして研究指導する。
57	看護学科	看護研究Ⅱ	中川 名帆子	4	2	看護学分野において課題を焦点化し、研究の意義と目的を明確にして取り組み、明らかとなった結果をもとに研究論文にまとめる。この研究のプロセスを通して看護を追求する基礎的能力を学ぶ。 看護学分野における研究実績のある教員が、その経験を活かして課題への対応を具体的に指導する。
58	看護学科	国際援助と保健資源	木宮 高代	4	1	世界の多様な文化・地域特性、人々の持つ多様な価値観を理解した上で、国内外で国際看護を実践できる基礎的な知識・態度を修得する。 ＊1.教員のカナダ・インドネシア・韓国の大学での研修・講演経験や韓国・中国・台湾・スウェーデンの大学の教員・学生との国際交流の経験等から学んだ各国の文化や価値観、看護の違い等を学生に伝えることで、人々の多様性・文化・価値観を理解した上でケアWすることの重要性を理解させ、国際看護活動や在留外国人にケアを実践する上で必要な基本的な姿勢・支援の方法が身につくよう教授する。
59	看護学科	看護管理学	平井 三重子	4	2	看護の対象に質の良いサービスを提供できるようにマネジメントすることは、すべての看護専門職に要求される。 看護専門職が持てる能力や技術を有効に用い相互協力し、良いチームづくりを通して、看護に対する意欲を高めることができるよう条件を整えたり、他の社会資源を活用することにより発展的変化への視野にたった看護サービスを提供することが看護管理に求められている。 看護サービスの質を向上させるため、個々の看護実践を有効に役立てて管理するための理論やシステム、看護制度・政策等を理解し、効果的なヘルスケアの構築について考察する。 この授業では、認定看護管理者の講義や実務経験のある教員の講義を受講することにより、実践的な看護管理の教育を目指す。
60	看護学科	公衆衛生看護学概論	齋藤 公彦	3	2	公衆衛生看護学の理念と目標を理解し、地域で生活する人々への健康支援に関わる基本的な概念や特徴を学ぶ。さらに、地域を基盤とした予防活動の実際、個人・家族・集団を含むコミュニティと看護職との関わりについて理解を深める。 ※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
61	看護学科	環境と対象の理解実習	内田 史江	1	1	本実習は、患者の生活の場である病院・病棟の構造・機能を理解し、入院生活が患者にもたらす影響について学習するとともに、看護職者や他の医療専門職者と接し、各役割とチーム連携・協働の必要性について理解していく。また、日常生活行動に制限や健康障害のある対象の生活援助の場に参加することで、コミュニケーションを通して命の尊さを理解し、人間を統合体として捉えたケアの個別性について考える。指導には、看護職としての臨床経験があり、看護師教育および学生指導の経験がある教員がその経験を活かし実習指導を行う。
62	看護学科	看護技術の基礎実習	福田 久仁子	2	1	【実習の目的】 1. 医療施設における看護の機能・役割を理解する。 2. 病院で療養生活を送る対象を理解し、援助的な人間関係を形成する力を高める。 3. 日常生活援助を体験し、対象の状況に合わせた看護援助の方法を理解する。 4. 看護をおこなう職業人としての必要な態度を身につける。 本実習は、見学と体験を通して、医療環境および入院生活による基本的ニーズに基づく日常生活への影響について学習するとともに、看護職者や他の医療専門職者と接し、各役割とチーム連携・協働の必要性について理解していく。また、日常生活行動に制限や健康障害のある対象の生活援助の場に参加し、コミュニケーションや観察、看護援助の体験を通して命の尊さを理解し、人間を統合体として捉えたケアの個別性について考える。指導には、看護職としての臨床経験があり、看護師教育および学生指導の経験がある教員がその経験を活かし実習指導を行う。
63	看護学科	看護展開の基礎実習	中川 名帆子	2	2	一連の看護過程を体験的に学び、対象の個別性を考慮した看護を実践するための方法を理解する。また、基礎的な看護技術の実践能力および看護者としての倫理的態度を養う。看護に共通する方法や技術を学習することを目的とし、領域実習へと展開させる基礎となる実習である。 本科目は、臨床経験を有する教員が、少人数グループの学生を引率して指導にあたる。
64	看護学科	地域・生活支援看護学実習	木宮 高代	3	1	疾病や障害をもち地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを理解し、人々の生活環境や地域包括ケアシステムについて理解する。 在宅福祉と施設福祉を利用する人々との交流を通して、利用者の日々の生活を理解し、課題について考える。 地域住民自らが健康を維持し、健康寿命を全うできるよう支援することができる基礎的知識を修得する。 地域で生活する人々の健康維持・増進、疾病の予防・看護・対策を実践をした経験のある教員が、その経験を活かして実践的・具体的な看護の在り方について実習を行う。 看護師として臨床経験のある教員の指導の下、地域で生活する人々を対象とした看護について学修する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
65	看護学科	地域・在宅看護学実習	平井 三重子	3	2	地域で生活する疾病や障害をもつ療養者とその家族を統合的に理解し、療養者の生活の継続・QOL向上のための在宅ケアの実際を理解すると共に、在宅ケアにおける看護師の役割を理解する。 この実習では、介護支援専門員等の実務経験を持つ教員がその経験を活かし、学生の学びを支援します。訪問看護ステーションにおいては経験豊富な訪問看護師が学生と1:1で訪問して一緒にケアをしながら、学生の気づき・学びを支援します。在宅看護関連施設においては、施設の責任者・指導者が学生の学びが深化するよう働きかける。
66	看護学科	成人看護学実習	平川 幹子	3	5	1. 成人期で慢性期・終末期の健康段階にある患者およびその家族が、健康の維持・増進、あるいは平和な死に向けて、自らの生活を調整できるための看護支援について学習する。 2. 成人期で急性期の健康段階にある患者とその家族が、急激に変化する健康状態から回復巣へ向けて日常生活を再構築するための看護援助について学習する。 3. 保健医療専門職チームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づく総合的かつ継続的な看護実践能力を養う。臨床経験豊富な教師、臨地実習指導者の指導の下、多くの経験ができるようサポートを受け実習を行なう
67	看護学科	老年看護学実習	木宮 高代	3	3	人生の完結期にある高齢者を総合的にとらえ、加齢による心身機能の変化を基盤に老化や健康障害による問題を把握し、対象となる高齢者の尊厳と倫理的配慮に基づき、高齢者のQOLの維持・向上を目指した看護実習を行う。 本実習では、健康課題のある老年期の対象者とその家族への看護を展開し、加齢に伴う生理的機能変化が身体的・心理的・社会的に及ぼす影響、系統的な問題解決能力、習得した知識・技術を統合させ、老年看護を実践するための知識・技術・態度を養う。 本実習では、看護師として高齢者・認知症高齢者・終末期患者の入院および外来看護、救命救急看護の経験、看護学生への実習指導の経験がある教員が実践的内容に即して教授する。施設の臨床指導者と連携し多面的な課題への対応を指導する。
68	看護学科	小児看護学実習	田村 美子	3	2	乳児・幼児・学童・思春期各期の特徴と、その子どもを取り巻く家族を理解し、子どもとその家族の発達段階や健康レベルに応じた看護を実践できる能力を養う。 看護職として病院における臨床経験のある教員の指導のもと、小児看護学の臨地実習を行う。
69	看護学科	母性看護学実習	藤原 弘子	3	2	現代の少子時代における母子を取り巻く環境、および周産期にある対象のニーズにあった母子への個別的・継続的支援の実際を学習し、母子保健における今後の看護職の役割を考察することを目的とする。周産期にある妊産褥婦・新生児の看護の基本を学ぶために、病院での実習を小人数グループで行う。ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、対象者がセルフケアによって安全で快適な妊娠生活、分娩期、産褥期を過ごし、新しい家族関係が構築できるように支援できる基礎的能力を養う。 ＊看護師・助産師として臨床経験のある教員が、その経験を活かして妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある対象の理解とその看護について、具体的な内容を教授する。
70	看護学科	精神看護学実習	松本 陽子	3	2	精神に障害をもつ対象との出会いを通して対象者の理解を深め、セルフケア能力の保持・増進にむけた援助を実践する。看護者として、一人の人間として自己を振り返り、自己洞察を深めながら対象者との関係を築く能力を養う。また、精神に障害をもつ対象者を、社会に生きる生活者の視点で捉え、その人にとっての社会参加のあり方を考える。精神看護領域における保健医療福祉チームとしての看護職の役割を理解し、チームの連携が退院促進を円滑にすることを理解する。 この授業では、精神科臨床経験のある教員と地域における精神看護の経験のある教員が、その経験を活かし、実践的な課題への対応を指導します。
71	看護学科	統合看護学実習	高垣 由美子	4	2	統合看護学実習では、これまでの各看護領域の学びを生かし、看護チームの一員として複数の患者を同時に受け持ち、看護援助を行うことで、実務に即した実習を経験し、優先順位・時間管理・安全を考慮した看護について学ぶ。また、保健医療チームにおける多職種との協働やリーダーシップ・メンバーシップ、看護管理などについて理解し、看護者に期待される役割を学ぶ。 保健医療チームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づく総合的かつ継続的な看護実践能力を養う。
72	看護学科	総合看護学演習	大元 雅代	4	2	1. これまでに学んだ看護の専門的知識と技術をふまえ、科学的思考、的確な判断に基づいたケアを安全・安楽・倫理的に配慮し実践できる能力を養う。 2. 上記の学修過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。 保健医療機関で経験のある教員が、その経験を活かして、看護の専門的知識および技術を指導する。
73	看護学科	公衆衛生看護技術論Ⅰ	笹木 佳子	3	2	家庭訪問では、療養者または乳幼児の生活の場に出向き、療養者本人・家族または育児者との信頼関係のもとで、責任をもって看護援助を行わなければならない。昨今の情勢において、必ずしも行政保健師だけではなく、訪問看護ステーションや地域包括支援センターに所属する看護職としても必要な知識であり、対象の援助ニーズを生活の中で把握し、家庭生活・地域社会生活にみあった方法で援助を行っていく方法を学習する。 ※保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた保健活動の実際について具体的に教授する。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

No.	学部・学科	講義名称	代表教員名	履修年次	単位	授業のねらい、概要
74	看護学科	公衆衛生看護技術論Ⅱ	笹木 佳子	3	2	健康相談は、保健指導の技術を駆使して行われる個別援助活動である。健康相談で目指すのは、相談者の健康問題の解決や生活改善、不安の緩和や安寧である。 相談を通して相談者の悩みや問題をもたらしている生活を理解し、悩みを共感的に受け止めていくことを基本に、専門的な立場から技術や知識を伝える教育的な働きかけや、相談者自らが問題を解決していくための継続的支援を行う。また、相談者と信頼関係を築き、相談者の主体性を尊重した援助関係を大切にした支援方法の学習を行う。 ※保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた保健活動の実際について具体的に教授する。
75	看護学科	公衆衛生看護技術論Ⅲ	長野 扶佐美	3	2	公衆衛生看護における対人支援技術である健康教育とグループ支援を本講義では学修する。健康教育とは、住民自らが健康状態を認知自覚して健康実現を図ることのできる能力を身につけるための学習を支援する営みである。地域住民の健康課題を解決するために保健師が捉える健康教育の視点は、対象の心身の状態を主軸に、それに関する生活・労働・環境の問題を視野に入れて展開していくことが必要である。本講義では、健康教育の対象とその健康課題を明確化し、住民の問題意識行動変容を促す保健行動・モデルを活用した健康教育の実際について講義・演習を通して学ぶ。グループ支援についてはそのグループの健康課題の解決について、グループの目的に応じた支援方法について、講義・演習を通じて学ぶ。 行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
76	看護学科	公衆衛生看護活動論Ⅰ	長野 扶佐美	3	2	公衆衛生看護は、地域で生活している個人、家族、集団を対象に、その健康レベルや地域特性に応じて、健康の維持・増進・疾病の予防・病気からの回復を助ける活動である。本講義では、保健師が公衆衛生看護を展開する場である行政(市町村)の中での、対象別の基本的な公衆衛生看護活動について理解する。 ※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
77	看護学科	公衆衛生看護活動論Ⅱ	長野 扶佐美	3	2	本項では、地域精神、障害者(児)、難病、感染症、歯科口腔の心身の健康問題や、災害の場など、対象が置かれている状況において、保健活動がどのように行われているか学習する。 地域精神保健活動では、精神障害者のおかれてきた状況や歴史的背景を知り、保健師は、地域全体が精神障害者の対応や理解を深めることにより、精神障害者の生活の場の拡大とネットワークづくりを行い、地域全体の組織的な力の向上を目指すことを学習する。 障害者(児)、難病保健活動では、障害者(児)や難病患者の保健医療福祉の動向、施策の概要を理解し、対象者の自立支援・社会参加支援の方法を学習する。 感染症では、様々な感染症への対応・予防活動について具体的に学習する。 歯科口腔では、ライフサイクルに応じた対応策を具体的に学習する。 *1.行政保健師として障害者、難病者等の健康問題に関わり、健康課題の特性に応じた活動を展開した経験のある教員が、理論に基づいた地域活動の展開方法について具体的に教授する。
78	看護学科	公衆衛生看護活動論Ⅲ	齋藤 公彦	3	2	本項では、施設保健として、学校保健及び産業保健について学習する。学校保健では、児童や生徒及び教職員の健康管理として、環境衛生や健康診断・食育・運動・歯科保健についての保健教育や保健管理の方法や必要性について学習する。また産業保健については、職場での環境衛生や労働衛生・特定健康診断・特殊健康診断・メンタルヘルスなど、対象者と家族を踏まえたトータルヘルスプロモーションの視点で援助できるよう学習する。職場での労働衛生・健康診断・メンタルヘルス等の指導実績のある教員が教授する。
79	看護学科	公衆衛生看護管理論Ⅰ	長野 扶佐美	3	2	本項では、対象者に対する公衆衛生看護活動を推進するために、地域管理マネジメント機能や保健活動の基盤である地域診断について、学修するとともに、保健師活動の展望について考える。 *1.行政保健師として公衆衛生看護活動の実践経験や管理職経験を持つ教員が、その経験を生かして公衆衛生看護としての管理機能について具体的に教授する。
80	看護学科	公衆衛生看護管理論Ⅱ	長野 扶佐美	3	2	本項では、対象者に対する公衆衛生看護活動を推進するために、保健師が実施する地域保健活動計画や計画地域ケアシステムづくり、平常時から災害発生時の健康危機管理について学習する。 *1.行政保健師として公衆衛生看護活動の実践経験や被災地への派遣経験、管理職経験を持つ教員が、その経験を生かして公衆衛生看護としての管理機能について具体的に教授する。
81	看護学科	公衆衛生看護学実習	齋藤 公彦	4	5	地域特性や地域住民の生活を理解し、地域住民の健康の維持・増進を目指した地域看護活動を実践する基礎的能力を養う。 労働と健康との関連性を作業環境、作業方法等の労働環境を含めて学習し、働く人々の健康管理を行う産業保健活動と、その活動を行う労働衛生チームとしての産業保健管理の機能、目的、役割について理解する。同時に職業に伴う健康障害の予防、健康保持、疾病悪化防止等と、労働者の適正配置とQOLを支援する活動について学ぶ。 ※行政保健師として公衆衛生看護を展開してきた教員が、理論に基づいた健康教育の実際について具体的に教授する。
単位数(合計)					121	